

# 躍進

3.11  
PM2:46

## 東日本大震災







震源地

2011年3月11日14時46分、三陸沖

(北緯38・1度、東経142・9度、牡

鹿半島の東南東130 km付近) 深さ24 km、

マグニチュード9・0の巨大地震が発生、

宮城県栗原市で最大震度7を記録。岩手

県、宮城県、福島県を中心に大津波が襲

来。海上保安庁は宮城県沖牡鹿半島沖の

震源付近海底が約24 m移動したと発表。

政府は福島第一原発原子力発電所の事故

で「原子力緊急事態宣言」を出し福島第


一原発から半径3〜10 kmの住民に避難を

指示。翌12日、福島第一原発1号機が炉

心を冷却できずに水素爆発を起こし避難

指示を半径20 kmに拡大。





3月22日、不通になっていた東北新幹線、盛岡〜新青森間で運転を再開。

宮城県で震災で発生したガレキが23年

分の量と発表。4月7日、宮城県で震度

6強の余震が発生。東北新幹線、東京〜

新青森間の全線が復旧。2012年7月

8日現在宮城で9523人（行方不明者

1514人）、岩手で4671人（12

14人）、福島1606人（212人）全

国で15866人（2946人）の犠牲

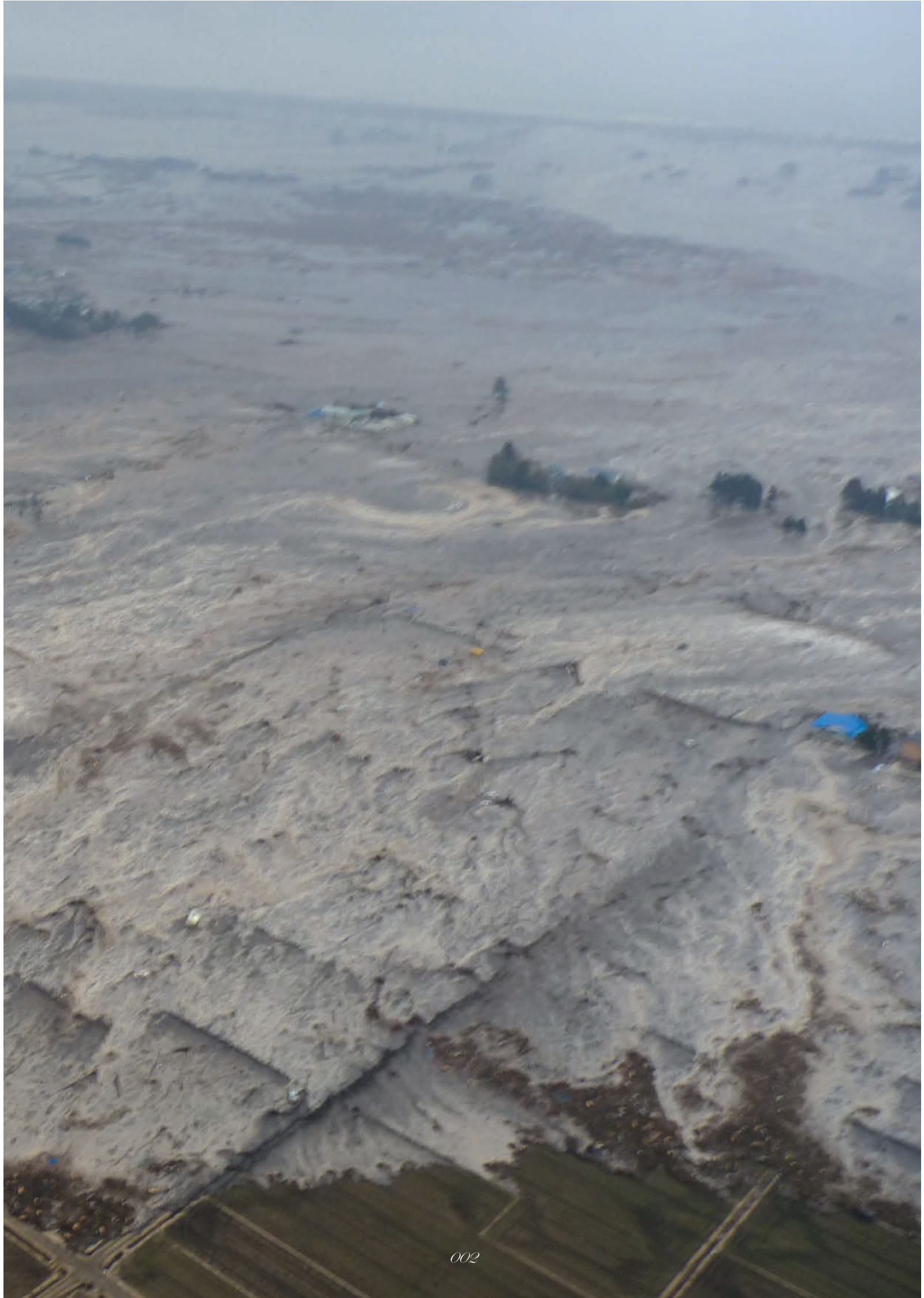
者を出す大参事となった。

※写真は津波の引き波で海に流された重機  
（宮城県東松島市野蒜）

#### 表紙説明

東日本大震災の影響で仙台市宮城野区のマンション「サニーハイツ高砂・SRC造14階 189戸」のA棟が傾斜し倒壊の危険があるとして仙台市から組合が解体・撤去処理業務委託を受ける。







地震発生からおよそ1時間が経過したころ、未曾有の大津波が仙台市の東部沿岸地域に襲来。





- ① 地震直後に避難する仙台市民。
- ② 地震によって机上のパソコンなどが倒れる。(仙台市青葉区)
- ③ 仙台市地下鉄、台原～泉中央駅間の橋梁が地震によって損壊。
- ④ 地震によって地滑りで住宅が倒壊。(仙台市青葉区)
- ⑤ 仙台新港付近で火災発生。





①





2





①～③ 宮城県気仙沼市に襲来した大津波。

①



③





② 仙台市消防ヘリコプターや自衛隊機による救出活動が続けられた。





- ① 大津波に襲われた仙台市東部地域の荒浜小学校は湖のように冠水し、大勢の児童や住民が屋上に取り残され救助を求めた。(2011年3月11日)

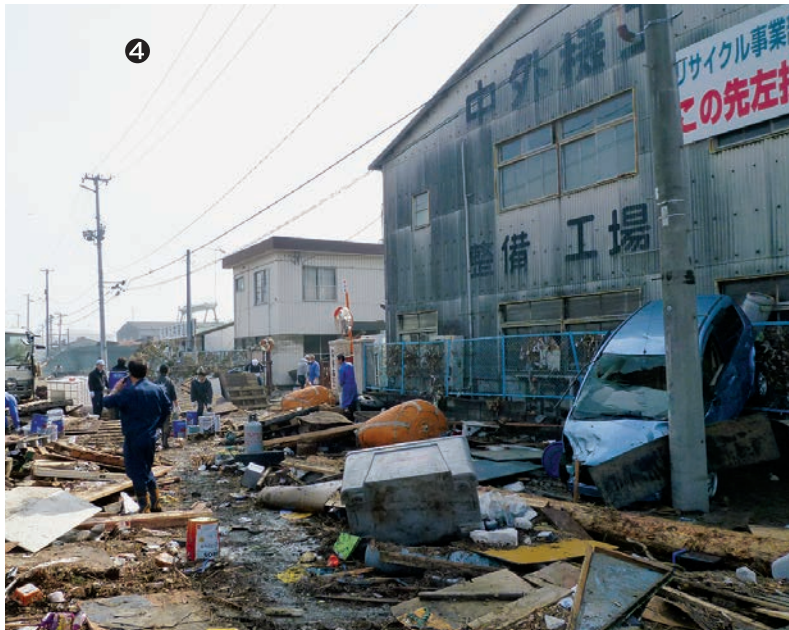
①





④⑤⑥ 津波によって車やガレキが流入した工場。（仙台市宮城野区）

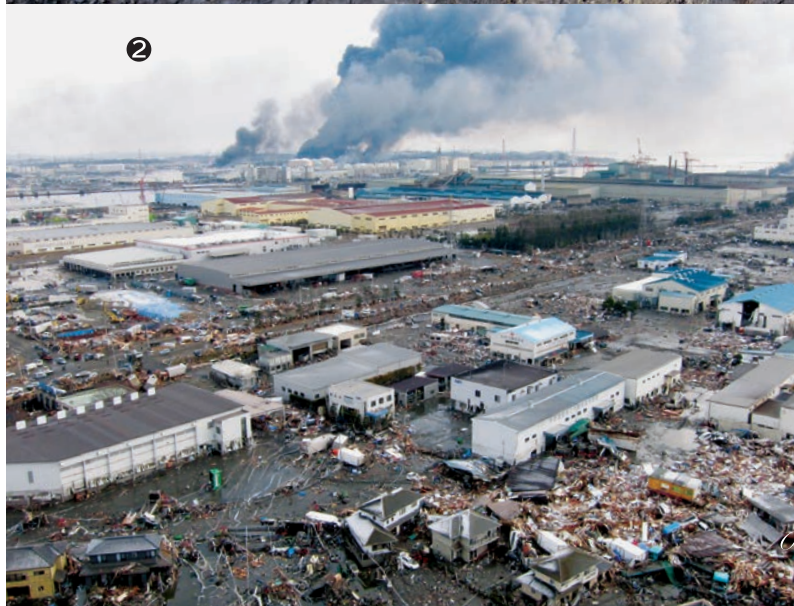
⑦ 大津波に襲われる岩沼市にある県南浄化センター。





①② 津波の後、炎上する仙台新港付近。

③ 津波によって車やガレキが流入した工場施設内。(仙台市宮城野区)





- ① 指定避難場所となっている市立学校の体育館には、想定を超える避難者が集まり、備蓄の食糧、水、毛布などが全てが底をついてしまった。(2011年3月仙台市内)
- ② ガソリンを求めて早朝から延々と続く車の列。
- ③ スーパーなどには、開店前から長蛇の列ができた。





# 主な被害状況など

(2012年7月24日現在)



- 八戸市 津波により住宅約650戸が全半壊、死者1人、行方不明者1人
- 洋野町 漁船、JR鉄橋の流失多数、被災住宅20棟
- 久慈市 国家石油備蓄タンク4基が破損、死者2人、行方不明者2人
- 野田村 沿岸約400棟の被害甚大、死者38人
- 普代村 漁港の被害甚大
- 田野畑村 家屋倒壊約200棟、死者14人、行方不明者15人
- 宮古市 4500棟全半壊、死者420人、行方不明者96人
- 山田町 死者604人、行方不明者152人
- 大槌町 死者803人、行方不明者474人
- 釜石市 沿岸部は壊滅、死者888人、行方不明者154人
- 大船渡市 住宅全壊約3629棟、死者340人、行方不明者81人
- 陸前高田市 5000世帯水没、岩手県内で最大死者数1555人、行方不明者225人
- 気仙沼市 大規模火災が3カ所で発生、死者1105人、行方不明者260人
- 南三陸町 町中心部の沿岸部は壊滅、死者590人、行方不明者244人
- 石巻市 石巻市街地水没住宅約2万8000棟全壊、宮城県内最大死者数3236人、行方不明者493人
- 女川町 死者577人、行方不明者327人
- 1～3号機が自動停止。建屋で水漏れ約20カ所
- 東松島市 死者1059人、行方不明者42人
- 七ヶ浜町 死者70人、行方不明者4人
- 多賀城市 死者188人
- 仙台市 若林区や宮城野区で津波被害、死者654人、行方不明者31人、2700世帯が流失
- 名取市 閑上地区など沿岸で津波被害、死者911人、行方不明者45人
- 岩沼市 死者181人、行方不明者1人、仙台空港一時機能不全に
- 亘理町 死者246人、行方不明者11人
- 山元町 沿岸部が壊滅。死者681人、行方不明者18人
- 相馬市 津波被害甚大。死者469人
- 南相馬市 約1800世帯が壊滅。死者947人
- 1～4号機の原子炉建屋で爆発や損傷。
- 1～3号機の炉心で部分的な溶解。放射性物質漏えい
- 20～30キロ圏内8市町村の住民に屋内退避要請
- 20キロ圏内10市町村の住民に避難指示
- 双葉町 全域が避難指示圏内に、死者74人、行方不明者1人
- いわき市 死者424人、行方不明者37人

**× 震源 (M9.0)**  
3月11日午後2時46分

女川原発

福島第1原発  
福島第2原発



## 東日本大震災概要と被害

発生日時：2011（平成23年）3月11日14時46分

地震名：平成23年東北地方太平洋沖地震

震源地：三陸沖（北緯38度06.2分、東経142度51.6分、深さ24km）

規模：マグニチュード（M）9.0

宮城県内の震度：震度7強 栗原市

震度6強 仙台市宮城野区

震度6弱 青葉区、若林区、泉区

震度5強 太白区

津波：3月11日14時49分太平洋沖に大津波警報

津波警報：北海道太平洋沿岸東部・中部・西部、青森県太平洋沿岸、岩手県、宮城県、福島県、茨城県、千葉県九十九里・外房、伊豆諸島

津波の高さ：仙台港7.2m 荒浜9.4m

仮設住宅建設戸数：22,095

仮設住宅建設箇所数(団地数)：406

みなし仮設(民間賃貸住宅の借り上げ)戸数：26,050

## 仮設住宅への家電製品等の支援

日本赤十字社は海外の赤十字社から受け取った救援金を使って、公営住宅や民間賃貸住宅を含む仮設住宅として扱われている世帯、約7万世帯に生活家電6点セットを寄贈しています。

※生活家電：炊飯器、洗濯機、TV、冷蔵庫、電子レンジ、電気ポット

## 支援物資が届かない

支援物資は全国から被災地の市役所指定の倉庫には届いていたが、市町村の行政による指定避難所までのルートとガソリン不足で多くの物資が避難所まで届かなかった。これは、市町村指定の避難所は定員オーバーしたり、被災した避難所の代わりとして、民家や神社、企業の店舗（ショッピングセンター等）が民間避難所となったため、物資を運ぶ必要のある場所が続々と増え、配送のルートの決定に時間がかかったり、ガレキの山と浸水で道路は交通が制限された状況だった。最終的に避難所は2000ヵ所、避難者数は30万人を超えた。米軍が直接ヘリで避難所へ救援物資を届けてくれたケースもあった。

## 2次避難所について

仮設住宅に入居できるまでの間、第1次避難所での厳しい生活環境を改善したり、集団感染を避けるためにも、行政が民間の宿泊施設（旅館、ホテル等）を借り上げたり、公営住宅を提供するのが2次避難所です。

※受け入れる際の「被災者」の定義は、国から災害救助法の適用が指定された市町村の方々。

2次避難所の斡旋は全国の都道府県でも協力して行なわれ6ヵ月間をメドに公営住宅を提供してくれました。ほとんどの公営住宅は、避難所なので原則宿泊料は無料ですが、それ以外の光熱費や共益費は自己負担。公営住宅だけでなくホテルや旅館等の有料施設に対しても災害救助法を用いて1泊5000円まで国から支援が受けられることが通知され、自治体による2次避難所の斡旋が促進されました。また施設までの移動費用も国の負担で賄われました。



# 災害廃棄物処分量の見直しが行われました。(2012年5月)

## (見直し理由)

- ◆市町による災害廃棄物の一次仮置き場への集積が進み、県が受託する処理量の把握が可能になってきたこと
- ◆被災家屋について、解体棟数が大幅に減少する見込みであること
- ◆相当程度の災害廃棄物が海洋に流出したままと見込まれること
- ◆広域処理の要請に当たり、詳細な種類別処理量の精査が必要なこと

[各ブロックごと件受託処理量の比較] 単位：万t

ブロック名	見直し前	見直し後	増減	受注業者(当初契約時)	金額(当初契約時)
気仙沼	109	109	0	大成建設・ハザマ・五洋建設・東急建設・西武建設・安藤建設・深松組・丸か建設・小野良組・阿部伊組JV	484億0500万円
南三陸	51	28	-23	清水建設・フジタ・鴻池組・東亜建設工業・青木あすなる建設・銭高組・浅野工務店JV	219億5130万円
石巻	685	312	-373	鹿島建設・清水建設・西松建設・佐藤工業・飛鳥建設・竹中土木・若築建設・橋本店・遠藤興業JV	1923億円6000万円
宮城東部	45	30	-15	JFEエンジニアリング・鹿島建設・鴻池組・飛鳥建設・橋本店・東北重機工事JV	235億2210万円
名取	26	29	3	西松建設・佐藤工業・奥田建設・グリーン企画建設・上の組・JV	162億0150万円
岩沼	38	32	-6	ハザマ・奥田建設・上の組・春山建設・佐藤建設JV	237億8250万円
亘理	86	50	-36	大林組・戸田建設・鴻池組・東洋建設・橋本店・深松組・春山建設JV	543億2700万円
山元	51	74	23	フジタ・東亜建設工業・青木あすなる建設・大豊建設・本間組・河北建設・佐藤建設JV	330億7500万円
宮城県直接分※	16	12	-4		
合計	1,107	676	-431	※宮城県直接発注分：女川町から東京都への搬出分等	

## (仙台市内発生量)

仙台市処理 …………… 135万t

蒲生搬入場内仮設焼却炉賃貸借

JFEエンジニアリング …… 19億4400万円

荒浜搬入場内仮設焼却炉賃貸借

川崎重工業 …………… 38億

井戸搬入場内仮設焼却炉賃貸借

日立造船 …………… 15億9600万円

## (人的被害)

	直接死	関連死	合計	行方不明者
	人	人	人	人
仙台市	654	209	863	31
石巻市	3236	209	3445	493
塩釜市	31	14	45	1
気仙沼市	1105	98	1203	260
白石市	0	1	1	0
名取市	911	32	943	45
角田市	0	0	0	0
多賀城市	188	25	213	0
岩沼市	181	4	185	1
登米市	0	8	8	0
栗原市	0	1	1	0
東松島市	1059	57	1116	42
大崎市	2	4	6	0
蔵王町	0	0	0	0
七ヶ宿町	0	0	0	0
大河原町	0	2	2	0
村田町	0	0	0	0
柴田町	2	3	5	0
川崎町	0	0	0	0
丸森町	0	0	0	0
亘理町	246	17	263	11
山元町	681	16	697	18
松島町	2	5	7	0
七ヶ浜町	70	3	73	4
利府町	10	0	10	0
大和町	0	1	1	0
大郷町	1	0	1	0
富谷町	0	0	0	0
大衡村	0	0	0	0
色麻町	0	0	0	0
加美町	0	0	0	0
涌谷町	1	0	1	2
美里町	0	1	1	0
女川町	577	18	595	327
南三陸町	590	20	610	244
計	9547	748	10295	1479

## (住宅被害)

	全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	火災
	棟	棟	棟	棟	棟
仙台市	29,817	107,843	115,571	調査中	39
石巻市	22,357	11,021	20,364	6,821	23
塩釜市	757	3,713	6,082	2,606	7
気仙沼市	8,483	2,568	4,634	調査中	8
白石市	40	566	2,171	0	1
名取市	2,801	1,129	10,061	3,403	12
角田市	13	159	1,006	0	0
多賀城市	1,746	3,729	5,978	調査中	15
岩沼市	736	1,606	3,070	1,611	1
登米市	200	1,692	3,340	0	5
栗原市	58	372	4,552	0	0
東松島市	5,503	5,562	3,512	調査中	1
大崎市	592	2,418	9,129	0	3
蔵王町	16	154	1,128	0	0
七ヶ宿町	0	10	0	0	0
大河原町	10	146	1,333	0	0
村田町	9	115	645	0	1
柴田町	13	189	1,869	0	0
川崎町	0	14	443	0	0
丸森町	1	38	513	0	1
亘理町	2,536	1,199	2,414	797	3
山元町	2,217	1,083	1,138	不明	0
松島町	221	1,588	1,551	192	2
七ヶ浜町	675	648	2,598	調査中	0
利府町	56	899	3,525	45	0
大和町	42	268	2,768	0	0
大郷町	50	274	781	0	0
富谷町	16	533	5,288	0	1
大衡村	0	19	764	0	0
色麻町	0	15	215	0	0
加美町	8	35	749	0	0
涌谷町	143	734	987	0	0
美里町	129	627	3,130	0	2
女川町	2,923	347	662	調査中	5
南三陸町	3,142	173	1,210	不明	5
計	85,310	151,486	223,181	15,475	135

(宮城県ホームページより)





協定書に調印する  
高田理事長 梅原市長



2008年、仙台市との協定  
(役職は当時)

上左から、橋本啓一市義、佐々木事務長、橋本理事、佐藤正昭市義  
下左から、甘木副理事長、高田理事長、梅原克彦市長、佐藤専務理事

# 大規模災害事前に想定

～宮城県、仙台市と発災時の協力協定終結～  
解体現場を提供した合同訓練も

組合では、東日本大震災（2011年3月11日）以前から、高い確率で発生が予想されていた宮城県沖地震や広域的な大規模地震災害を想定し、震災時の防災協定を宮城県と1999年、仙台市と2008年に「大規模災害時における建物解体等の協力に関する協定」を締結しています。



協定だけではなく、災害時の連携強化を図ろうと、2007年に初めて解体現場を使用した合同訓練を行いました。

訓練には、解体現場を使用することで地震発生時に救助技術の向上や現場における二次災害の発生防止、円滑な連携関係を実践的に築くことを目的とし年に二回程度を実施しています。





仙台市消防局と合同訓練の第一回目の打合せ(仙台市消防局内 2007年8月)



訓練の活動を指揮するハイパーレスキュー隊員(仙台市太白区 宮城大学食産学部学生寮解体現場 2007年8月)



東北管区広域緊急救助隊との合同訓練  
(宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉 スパエール蔵王解体現場 2008年9月)

東北管区警察広域緊急援助隊及び東日本地区特別救助班ら約500人が訓練を行った。







宮城大学食産学部学生寮解体現場を提供して訓練に参加する隊員。



屋上の要救助者救出訓練。



エレベーター内に閉じ込められた要救助者を想定した救助訓練。



絆





## 未曾有の作業を経験した 仲間たちの記録集

宮城県解体工事業協同組合  
理事長 佐藤 正之

2011年3月11日午後2時46分、還暦を迎える私にとって、かつて経験したことのない地震の揺れが起こり、自宅の中のものがメチャクチャに倒れ散乱しました。とても自宅の中にいられる状態ではなくなり、自動車の中に避難し、テレビを着けたところ大津波が襲来する避難報道が出ました。その後は、実際の津波の様子がテレビに映し出され、何か映画でも見ているような、実際に起こっていることなのに、実感として信じられない光景が繰り広がっていました。石油基地の火災、燃える気仙沼湾、助けを求める人々の姿。まさに地獄そのものでした。多くの方が犠牲になった日本の歴史的な大災害でした。

しかし、その後の国民の行動が、世界の人々を驚嘆させたことも事実です。災害時の大混乱の中でもパニックに陥らず粛々と物事を進めていく姿、即座の救援行動、ボランティア活動等です。また、この大災害によって、大きな絆が、いろいろな場面で実感も出来ました。この絆は、日本国内のみならず、全世界の人々が、他国の、他人の大きな悲しみ不幸に対して、何もせずにはいられないという気持ちの発露をうみました。日本人の強さ、人類の強さの根源を垣間見たような気がします。大きな困難が、人々の心の奥底に眠っているものを呼び起こすのかもしれない。

私たち、宮城県解体工事業協同組合は解体工事業を営む事業者の団体です。平成11年から順次、宮城県、県内市町村との防災協定を締結してきました。このような災害に備えて締結してきましたが、あまりにも事態が深刻で広範囲だったこともあり、すべての行政組織と連絡を取ることはできませんでした。震災当日の夜に仙台市消防局に出向き当組合のすべきことの指示を待っている旨を伝えました。そこから、様々な活動が始まってきました。

この記録集は、自社も被災し、自身の家族も被災、避難している中で活動してきた社長、社員、作業員の記録集です。平常時の作業とは違った、惨憺たる状況になった地元、地域の中での緊急作業、救助作業、遺体捜索活動という仕事を通して彼らの心に映ったこと、思ったことを綴ったものです。今になって振り返ると、作業に当たってくれた方々は、受動的に仕事をこなすということではなく、自身に降りかかった困難を主体的に克服した、というふうに思います。

つたない表現、文章ではありますが、作業をしている彼らの姿を思いながら読んで頂ければ、幾らかでも彼らの気持ちが伝わるのではないかと思います。





## 業界の底力

宮城県解体工事業協同組合顧問

仙台市議会議員 佐藤 正昭

今、私は、皆様の組合の顧問をさせていただいていることに、心から感謝するとともに誇らしく思っております。それは、皆様が、仙台市の震災からの復旧において、持てる力を十分に発揮され、市民の生活の再建に本当に大きな役割を果たしてこられたと考えるからであります。

さて、今回の震災においては、仙台市の震災廃棄物処理は、極めて迅速かつスムーズだと、全国から感嘆の声が聞こえております。それは、皆様の組合をはじめ、地元の企業が主役として事業にあたり、そして、独自のノウハウを蓄積して、立派な仕事を成し遂げてこられたことがあるからです。仙台市としましても、信頼できるパートナーとして皆様に大きな仕事をお任せしました。これは、皆様が、将来を見据え、災害時に果たすべき自らの役割を自覚され、行政と災害時の協定を締結し、また、組合の仕事の内容や力量を、折に触れ仙台市の各部局に説明してきたことが、結実したものとも言えます。私も、皆様と各部局の連携の素地を作ることに関わったことが、スムーズな廃棄物処理の一助となれたものと密かな満足を感じております。

今回の震災において、皆様のご協力がなければ、仙台市の復旧はもっと遅れておりました。発災直後の救助、消防活動に不可欠の道路を確保するため、相当の危険もあった中で実施していただいた道路の啓開活動に始まり、震災廃棄物処理において、その要としてこれまで活動されてきた実績は、将来に向けて組合の誇るべき歴史になるものです。まさに、公的な活動の場において、業界の底力を社会に見せつけたともいえます。

この経験を、全国に発信していただくことは、被災地の責務であり、これからの災害発生時の減災の観点からも大変重要なことでもあります。是非、積極的に発信していただきたいと思っております。

皆様は、最大200班、1,000人での作業体制を用意し、作業工程を綿密に調整しながら、これまで4,500件余りの損壊建物を適切に撤去してこられました。また、解体業業界の高い技術力を発揮し、難しいと言われる傾斜した高層マンションの解体にも取り組んでこられました。これらを通じ、市民からも他の事業者からも皆様の仕事ぶりについて、高い評価が寄せられております。是非、今回の作業で得られた経験や信用をこれからの皆様の事業活動に活かされ、それぞれの事業の発展に繋がられますことをご期待いたしますとともに、宮城県解体工事業協同組合のさらなるご発展を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。



## “不屈の精神”

宮城県解体工事業協同組合 顧問  
仙台市議会議員 橋本 啓一



9,918件。これは平成24年6月30日現在、仙台市が受けた損壊家屋等の解体・撤去件数であります。当初見込んでいた約9,000棟を大きく上回り、受付期限（平成24年9月末）までの解体見込みは、約11,000棟を大きく超えると予想されています。現在、およそ7,800件の工事が完了し、約4,000件を超す施工を宮城県解体工事業協同組合が担っております。東日本大震災から1年数ヶ月が経ち、仙台市民の生活は一定の落ち着きを取り戻しつつあります。この間、未曾有の大震災からの迅速な復旧・復興を果たすために、国内外の多くの方々のご支援、ご協力によってその取組が進められて参りました。

中でも、解体組合は先を見据えた仙台市との防災協定締結をはじめ、これまで解体現場を活用した、消防スーパーレスキューとの合同訓練等を行うなど、又、震災発生直後より津波被災地において、先陣を切って救助、啓開活動にあたっていただきました。

今日、仙台市の復旧・復興に向け前述の通り市内の解体工事が進められ、例えば、延べ14,000㎡、14階建ての建築物の解体においては、解体組合の持つ技術でなければ施工できないものなど、国内の建築業界でも特に注目されておる状況にあります。とかく、解体撤去現場においては、騒音や振動等で苦情が寄せられる事が多い中であって、所有者をはじめ近隣の方々から、その丁寧な仕事ぶりに「さすが解体のプロだ」「いい仕事をしてくれる」との評判の声を頂く度に、解体組合の皆様への感謝と喜びを感じるものであります。

そして、今回の施工を通して蓄積された経験やノウハウ等を全国へ情報発信していただき、安心・安全対策の一助とされることを期待するものであります。

今、私たちの前に広がる復興への道は、本当に、険しいものであります。しかしながら、これら困難に怯むことなく立ち向かい、復興を成し遂げること。この事こそが多くの支援をいただいた皆様への恩返しとなり、復興へ向かう我々の責務であると考えております。

これからも“不屈の精神”を胸に、仙台市民105万人の総力を挙げて、新しい時代の防災、環境都市を作り上げていくことをお誓いしご挨拶といたします。



## 県内全域の行方不明者に組合が協力



宮城県警察警備部長  
菅野 敏彦

■ 組合では東日本大震災の津波被害で行方不明になられた方々に捜索協力しました。組合へ依頼した経緯や現場の様子をお聞きました。

**経緯** 3.11以後、沿岸部に山積する大量のガレキ内の行方不明者捜索が始った当初、人海戦術で行っていました。しかし、海からの大量の漂流物やガレキに阻まれ重機が必要不可欠でした。既に、自衛隊は重機を使って啓開活動を行っていましたが、残念ながら県警は重機を保有していません。そこで、組合さんとの合同災害訓練で協力を頂いていた関係もあり、すぐ重機の手配をお願いしたわけです。私は3.11を経験し機会ある度に「一枚の災害協定書よりも常日頃からの顔の見えるコミュニケーションが大切」と繰り返し話しています。

**現場** 当初は1日に1~2台の重機でしたが、最大時で20台の協力を頂きました。現場では、作業が進むにつれ①ガレキを移動する重機、②操作するオペレーター、③ガレキを運搬する産廃トラックが、ユニットで連携しなければ作業は進まないことが分かりました。現場を経験して初めて理解できたことで、今後の貴重な教訓となりました。

ガレキ処理中に、ご遺体を発見した際には重機を止め、その場で記録を取り遺体安置所に移動します。未だ多くの行方不明の方がおり、今後行われるほ場整備などでご遺体が発見される可能性があります。



遺体捜索の終了は 県災害対策本部長が最終的に判断されると思いますが、捜し尽きたと言えるまで終わることは出来ないと思っています。3月11日の一周忌前、2012年2月には120人規模の機動隊などを投入、県内全域の沿岸部を歩いて再度の確認、3月は宮城県全域の沿岸部を対象に数百人を動員し大規模な捜索を予定（H24年1月取材）していますが通常業務でも捜索を行なっていかなければなりません。

**辛いこと** 重機で慎重にガレキを移動しご遺体がないか確認するわけです。大変失礼ですがご遺体はガレキや土と同じ色になっているケースが多く、見逃してしまうこともあるのです。このことが一番辛いです。また、宮城県警職員は年間多数の変死体も検視していますが、他機関の方々は精神的にも大分苦労されたそうです。なおさら、民間人である組合員の重機オペレーターさんや従事された皆さまには大変なストレスがかかっていると思います。心より感謝を申し上げます。

犠牲者の検視につきましては、ゆっくりと丁寧に、特にご遺体の頭部には立たず敬意を払いながら行う事を指示しました。その中で今回の震災では警察官14人が殉職しました。

**取得物** 何十億もの拾得物の届出がありました。中身を確認して所有者に返却しています。思い当たる方は宮城県警ホームページを確認ください。

**暴力団対策の強化** 暴力団関係者が組合に加盟されるのが一番困ります。組合への新規加入などで疑惑がある場合は遠慮なく問い合わせ下さい。

**教訓** 再度、このような災害が襲来した時の対策を見直さなければなりません。宮城県には東北電力女川原子力発電所が立地しており災害での原子力対策も含め、しっかり対策を構築しています。また、コミュニティーごとの地域防災対策を県警でも積極的に働きかけなければと思います。

**組合への要望** 貴組合には大変な協力を頂きました。紙面を通じて改めて御礼申し上げます。今後も、情報提供などの協力をお願いいたします。警察という敷居を取り払っていますので、オファーが無くとも気軽に相談してください。未だ行方不明者の方々の遺体捜索は続いていますので引き続きよろしくお願いたします。

(2012年1月取材)

\*\*\*\*\*

今回の大震災で、警察の動員は述べ33万人、全国で犠牲者1万5867人、(行方不明者2903人、2012年8月7日現在)となった。





仙台市宮城野消防署警防課  
高砂消防分署消防第2係 係長  
(2011年3月時、消防局警防部  
警防課計画救助係主査)

消防司令 あんばい 安倍 朗

## －発災当時の状況

3月11日の地震直後は、津波による泥やガレキで沿岸部に救助に向かいたくても道路が使えないのでどうしようもできない状況でした。その日の夜に上司から協定を締結していた解体組合に協力を要請してみてもどうかと指令を受けました。そして、12日の午後2時頃だったと思いますが、私が解体組合に協力要請するために直接訪問したところ、たまたま佐々木事務長が事務所にいました。佐々木事務長にこれまでの経緯を説明し、「今日の今すぐとは言いませんので何とか翌13日から協力していただけないか」とお願いしたところ、佐々木事務長は「わかりました。13日から現場に入れるように何とかやってみます」と返事をいただきました。そして、佐々木事務長がすぐ組合員に連絡を取り、その日の午後16時から22時過ぎまで掛けて、仙台港のキリンビール工場周辺を中心に蒲生幹線と県道仙台泉線の道路啓開作業に当たってくださいました。私は翌日からの協力を想定してましたので、その対応の早さに本当に頭が下がりました。

そして、翌13日の早朝6時か7時だったと思いますが、佐々木事務長と組合の橋本監事に仙台市消防局本部に訪問してもらい、組合員に連絡を取り、重機とオペレーターの確保に尽力をいただきました。その時はなかなか組合員と携帯電話がつながらず、確保は難しいかなと思ったんですが、なんとか見通しがつき、すぐにキリンビール工場に集合してもらい、その場所から荒浜方面に南下しながら道路啓開に当たっていただきました。南下する先にある仙台市立中野小学校や荒浜小学校の屋上には市民数百人が避難してましたので、どうしても早く陸路を確保する必要があったんです。やはり、空路だけでは救助に限界があります。

## －解体組合とは協定を締結し、震災直前に合同訓練を実施

たまたま、大震災が発生する1ヶ月前に通町一丁目住宅団地解体現場を利用した組合と合同救助訓練を行ったばかりだったんです。ですからそれが生きて、解体組合に要請しやすかったんです。解体組合の皆さんの顔も知ってますし、連絡網もあり連携がスムーズでした。道路をふさぐガレキの撤去は消防の力ではどうにもなりません。やはり

組合皆さんの重機が必要になります。ガレキを撤去して救助訓練を行う合同訓練を通して、どのようなアタッチメントを皆さんが持っているとか分かっていましたから、それも迅速な協力要請につながりました。

## －道路啓開と消火活動にも協力

大震災発災後、仙台港付近の工場では火災が発生しており、辺りはガレキだらけで鎮火までかなりの時間が必要になる状況でした。そこで解体組合に協力を要請しました。しかし、われわれはプロですが、解体組合員は一般の方々ですので、協力要請へのためらいもありました。その中で解体組合は「やります」と言ってくれました。それから、オペレーターさんがガレキを取り除きながらわれわれが放水するという作業の繰り返しで、現場となった工場の屋根は崩れ落ちる寸前の中での活動でした。

## －一緒に活動した当時の心

私が頭が下がる思いをしたのは、3月13日以降の道路啓開活動です。もし余震が発生し、津波が来たら逃げようのない危険と隣り合わせの現場の中での作業です。われわれは仕事ですから当然の作業ですが、解体組合の皆さんはただ協定を結んでいるというだけで参加していて、ほとんどボランティアの状態です。そのような状況で皆さんがプロ意識を持って道路啓開活動に当たっている姿を見て涙が出ました。この場所で民間人である解体組合の皆さんを余震の津波で亡くすわけにはいかないと強く思いました。

道路啓開活動は、車は常に津波から逃げる方向を向き、地図と勘だけを頼りに重機でガレキをかきわけて進んでいきました。辺り一面が海水でどこがどうなのかさっぱり分からない状況なので本当に危険な現場でした。そして津波で行方不明となったご遺体も発見されることがあり、そういう状況でも皆さんは覚悟を持って淡々と作業に当たっていたので、われわれよりもプロ意識があるなと感じたほどでした。

## －活動を通して、解体組合との連携強化や今後への期待

東日本大震災のような大災害が発生した場合は、われわれの要請がなくても組合独自で自主的に復旧活動に入れるように協定の中身の見直しができれば、もっともっと早く復旧作業が進むのではと考えています。また、災害時の連絡手段について、携帯電話以外にもっと有効な方法はないものかと橋本監事からご意見をいただいておりますので、その辺を改善していきたいと思っています。



宮城県解体工事業協同組合 理事長

佐藤 正之

# 対談

仙台市環境局 局長

萱場 道夫氏





発災直後から、仙台市消防局の要請で人命捜索に係るガレキ除去と道路啓開に出動した組合ですが、その後、震災がれきの撤去と処理を行うに当たって、窓口は市環境局に移りました。それまで双方は事業の関わりがありませんでしたが、双方が未曾有の難局に挑むという強い意思を持ち、市がれき処理事業の受委託を通じて信頼関係を醸成しました。萱場環境局長を訪ね、これまでのがれき処理や今後の被災家屋の解体の見通しなどについてお話を聞き、将来の組合が担うべき役割について確認しました。

## ガレキ分別に長けた 組合の技量を評価

佐藤 本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。3・11の発災直後から、津波被害地域の道路啓開および行方不明者の捜索協力にはじまり、がれき撤去、被災家屋の解体と、これまで当組合は、

組合員企業の有する重機、技術等全てを集結し、組織一丸で取り組んでまいりました。あの混乱の極みの中で、至らない点多々あったと反省する件もありますが、仙台市環境局の激励やご配慮もあって、ようやく震災処理の見通しも立ってきたかな、という実感です。本日は、仙台市の震災がれき撤去く処理そして家屋解体の市行政を一括して担当されてきた環境局萱場局長に当面の市の震災対策をお話をいただきながら、将来の防災対策と解体専門業の在り方などを模索できればと考えています。

萱場 私たちこそ、宮城県解体工事業協同組合（解体組合）さんには、発災直後から大変なご尽力をいただき、感謝しております

す。発災当初、人命捜索のためのがれき除去について、災害協定を締結していた関係で消防局が解体組合さんに依頼しましたが、その後、私どもが捜索完了場所のがれき撤去を解体組合さんに依頼したのが最初の関わりと思います。

佐藤 それまで業務上の接点はあまりありませんでしたしね。そんな中で結果的には当方の存在を認めていただき、その後のがれき処理・運搬等をお任せいただいたこと、深く感謝しております。

萱場 私たちはがれきを片付けるのが仕事ですが、人命捜索をするに当たって、道路啓開により道路脇に寄せられたがれきなどを宮城野区蒲生の搬入場に運んでいただく、それも分別して運んでいただくためには、ノウハウのある解体業者さんが相応しいと判断しました。整然とがれきの分別を行い搬入していただいた姿を見て、この判断は正しかったと思いました。

## 発災時の様子

# れた技量を発揮 業のパートナー





# 対談

**萱場** 発災時、私は議会棟にいましたが、職員は環境局が入居する小田急仙台ビルが倒壊するのではないかと恐怖を感じたそうです。その後、私たちは、市役所本庁舎の会議室、議会棟などを転々としながら、震災当日には環境局の災害対策本部を立ち上げ、家庭ごみなどの収集・処理をどう原状に回復させるのか、地震・津波により大量に発生したがれきをどのように撤去・集積・処理すればよいのかについて、検討・協議を重ねました。家庭ごみの収集については、発災後4日くらいには、市が所有する清掃工場3つのうちの2つが回復する見通しが立ちまして、また、必要となる燃料の確保もできるとの強気の見込みを立て、3月15日から再開することとしました。がれきの撤去については、各方面への調整に1〜2週間を要しましたが、東部の沿岸地区に震災廃棄物搬入場を3ヶ所整備して、がれきを運び込むという方針を立てました。地元企業へ業務を発注するという方針を立て、解体組合さんにもどのような仕事をお願いするかを概ね決めたのは15日くらいではなかったかと思えます。これ以降、本格的に解体組合さんや仙建協さんへの声がけや相談を始めました。

**佐藤** 最初の話し合いは3月25日あたりでした。29日に40台くらいの車輛を手配して仙台港キリンビル工場前の現場指揮場で警察、消防および自衛隊で打合せして、

現場指揮場で警察、消防および自衛隊で3月11日の発災当日の話に戻りますが夜、当組合佐々木洋悦事務長と組合顧問の橋本啓一市議に消防局に向いでもらって指示を仰ぎました。翌日2時30分ごろに消防局から捜索協力の要請が来て、津波被害地に向かいながらその方面の組合員企業に声をかけ、12日夕方から県道塩釜亘理線の啓開を始めました。これが当組合の最初の仕事です。この日は若林区荒井の仙台園芸センター付近までしか行けず、そこからは徒歩で向かいました。夜11時くらいまでかかって重機を探しながら高砂橋までを啓開しました。地元優先発注というお話が出ましたが、被災家屋の解体作業にも当組合はじめ、地元企業を優先していただき、ご配慮には大変感謝しています。

**萱場** 被災家屋の解体については、技術はもちろん分別の知識もある解体組合さんをお願いしようと判断しましたが、被災者の申請の受付体制や迅速に発注するためのシステムなどを整備する必要がありました。その作業を急ぎましたが、予定より1週間ほど遅れ、被災者からの申請の受付を開始したのが5月23日となりました。この間、解体組合さんには待機をお願いするなど、ご迷惑をお掛けしました。

## 震災廃棄物処理事業は 地元企業発注を大前提

# がれき処理で優 解体組合は市事



■かやば みちお  
福島大学卒。1978年に仙台市役所採用。経済局長、宮城野区長を経て2010年4月に環境局長に就任。2012年4月1日付の仙台市人事異動により代表監査委員に昇格



**佐藤** 当方からも「なぜ早くやらせてもらえないのか」と、急かす一幕もありましたが十分なシステム構築ができて、結果的にそれからはスムーズでした。

**菅場** 解体組合さんには、解体事業について地元企業を優先して発注するという市の方針を十分理解し、受注者として、必要となるマンパワーなどを自ら確保するという姿勢を貫いていただきました。このため、悪質な業者が入ってくることはありませんでした。

**佐藤** 組合に発注するということは平時はないことですので大変感謝しています。震災後、災害協定を結んでいる自治体さんを回ったのですが、ほとんどが地元建設団体に依頼していたんですね。それほど解体事業者は専門工事でありながら、対等な扱いを受けていなかったんです。ところが環境局は当初から、当組合、組合員にやってもらわなければならぬとおっしゃっていた。いただいた。もちろん、自信はありました。解体工事の専門業者として、足場から最終処分まで常に我われは一貫してやっていますから。それを評価していただき、地元建設業団体と同等の扱いをいただいたことは、とても誇らしく思っています。このことは全国の同業者、公共団体に知っていただきたいことです。

**菅場** 私たちの責務は、震災廃棄物についても、適正処理を前提とし、可能な限りのリサイクルをすることです。どんな手法で

どのようにリサイクルをするべきか、そのためにどんな段取りで解体をするかということは、専門の業者さんでないとできません。このことから、繰り返しになりますが、被災家屋の解体業務について、解体組合さんをお願いするという運びとなりました。また、発注に当たっては、地域経済の復興を念頭に置いておりましたが、解体組合さん、仙建協さんへ発注することにより、地元中小企業にも満遍なく受注機会を提供できる体制が組み上がると考えました。

**佐藤** 方々で「仙台方式」と勝手に名づけて説明しているんですが、これによって復旧予算が地元へ落ちる。それこそが地域復興の第一歩なんですね。

### 組合の的確な調整能力に感謝

**菅場** 解体組合さんは、解体工事の専門団体であり、建設リサイクル法に基づき、分別することについては、これまでの実績から十二分の技量をお持ちであると考えました。私たちのスタッフが限られていることもあり、大手ゼネコンさんに依頼し、そこに司令塔になつてもらい、多くの人員・機材の確保してもらおうことも当初考えましたが、地元において、実施できるような仕掛けを作つていただきました。この大震災に対応するために、解体組合・仙建協さんにこれだけの人員・機材が揃っていたこと

は本市にとって幸いで、また、迅速処理などのために、速やかに必要な人員・機材を揃えていただいたことに対して、改めて感謝を申し上げます。本市にとって、地元発注が可能だと判断できた背景には、地元企業の皆さんにこういった底力があつたということが一つの大きな要因です。

**佐藤** 震災後、ふと「仕事って何だろう」と考えることが多くなりました。自分なりに整理すると、全ての組織は人の命、生命を支えるためにあるんじゃないか、と結論付けるに至りました。仙台市も組織です。仙台市は、市民の生命を支えるためにあると言えるでしょう。局長の言う、地元企業を使って地元の人たちが復興のサイクルに組み込まれるようにという理想はそこに行き着くものと、共感いたしました。

**菅場** 私たちが通常であれば担うべき仕事について、解体組合さんや仙建協さんに実質的な司令塔役を担っていただき、事業を的確に割り振り、かつ、管理も兼ねるという仕組みを作つていただきました。また、地元企業をほぼ網羅している解体組合さんと仙建協さんに発注することで、迅速に仕事に着手してもらうことができました。発注に当たっては、不平等がないよう同じ単価を設定しました。それでも色々なケースがあり、御苦勞をおかけしたのもあつたのではと思います。

**佐藤** 家屋解体は総計約6、000件（2



# 対談

012年2月時点 以上が発注され、今後は鉄筋コンクリート造14階のサニーハイツ高砂の解体が始まります。このスケールの解体工事は総合建設業が請け負う物件ですが、当組合での施工が決まりました。

## 組合は市事業のパートナー

**萱場** 通常は、ゼネコンさんが担うような大規模な解体工事でしたが、本震・余震により著しく建物が傾き、大変危険なため、すぐにでも解体しなければならぬ状況で、契約手続きに時間をかけることはできませんでした。これまでの解体組合さんとの信頼関係も踏まえ、市事業の枠組みの中で進めようという判断になりました。



サニーハイツ高砂

**佐藤** この後、早速、組合内で参加希望業者を募り、部隊編成に取り掛かります。解体業者には、階上解体が得意、内部解体が得意とか、それぞれ得意分野があります。幹事会社は昭和羽前建設工業が務めますが、

組合員各社の得意部門を持ち寄り技量を結集して作業に当たります。

**萱場** 組合さんとの協議に並行して学識経験者やコンサルタントの意見を基に検討を行い、上層階に負荷をかけないカッター工法を採用しましたが、隣にも建物がありますので、慎重かつ迅速に進めていただかなくてはなりません。

**佐藤** 組合の総合力そして和のシンボルとして工事に取り組み覚悟です。

**萱場** 全国的にも解体専門の工事団体が直接請け負った大型工事として注目されると思います。

**佐藤** 諸新聞でも取り上げられましたし、当組合の上部団体である全国解体工事業団体連合会でも工事の一部始終を記録することになっていきます。さて、公費負担による被災家屋の解体受付は3月いっぱいとおつておりますが。

**萱場** 環境省の現段階の取り扱いでは、4月以降の申請となりますと、国庫補助の關係上対応が困難となります。なお、3月まで受け付ける分の工事は、今期の予算を繰り越して使うこととなります(※)。

**佐藤** 今後の解体物件数の見込みについて教えてください。

**萱場** 現在の申請では残り2、000件ほどですが、今後、宅地復旧等が行われる地区において、どれくらいの解体申請があるかによって、その件数には変動があります。

これまでの被災家屋の解体は、市民の皆さんからも感謝の声が届けられておりますが、大きな問題もなく、優れた仕事をしていただいたと感謝しています。

**佐藤** 当組合にも何件かお礼が寄せられています。これを励みに、組合の信頼度を向上させたいです。

**萱場** 解体組合さんをはじめ、地元企業の皆さんと私たちが未曾有の震災の復旧事業に挑むという共通の覚悟で仕事に取り組んできた結果だと思えます。これまで持てる技量を余すことなく発揮していただきまして、今後の物件も適正に取り組んでいただいて、全国に仙台の解体組合さんの存在の大きさを示して欲しいと願います。今後も解体組合さんは、私たちの震災廃棄物処理事業にとって、大切なパートナーだと考えています。

**佐藤** 仙台方式の根幹にある考え方を、ぜひ全国の皆さんに知ってほしいですね。災害は極めて不幸な出来事ではありましたが、これをきっかけに余りある信頼をいただいたわけですから、専門工事業としての技量をさらに磨き、次代に継承することで業界の発展と安全・安心なまちづくりに貢献したいと考えます。ありがとうございました。

\* 当対談は平成24年2月7日に収録したものです。萱場局長は4月1日付で代表監査委員に異動しています。

※ 3月に環境省の通知があり、平成24年度以降に申請を受け付けたものでも補助対象と明示されたため、申請期限を平成24年9月28日(金)まで延長しています(平成24年5月31日現在の申請件数9,809件)。





警防部警防課計画救助係主査  
消防司令 **高橋 章氏**  
(消防局総務部管理課施設設備係主任)



組合理事長  
代表取締役 **佐藤正之氏**  
(東北黒沢建設工業)



副理事長  
代表取締役 **甘木英寿氏**  
(昭和羽前建設工業)

# かして

国内観測史上最大となった東日本大震災により岩手、宮城、福島県の太平洋沿地域に巨大津波が襲来し、合わせて1万9千人にも及ぶ尊い命が奪われ、これまで経験した事のない未曾有の大災害となりました。当組合は仙台市消防局の要請を受け、県道仙台巨理線等の漂流物の除去や仙台新港付近での消火活動のため道路啓開を実施。

発災から1年3ヶ月。消防局と組合に当時の状況や今後の教訓などを語っていただきました。

■日時／平成24年6月26日 ■場所／メルパルク仙台



組合理事企業  
常務取締役 **秋葉雅史氏**  
(鳥羽建設工業)



組合理事企業  
重車両部工場長 **本郷大樹氏**  
(大和工業)



組合理事企業  
専務取締役 **高橋大助氏**  
(大和工業)



主任 **高橋直宏氏**  
(陸前総合開発)



次長 **丹野廣伸氏**  
(建設新聞社)



▼出席者名(□仙台市消防局) ( )は、2011年3月11日当時の肩書き



警防部警防課主幹(兼)計画救助係長  
消防司令長 **佐藤 広行氏**  
(青葉消防署警防課主幹)



宮城野消防署高砂分署消防第二係長  
消防司令 **安倍 朗氏**  
(消防局警防部警防課計画救助係主査)



若林消防署警防課警防第二係主任  
消防司令補 **吉田 繁喜氏**  
(消防局警防部警防課計画救助係主任)

# 教訓を活

## |座|談|会|

### 仙台市消防局 宮城県解体工事業協同組合



主任 **森 広和氏**  
(陸前総合開発)



組合監事  
代表取締役 **橋本 裕氏**  
(橋本建機)



組合事務長 **佐々木 洋悦氏**

【説明】 **道路啓開** ガレキで埋まった道路を開けて緊急車両が通れるようにする作業



**丹野** 本日はお忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。早速、3・11発災当日のことからお伺いします。

**佐藤(広)** 震災当時は青葉消防署に勤務していました。仙台港地区に出勤して、痛切に重機の重要性を感じました。組合の皆様には、発災翌日の12日〜18日までの6日間に渡って救助や消火活動のための道路啓開等に従事していただきました。災害協定に基づくものとはいえ、余震が続き津波警報も解除されていない中すぐ対応していただき、多くの命が救われたのは組合の皆様のおかげと感謝しています。

**安倍** 震災時は警防部警防課計画救助係で勤務していました。発災直前の平成23年2月に通町一丁目住宅団地解体現場で組合と合同訓練を行っていたこともあり、発災時にはその成果が発揮されたと思います。発災翌日の3月12日、組合の佐々木事務長に重機の手配をお願いしたところ早速出勤していただき、夜中まで作業していただきました。発災から一週間、皆様と一緒に道路啓開や仙台港地区の火災現場の消火作業に当たりました。連日、予定変更が相次ぐ中、重機移動も大変なのに快く引き受けてくださり心強く感じました。

**吉田** 私も震災時は警防部警防課計画

救助係で安倍の補佐をしていました。燃料補給車で各現場に軽油を補給していました。重機を止めてはいけないうえに、軽油補給に現場を駆け回っていました。補給車は一台しかないものから、やはり行き渡らずに、悔しい思いをしたものです。

**高橋(章)** 震災当時は総務部管理課に勤務していました。現在は災害協定の担当をしています。

**佐藤(正)** 発災直後は、佐々木事務長に駆けずり回ってもらった結果、即出勤し、夜中まで作業してくれた大和工業、鳥羽建設工業、昭和羽前建設工業の3社には大変感謝しています。皆、嫌な顔せず、我がことのように淡々と黙々と作業する姿を見て、理事長として誇らしく思いました。

**秋場** 道路啓開で12日から、出勤できたのは重機一台ですけど、道路啓開の作業協力いたしました。

**甘木** 当社は仙台港近くにリサイクルセンターを有しているのですが、発災翌日早朝から、水や食料を運び込みました。社員ともまったく連絡が取れない中、当社の協力会社陸前総合開発の社員が応援に駆けつけてくれました。重機も手配できない、燃料もないという中で来てくれて、それから道路啓開が始まりました。

**高橋(直)** 12日早朝から出勤しました。自分の車も流出したものですから、迎えに来てもらったので出勤でした。依然余震や津波警報が続いていて、その日は重機を現場に入れるところまでしかできませんでした。

**森** 13日から仙台市若林区深沼〜今泉地区まで、緊急車両が入れるように道路啓開に当たりました。

**高橋(大)** 12日、佐々木事務長が当社に来られて、出勤要請を受けました。社長から出せる機械を全て出せ、と指示が出て、深沼の小学校付近から蒲生の橋まで深夜12時くらいまで、道路啓開をしました。13日は蒲生地区の道路啓開に当たりました。ひどい惨状でしたが、個人的に生まれ育った場所なので、道のイメージはありましたので、限られた燃料の中でも比較的効率的に動けたかなと思っています。当社の工務課長と泣きながら重機を動かしていました。

**本郷** 発災直後から前線で作業に当たりました。1年以上経過した今でもあの頃のことは克明に記憶しています。**佐々木** 私は組合事務長として、当時は関係機関や会員企業との連絡係を担当しました。**橋本** 初動の道路啓開における反省点と問題点、対策、もう一つはこれまで

経験してきた両者の合同訓練がどう生かされたか、そして問題点はなどを話し合いたいと思っています。

**丹野** 組合さんは平成19年に旧宮城農業短期大学学生寮（現宮城大学食産学部）の解体現場を提供し、初めて仙台市消防局と合同訓練を実施しました。その後、県警、東北管区広域緊急救助隊との合同訓練やそして先ほど安倍さんが言われた2011年2月8日、通町住宅団地での合同訓練、それから一カ月後に大震災が襲いました。

**安倍** 発災直後、消防局では対策本部を立ち上げ情報収集、状況確認等の業務に忙殺され道路啓開にまで頭が回りませんでした。そんな中、仙台市宮城野区蒲生地区の中野小学校、若林区の荒浜小学校に多数の避難者がいるとの情報が入り、ヘリだけでは間に合わないで当局で保有しているマイクロバスで救助に行こうと思いましたが、現場に行くには道路啓開が必要であったため、組合に協力を依頼することをその日の夜に決定しました。翌日朝、組合事務局に向きまして佐々木事務長に重機の出動と道路啓開の要望を伝えました。

**佐藤(正)** 私は当日、大崎市鹿島台におりまして、佐々木事務長とようやく連絡が取れたのは、その日の夜11時頃



でしたかね。そこで組合顧問の橋本啓一仙台市議会議員を伴って消防局に行くよう伝えました。

**佐々木** 佐藤理事長の意向を受け、そのまま夜11時過ぎに消防局に行きました。橋本市議が先に来ていました。その間、打合せをしたらしいのですが、現況は掴めないとのことでした。実際の活動は明日（3月12日）以降になるだろうという結論でした。翌日、橋本市議が組合事務所に来てくれました。

いま消防と打合せしてきた、後で要請が来るかもしれないと伝言していきました。その30分後くらいですね。本日出席いただいている消防局の安倍さんが訪ねてこられ、仙台市若林区沿岸部にある荒浜地区の啓開要請を受けました。ところが組合員のどことも連絡が取れませんでした。であれば直接訪問したほうが良いと判断しまして、最初に理事長の東北黒沢建設工業に行きましたら不在でしたので、すぐ田中産業に行きましたら会社が直接被害を受けていました。そこで最寄の大和工業に行きましたら社長、専務はじめ皆さんがいらいしたことから消防局の要請を伝えたところ、即断してくれました。

**高橋(大)** 当社は深沼地区に中間処理施設を持ってまして、その職員が戻らず、結果11名犠牲になりました。帰

宅できない社員もいましたのでそのまま、社に残っていたんです。そこで組合からの要請を受けて、重機4台で入りました。とにかく先に進むしかなくなりましたが、そのとき出動できた重機はバケットタイプとそれから土を動かすローダータイプだったものですが、倒壊した電線を移動するのですが、重すぎて重機で押してもまた戻ってくるんですね。

**安倍** 翌日になると、自衛隊や県警の救援部隊の車両が大分入ってきましたが、岡田地区周辺などは、道路が狭い上に、そこにズバリと並んだものから、大きい重機がそれをよけながら進まなければなりません。片方は側溝、水はまだ引かない、障害となつた電線は切れない、オペレーターのみなさんは大変だったと思います。我々も番線カッターをはじめ資機材を持ち込みましたが、容易に進めませんでした。

**丹野** その他、当時の状況を聞かせてください。

**高橋(直)** 始め若林区深沼のセブンイレブン集合と命令が来たんですが、どこがセブンイレブンだか分からない、凄まじい状況でした。ご遺体もあちこちにあつて、なるべく見ないように作業していました。重機は、シヨベルカ

ー、ブルドーザーを出しました。

**森** 当社も新港リサイクルセンターが流出してしまったので、荒浜地区に進むようにとの指示でしたが、途中で自衛隊や消防などでご遺体を運んでいるのを方々で見ました。辛かったですね。

**丹野** 昭和羽前建設工業さんは新港リサイクルセンターが被災されましたが。

**甘木** 事務員、統括責任者、若い作業員3人が事務所の屋根に上って助かりました。地震直後の報道では津波高さ3m程度ということで、あまり大層に考えていなかったそうです。ただ、揺れは激しかったので、社員には帰らせました。その後津波が襲いました。残っていた3人は当初2階にいましたが、8mくらいの津波が押し寄せ、1階部分は津波の直撃で皆持っていかれ、2階部分だけが浮いて数百メートル先の防災センターまで流された揚げ句、屋根に上って助かりました。当日は雪が降るほど寒く、朝方まで震えていたそうです。途中2人ほど流されてきて、社員が屋根に引き上げて救出したそうです。その一人の方がライターを持ってたんですね。それを頼りに暖をとっていたのいでいたと言っています。

**佐藤(広)** 我々も水やガレキで道路が塞がっているので消防車両が近づけない状態でした。

**秋場** 実はあの日、私は休みを取っていて沖繩にいました。そのせいでしょ

うか、組合や会社と連絡が取れたんです。消防局にいる佐々木事務長から、会社に電話してみてくださいと要請を受けました。そこで、私から会社に電話をかけることに幸いにも繋がったんですね。そうしたら社員も皆いまして、そこで事情を説明し、とにかく機械とバケツトは組合が手配したので、他に何か掴む重機がないかと要求されましたので、たまたま木造解体するフォークがあつたんで、それを準備して待機せよと指示しました。ただ当社には大和工業さんのようなトレーラーとかなかったですよ。そのことを佐々木事務長に相談しました。

**佐々木** 3月13日の朝でしたかね、消防局にいたんです。そこで重機はないか、応援部隊はいないかと。でも連絡してもどこにも繋がらないんですよ。最初に繋がったのが沖繩にいた秋場さんだったんです。午前10時ごろに組合監事の橋本さんがいらして、トレーラーの手配を始めたわけです。

**橋本** 最初に手配できたのが運搬車セルフローダで、緊急事態なので責任持つかからとにかく運んでくれと。その運送業者もみんな津波で流されちゃってたまたまセルフが1台だけ残っていた



というので、それに20t重機を積んでもらい現場に運んでもらいました。

**秋場** 連絡手段の大切さは痛感しました。衛星電話の整備は現状、各社も負担が大きいですね。消防局はさすがに繋がりました。

**橋本** 消防局で安倍さんの電話を借りてかけたんですけど、繋がらなかった。当然、いま思えばこちらが緊急用の優先電話でも相手が普通の電話ですものね。

**安倍** あの時はおかしいな、なぜ繋がらないんだと。混乱していたんですね。

**高橋(章)** 優先電話は発信する方が優先される仕組みになっているんです。受信側は、最寄りのアンテナの状況とかの影響を受けます。

**橋本** やはり普通の電話よりも繋がりがやすいんですね。

**高橋(章)** そうです。受信側は、最寄りのアンテナの状況とかの影響を受けます。

**丹野** その他の問題点は。

**橋本** 最初にぶつかったのは財産権ですね。被災した車を重機でつまんで移動したいんですけど、仙台新港にあるキリンビール付近ではトヨタの新車プールがあります、その新車がいっぱい津波で流れてきましたね。べしやんこになっていたのは重機でつまんだ

ものの、しっかりしたものはつまむわけにいかないだろうということで、ずらして除けるとか。あと道路の真ん中まで流されてきた家屋があつて、どう対処したらいいものか、本部に問い合わせしてもらっても、壊すわけにはいかないだろうと、一部だけ壊して一車線だけ通れるようにしました。この財産権への対応は誰も結論出せなかった。

その後、じゃまになるものは壊していいという見解になりましたが。  
**甘木** 燃料確保に難儀したということ。あとオペレーター等作業員の食糧確保も課題でした。

**丹野** 消防局に燃料の備蓄はあったのですか。

**吉田** 緊急燃料として確保はしていましたが、十分な量ではありませんでした。はじめは緊急車両が給油可能なガソリンスタンドで補給していました、その後、自衛隊敷地内での給油やドラム缶による燃料提供がありました。

**佐藤(広)** 当市では、燃料供給の協定を締結していましたが、協力団体が地震、津波の被災により機能できませんでした。今後、関係機関との連携など様々な対策を講じなければなりません。

**丹野** 連絡体制については。

**橋本** 災害時優先電話は申請してみたんですが残念ですがその時点では認め

られなかった。組合では少なくとも理事会社だけでも優先電話を設置したいと考えているんです。

**橋本** 連絡が取れないという点は本当に困りました。

**佐藤(正)** なぜ沖繩にいた秋場さんに電話が繋がったんでしょうか？

**高橋(章)** 受信側の設備に影響がなく、条件が良かったからだと思います。こちらでは地震で停電になったことで基地局のアンテナが自家発電に切り替わりましたが、その燃料が数時間しか持たず、繋がらなくなつたものと考えます。

**丹野** 防災訓練、合同訓練の今後については。

**佐藤(正)** これまで合同訓練は、蔵王のホテル解体現場を利用した大規模な合同訓練がありました、それを例外とすると、学校、市営住宅などの公共建築の解体現場が主体でした。消防局から逆に現場の提案はありますか。

**佐藤(広)** 貴組合で解体施工中にありますが高層マンションで計画しております。

**佐藤(正)** ただ周辺が狭いんですよ。定期的に継続して今回の震災対応を訓練にどう反映させるかですね。

## 顔の見える行政との信頼関係

**佐藤(広)** 連絡が途絶えながらも、発災時はすぐに駆けつけてくれて、作業協力いただけたのは、継続的なこれまでの合同訓練、中でも昨年2月の訓練で、お互い顔の見える関係を築けたからですね。

**佐藤(正)** 県警との関係もそうでした。これまでの合同訓練での顔見知りを頼りに、遺体捜索の際、重機提供を申し出てきたんです。常に何らかのやり取りをして、双方の担当者が誰なのかを把握しておかなければ、文書だけの締結では肝心なときに役に立ちません。その後、防災協定を結んでいる県内の他市町村で手伝えることはないかと聞いて回つたんですが、話になりませんでした。

**橋本** 初めての合同訓練は、太白区日本平の県農業短期大学（現宮城大学食産学部）の学生寮解体現場でした。あの時、青葉消防署のレスキュー隊はもちろんとして、近くの太白消防署の隊員も参加しましたね。あのよう

に、地元消防署も参加するのいいと思います。特に皆さんも異動があります。当方は常に協力したいと考えているんですが、先の高層マンションのように、狭いとか、条件が悪く現場を提供できないケースも多い。

**佐藤(広)** そうですね。近くの消防署



からも参加するような方向で考えたいですね。

**丹野** 合同訓練は同じ仙台市でも発注部局との事前の協力が不可欠です。実際の現場担当者は訓練を実施するに当たって、工期の問題等苦労も多いと聞きます。

**秋場** 苦労と言うよりは、皆さんの安全を確保しなければならぬということとで、現場をきれいにしすぎたかな…という反省というか疑問はあります。本来なら倒壊した壁とかがれきが一画面散在しているわけですからね。今回は津波被害でしたが、内陸型が発生すれば、建物倒壊が相次ぐわけですからね。

**佐藤(正)** 先ほど申し上げた蔵王で行った県警との合同訓練は多彩でした。エレベーターの扉を壊して閉じ込められた人を救助したり、床を壊して地下にいる人を助けたり、屋上に取り残された避難者をロープを伝って下ろすとか。

**吉田** そのような訓練ですと消防では国際消防救助隊や緊急消防援助隊の救助部隊が47都道府県にあり、訓練を行なっております。先ほどの訓練は重機と連携しての訓練なのですか？

**佐藤(正)** そうです。例えば入り口ががれきで塞がれていて、それを当方が重機で除いてから機動隊員が中に救助

に向うとか。平成20年に、岩手・宮城内陸地震の反省を踏まえて実施した蔵王のホテル解体現場を提供しての訓練でした。このときの資料がありますのでぜひご参考ください。

**佐藤(広)** 私も昨年2月に実施した通町住宅団地の現場には参加したんですが、仙台の中心市街地で場所が狭いものですから想定に合った訓練はできませんでした。希望通りの現場というのはなかなか難しいと実感しています。

**佐藤(正)** 当面、仙台市環境局発注では大型販売店の解体を当組合で施工を予定しています。それらが訓練現場として相応しいのかどうか、以降協議してみましよう。

**橋本** 宮城農業短期大学でやったときは、ガラの下にあらかじめ若い隊員を入れさせてもらえないかという要望が当初消防局からあったんですよ。危険なので断りまして、代わりに人形を入れたんですが、先に福島で実施した訓練の内容を聞いたのですが、U字溝をひっくり返した状態で人を入れて上からガラをかぶせて救助訓練をしたというんですよ。

**吉田** CSR/CSMと違って、閉所空間の救助・救護訓練ですね。穴あけて閉所空間に入っていくって要救助者を観察し応急処置をしてから外に運び出

すというのが一連の流れです。平成20年くらいから国際消防救助隊の訓練で実施しているものです。

**橋本** 類似の訓練を希望されるのであれば、組合ではご準備できます。

**丹野** ぜひ綿密な打合せを重ねて、より有意義な合同訓練をしていただきたいと願います。

**佐藤(正)** 年何回ぐらいやるべきでしょうか？

**佐藤(広)** 最低でも年1回は実施し、双方の顔が見える関係を継続していきたいですね。

**佐藤(正)** 2回程度はできるよう、当方でも調整します。

**橋本** 仙台市の南と北でそれぞれ実施して近くの消防署からも参加してもらえようだと思いますね。

**佐藤(正)** 逆に少人数でも、いまのCSR/CSMのように、ケースを絞った合同訓練があってもいい。やはり現場が狭い場合が多いですから。

**佐藤(広)** よろしく願います。次の訓練では救助犬を使った訓練を考えていたのですが、ご協力いただけますか。

**佐藤(正)** もちろんです。

**甘木** 倒壊した建物から救助するという訓練はこれまでも実施してきましたが、今回は津波という、特殊な事態で

した。津波に対しても教訓なりマニュアルを残すべきです。

**高橋(大)** 連絡、燃料の問題を克服できれば、もっと早く、的確に出勤できるはずですよ。

**秋場** 我々は、解体の専門家として、重機、特殊機械、オペレーターを常時万全体制でスタンバイしています。いざ緊急時に思い切って指示をいただければ、こちらも幅広いお手伝いができると思います。部下を使うような気持ちで言っていたいたほうが我々も動きやすいです。

**安倍** 極めて危険な現場でしたので、安全管理上、できれば重機の前後に一人ずつスタッフがつくような体制がとれば、な、と感じていました。

**佐藤(正)** 当時の現場はいま思いついても涙を禁じえません。今後についても、甘木さんの言うように、しっかりとしたマニュアルを作らなければならぬと痛感しています。今日の座談会で出た課題や問題点を克服できるように、肉付けをして次に備えたいと思います。

**丹野** 組合と消防局の活躍は全国的にも注目されております。被災地としての教訓を活かし、全国に発信していく義務があります。今後も期待しています。有り難うございました。



県南  
エリア

JAXA  
角田宇宙センター

2012年7月、小出宇宙飛行士がソユーズで国際宇宙ステーション(ISS)に出发する。小惑星探査機「はやぶさ」やアニメ「宇宙兄弟」など、近年、宇宙へ目を向ける機会がにわかが増えてきたように感じる。宇宙と聞けば大人でもワクワクする。

角田宇宙センターは、実際の打ち上げに使用するロケットエンジンの研究から開発までを一貫して行っている。県内で本物の宇宙を



体感することができる場所だ。

1年に1回、研究施設設備の一般公開を開催するほか、敷地内の展示室では、試験に使用したロケットエンジンや各研究の内容について説明したパネルなどを展示している。また、屋外では大型液体ロケットエンジンも展示している。

■入館は無料。5〜10月までは毎日開館している。開館時間10〜17時。休館日11〜4月の土・日・祝日、年末年始。東北自動車道村田ICまたは白石ICから車で約30分。陸上自衛隊船岡駐屯地そば。  
<http://www.rocket.jaxa.jp/kspc/japanese/index.html>

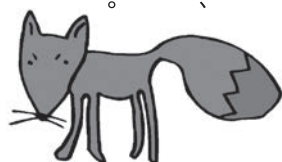
宮城蔵王キツネ村

園内は決して広いわけではないが、森の中に100頭を超えるキツネが放し飼いされている。いつけん犬と間違

えそうなほどだが、表情豊かで愛くるしいキツネを間近で見ることが



この春生まれの子キツネも見学することができる。そのほか、うさぎやヤギ、ポニーも飼育されている。ほのぼのとした感じがある場所だ。



施設ではブログを開設して、キツネ村の日常が紹介されている。  
■営業時間9:00〜17:00(冬季16:00)年中無休。入場料 大人/700円 子供/400円。東北自動車道白石ICから約20分。  
<http://zao-fox.web.infoseek.co.jp>

スポーツランドSUGO

言わずと知れた、国際公認サーキット場。通常のモーターレースのほか、大人たちのライダー塾、キッズライダー塾も開催。

そして、知る人ぞ知る!ママチャリレースも開催している。

今年は4月の第1戦を皮切りに、第4戦まで開催。うち第3戦はナイターレース、第4戦はインターナショナルレーシングコースでのヒート。ママチャリレースといえども、微妙に本格的な感じがするところに心くすぐられる。

このレースの参加車両は、『直径27インチ以下のシティサイクル用オールウエザータイヤで、前かご、フエンダーを装備し、『ママチャリの勇姿』を保ったお買いもの(通学)用自転車であること』という厳しい条件(笑)がある。しかし、誰でも参加可能だから、職場で家族でエントリーしたら楽しい1日になりそうだ!

がんばれ宮城!  
がんばれ東北!

■詳しくは[http://www.sportsland-sugo.co.jp/race\\_2012/2012\\_mamachari\\_info.php](http://www.sportsland-sugo.co.jp/race_2012/2012_mamachari_info.php)





## 自然とふれあい・動物と遊ぶ モーランド・本吉

小高い丘陵地の緑豊かな敷地に、ホルスタインが放牧されているのどかな牧場だ。

新鮮な牛乳でバターやチーズ、アイスクリームなどの手作り体験やバーベキューも楽しめるほか、畜産業への理解を深めてもらうための畜産資料展示室もある。

毎年秋には、草原大焼肉パーティーとも言える、モウランドまつりが開催されている。地元食材の生産者との交流を楽しめるイベントだ。手作り感があり、来場者を楽しませてくれようと頑張っている地元の人たちの姿が、とても良いイベントだ。

<http://www.mooland.jp/>

## マリノピア松島水族館

松島水族館は昭和2年に開設された。日本で2番目に古い水族館で、民営水族館としては日本最古。その歴史を知ると、誰もが一度は訪れたことがあること納得する。

震災の影響で再開未定の施設がまだまだに多くあるなか、頑張っている施設もたくさんあります。宮城県内レジャーは安近短たけじゃない！地元をめぐり、地元を盛り上げる！それが、復興への確かな一歩でもあります。

各施設とも、震災の影響が残っている場合があります。

あります。最新情報を確認して下さい。

幾世代にわたって親子

わたりつて親し

まれている水族館だ。

東日本大震災では甚大な被害をうけたが、いまはみんな元気に生活している。

水族館では普段見る事の出来ない、バックヤードにいる生き物や飼育施設を飼育員が案内してくれるバックヤードツアー（土日祝日限定。11・00〜先着15名）も行われている。大人気のアシカショーは1日5回開催している。これからも長く続いていくように、みんなで応援していきたい！

<http://www.marinepia.co.jp/>

## 宮城県こもれびの森 森林科学館

築館1Cから車で約40分。一桧山県有林一帯が「こもれびの森」。トチノキやブナなどの大木が広がり、野生鳥獣が数多く生息自然豊

かな森林だ。

森林科学館で

は森の動植物や森林の

役割などを学べる。ネイチャークラフト体験コーナーやバーベキューなどができるデイ・キャンプ場のほか、水辺の生き物を観察できる湿性植物園、山菜・野草見本園など気軽に自然体験を楽しめる施設となっている。

この森にはツキノワグマも生息し、案内看板が壊されていたりするそう。当然ながら人間の場所ではない。そういう自然を体験しながら、自然との共生を子供たちに伝える場所でもある。NPO法人宮城県森林インストラクター協会が管理しているから、どんな質問もして森林への知識を深めて欲しい。

■森林科学館は4/1〜11/30まで。4〜9月までは9・00〜16・30、9〜11月までは9・00〜16・00) 期間中は無休。入館無料。  
<http://mfi.main.jp/komorebi.htm>



## グリーン・トリリスム 体験校舎の宿さんさん館

127年の歴史に幕を閉じて閉校となった志津川町立林際小学校を、宿泊・研修施設に改築。グリーン・トリリスム体験施設として活用している。

体験学習として米・野菜などの種まきから収穫体験、杉山の間伐体験のほか、地元の人によるわら草履作り体験や民話語りなど、田舎体験メニューが豊富に用意されている(要予約)。宿泊施設は、土日の予約がいっぱいなので、早めの予約がおススメだ。  
<http://www5.ocn.ne.jp/~san3kan/index.html>



# 平成23年度 新春講演会 及び 賀詞交歓会

組合では新春講演会及び賀詞交歓会を2月10日(木)、仙台市のメルパルク仙台で開催しました。当日は組合員、賛助会員100人が参加しました。講演の冒頭、佐藤正之理事長が「政府に頼る他力本願ではなく、自力での厳しい環境を乗り越えて解体業の健全な職場環境を構築し魅力ある専門業界に努力していきたい」とあいさつしました。



講演する衣川氏

生活を脅かす重大な事案です。行政、業界が一致協力して撲滅に取り組んでほしい。直接現場を管理する組合には情報提供など期待しています」と不法投棄撲滅の協力を要請しました。その後、農家レストラン経営者でコロナピア所属の農民歌手、衣川(ころもがわ)善仁氏の「女は起業家」・(はつと)に賭ける食文化」と題して講演を行いました。

衣川氏は出身地である宮城県登米市のお母さんたちが、自宅で食べる美味しい料理を産直としてお客さんに食べさせようと産直の農家レストランを平成12年にオープンしました。女性が一生懸命やれば何事もできる。それが女は起業家と言われる由縁です。

男の自分は不安が先走り出来るものではないと吐露。お客さんからは母親の味、実家に帰ったようだとの好評を博しています。また、地元名産のそば粉を練って作った食べ物「はつと」は昔、凶作の時に役人が麦を作



賀詞交歓会

## 新春講演会及び賀詞交歓会来賓者

### 〈顧問〉

中野 正志氏  
土井 亨氏

参議院議員  
愛知 治郎氏

宮城県議会議員  
今野 隆吉氏

宮城県議会議員  
石川光次郎氏

仙台市会議員・議長  
佐藤 正昭氏

仙台市会議員  
橋本 啓一氏

〈宮城県〉  
土木部長  
橋本 潔氏

土木部事業管理課課長  
佐々木 源氏

生活環境部長  
小泉 保氏

資源循環推進課課長  
高橋平勝氏

警察本部生活環境課  
課長補佐  
石澤 昇一氏

〈仙台市〉  
副市長 稲葉信義氏

環境局長  
萱場 道夫氏

都市整備局長  
高橋 秀道氏

建設局長  
栗和田幸夫氏

仙台市消防局長  
高橋 文雄氏

宮城県中小企業団体  
中央会副参事  
佐野 智之氏

建設業労働災害防止協  
会指導員  
中島 昭彦氏

建設新聞社  
次長  
丹野 廣伸氏

課長  
阿部 靖志氏

社団法人全国解体工事  
業団体連合会会長  
高山 眞幸氏



平成23年度

通常総会

理事長に佐藤正之氏を再任

損壊建物の解体撤去を全力傾注

組合では、平成23年度通常総会（第17回）を7月27日、仙台市宮城野区のエスポールみやぎで開き、役員改選で理事長に佐藤正之氏を再任しました。総会は例年5月に開催していましたが東日本大震災の影響で時期を延期しての開催となりました。

当日は総会に先立ち、東日本大震災の犠牲となった組合員、関係者に対し全員で黙祷を捧げてからの開催となりました。

総会には、正会員43社に対し、出席31人（委任状11人、欠席1人）が出席。冒頭、あいさつに立った佐藤理事長は、



挨拶する佐藤理事長

「東日本大震災で、仙台市消防局から依頼を受け道路啓開（道路に流入したガレキの撤去）を震災の翌日から重機を投入し一週間行いました。民間業者では一番早く活動した業界と自負しています」と余震の続く中、危険を伴う作業に従事されました会員の皆様に謝辞を述べました。また、「震災で損壊した民家の危険な建物やブロック塀の解体撤去のお手伝いや、仙台市から損壊建物の解体撤去の依頼を受け、今も休む暇なく続いています。組合の皆様には復旧、復興に全力を注いでいただきました」と災害復旧工事の協力を要請しました。

引き続き、組合員社員優良表彰が行われ昭和羽前建設工業の岩崎孝志氏、宮城興業の増公一氏が優良社員として理事長から賞状と記念品が



宮城興業 増公一氏



昭和羽前建設工業 岩崎孝志氏

手渡されました。

その後総会に入り、▼第1号議案―平成22年度事業報告並びに財産目録、貸借対照表、損益計算書及び余剰処分案承認の件▼第2議案―平成23年度事業計画書並びに収支予算書案決定の件▼第3号議案―手数料の最高限度額決

定の件▼第4号議案―経費の賦課及び徴収方法決定の件▼第5号議案―役員報酬決定の件▼第6号議案―加入手数料決定の件▼第7号議案―

新役員

理事長	佐藤 正之
副理事長	甘木 英寿
副理事長	山田 光夫
専務理事	大久保謙司
理事	斎藤 孝
理事	高田 浩成
理事	田中 忠一
理事	田中 一也
理事	坂口 栄司
理事	伊藤 政夫
理事	高橋 章
理事	佐藤 一
監事	橋本 裕
監事	見物 善男

再任した佐藤理事長は「仙台市からの解体建物撤去を未だ続きますが頑張るって全うしたい」と抱負を話しました。



# 東日本大震災被災損壊建築物 解体撤去安全パトロール

工事技術安全委員会では東日本大震災で損壊した建築物の解体現場を無事故無災害で現場を完了すべく安全パトロールを実施しています。

パトロールは労働基準局と安全委員長が一カ月毎に一回、防災防と組合理事が一カ月毎に四回、同行し行なっています。

安全管理・建設機械・墜落・石綿・非常時・第三者・その他・追加項目の20点検・確認事項からなる安全パトロールチェックリスト表に基づき実施しています。

パトロール現場は解体建築物の規模によって異なりますが、工事の殆んどが一週間〜二週間くらいで完了することが多く、現場に義務づけられている安全関係書類を必携しておかなければなりません。工事を安全かつ迅速に施工するには、まず、現場に対して一つの安全チェックを怠りなく実施することが安全の確保につながります。事故が発生してからではなく、常日頃の安全確認が大切です。



■ 工事車両をゲートとコーンで安全確保



■ 地震で倒壊寸前のブロック塀をチェック



■ 工事看板の設置で告知



■ 内部解体



■ 分別解体で施工



■ 道路にガードフェンスを設置し安全確保



■ 仙台市街地では施工場所の確保が難しく、また騒音、粉塵など近隣への配慮が欠かせない



■ コンテナパックで廃棄物を搬出



■ 屋根瓦を分別撤去





■現場作業員に指導員、組合理事が安全工事の説明



■防塵服を着用しアスベスト除去



■集合住宅地の狭あい地ではより安全作業が要求される

〔災害復興工事安全パトロール対象会社一覧表〕

会社名	2011年7月～ 2012年4月	5月				6月				7月				小計	合計
		2	9	16	30	7	12	19	27	4	10	18	26		
東北黒沢建設工業(株)	13	○				○				○					
(株) 鈴 勇 商 店	9	○			○				○						
鳥羽建設工業(株)	11	○				○				○					
(株) 菅 野 商 店	4						○				○				
(株) 丸 正 精 建	8		○			○				○					
(株)昭和羽前建設工業	10			○				○				○			
(株) 秋 山 建 材	9				○					○					
(株) 高 田 商 店	6														
(株) ア ネ ス テ ィ	2														
田 中 産 業 (株)	9				○				○						
旭 興 業 (株)	13			○				○				○			
大 和 工 業 (株)	9	○			○			○				○			
(有) 親 和 建 設	8		○			○					○				
(株) 東 洋 環 境 開 発	2														
(有) 永 根 実 業 建 設	7														
鷹 建 設 (株)	8						○				○				
(株) 木 村 土 建	1														
柏 原 建 設 (株)	10		○				○				○				
(株) デ ィ ン ゴ	3														
鈴 木 建 設 (株)	10			○				○				○			
(有) 宮 城 興 業	8				○				○						
(株) 丸 智	9		○					○				○			
(株) 丸 翔	8	○				○				○					
(株) 興 栄	7								○						
(有) 晃 進	7			○			○				○				
(株) 平 間 建 設	5		○				○								
(株) 宮 城 公 害 処 理				○					○						





## 支部だより 県南支部

昨年3月11日の東日本大震災直後、各会員と直ちに連絡を取り合い安否確認を行いました。

県南支部では犠牲になられた方3人を含め、事務所・作業場の全壊や床上浸水した事務所が1社ずつ。その他にも大多数の車両が津波に流されるなど、甚大な被害が出ました。

その後、組合経由で宮城県警依頼の名取・岩沼・亘理・山元町の4地区にての遺体捜索中心の活動を行い、現在に至っては仙台市発注の木造解体を行っております。11月に、理事長・事務長を交えて県内の被害状況や解体活動の進行状況、東北ブロックの活動報告、並びに各会員、各地区の被害状況・活動進行状況の情報交換を行いました。今後の活動としては、一日も復旧、復興工事が進むよう全会員で精進していくことを誓い合いました。







## 支部だより 県北支部

平成23年8月末日、佐藤一支部長（丸一興業株式会社）が逝去され、支部長不在のなかで支部運営を行っていましたが、11月に支部会を開催。新支部長に高田浩成氏（株式会社高田商店）を選出いたしました。また、県北支部は震災直後、佐藤正之理事長の指示で、県北支部会員企業を中心に気仙沼市、南三陸町、石巻市、東松島市等の沿岸部を中心に宮城県警の依頼を受け、遺体搜索等の重機の派遣等を行いました。県北支部の担当エリアは広域で一部は平成24年4月末まで遺体搜索等の派遣が続きしました。

大規模災害時の行政との連携がいかに重要か再確認し、これからも担当市町村との連携を深めていきたいと思えます。





# 宮城県解体工事業協同組合

建設リサイクル法の完全施行により、施主様(排出者)の責任が明確になりました。

当組合では分別解体によるリサイクルの研究や適性処理を推進しており、技術の向上と安全対策に取り組み、信頼と実績を築いております。ご用命の際は組合員からお選びください。

会 員	
理事長	東北黒沢建設工業(株) 佐藤 正之 〒984-0002 仙台市若林区卸町東四丁目4-28 TEL.022-288-5996 FAX.022-288-9556
副理事長	(株)昭和羽前建設工業 甘木 英寿 〒981-0913 仙台市青葉区昭和町2-27 TEL.022-274-0553 FAX.022-274-0771
副理事長	(有)山田建設 山田 光夫 〒981-1224 名取市増田五丁目17-27 TEL.022-384-5802 FAX.022-382-2998
専務理事	(有)親和建設 大久保謙司 〒987-0301 登米市米山町字善王寺大久保76-1 TEL.0220-55-2268 FAX.0220-55-3117
理事	(有)斎藤仲商店 斎藤 孝 〒984-0802 仙台市若林区八軒小路24 TEL.022-225-2388 FAX.022-264-1542
理事	(株)高田商店 高田 浩成 〒987-0511 登米市迫町佐沼字鉄砲丁11 TEL.0220-22-3344 FAX.0220-34-2544
理事	田中建材輸送(株) 田中 忠一 〒989-2331 亶理郡亶理町吉田字松元209-10 TEL.0223-36-3555 FAX.0223-36-3444
理事	田中産業(株) 田中 一也 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町1-60 TEL.022-288-0011 FAX.022-288-5677
理事	烏羽建設工業(株) 坂口 栄司 〒983-0034 仙台市宮城野区扇町三丁目6-6 TEL.022-231-3611 FAX.022-231-3610
理事	(株)丸正精建 伊藤 政夫 〒989-1501 柴田郡川崎町大字前川字槻木56-1 TEL.0224-84-2156 FAX.0224-84-2125
理事	大和工業(株) 高橋 章 〒983-0034 仙台市宮城野区扇町七丁目3-43 TEL.022-258-6561 FAX.022-258-9638
理事	(株)菅野商店 菅野 俊二 〒984-0015 仙台市若林区卸町二丁目1-12 TEL.022-237-4441 FAX.022-236-6930
監事	(株)丸 翔 見物 善男 〒983-0013 仙台市宮城野区中野字神明172-2 TEL.022-388-8685 FAX.022-786-6036
	(株)秋山建材 秋山 浩治 〒984-0033 仙台市若林区荒浜字北長沼24-79 TEL.022-287-5250 FAX.022-287-5251
	旭興業(株) 浅野 新一 〒981-4300 加美郡加美町字蓬田48 TEL.0229-67-3331 FAX.0229-67-3334
	(株)アネステイ 永根 悦郎 〒981-3117 仙台市泉区市名坂字御釜田145-3 TEL.022-218-0350 FAX.022-218-0349
	(株)イシケン 石川 久 〒987-0601 登米市中田町石森字下川原木15-1 TEL.0220-34-7155 FAX.0220-34-7044
	いずみ清掃(株) 熊野 靖一 〒981-8003 仙台市泉区南光台一丁目14-10 TEL.022-275-2345 FAX.022-218-3338
	(有)大泉工業 大泉 泰蔵 〒984-0032 仙台市若林区荒井字新屋敷44-3 TEL.022-288-7787 FAX.022-288-8488
	(有)小熊斫工業 小熊 昇 〒989-1201 柴田郡大河原町大谷字鷺沼入26-14 TEL.0224-52-6139 FAX.0224-52-0459
	小野寺工業(株) 小野寺 林 〒988-0804 気仙沼市東中才273-6 TEL.0226-22-7913 FAX.0226-29-5883
	柏原建設(株) 柏原 武義 〒981-4374 加美郡加美町字上野目指橋1-1 TEL.0229-67-2714 FAX.0229-67-2430
	(株)木村土建 木村 浩一 〒981-0505 東松島市大塩字五台23-2 TEL.0225-82-3006 FAX.0225-83-4143
	(株)興 栄 山田 晶子 〒982-0803 仙台市太白区金剛沢二丁目6-18 TEL.022-244-7621 FAX.022-244-7627
	(有)晃 進 櫻井 武 〒981-0102 宮城郡利府町春日字寒風沢57-3 TEL.022-356-8529 FAX.022-356-7989
	重吉興業(株) ローひろみ 〒986-0853 石巻市門脇字元明神10 TEL.0225-23-0204 FAX.0225-23-7518
	(株)スカイクリーンツヤマ 熊谷 伸宏 〒986-0402 登米市津山町横山字伊貝22 TEL.0225-61-8051 FAX.0225-61-8052
	(株)杉沢工務店 杉沢 仁 〒981-2102 伊具郡丸森町館矢間館山字玉川85 TEL.0224-72-2850 FAX.0224-72-4240
	鈴木建設(株) 鈴木 真也 〒983-0034 仙台市宮城野区扇町一丁目6-5 TEL.022-782-0345 FAX.022-782-0310
	(株)鈴木勇商店 鈴木 勇一 〒986-1111 石巻市鹿又字山下西122-1 TEL.0225-86-5852 FAX.0225-86-5853
	(株)仙台菊地組 菊地 昌樹 〒984-0032 仙台市若林区荒井字笹屋敷163 TEL.022-288-0634 FAX.022-762-5887



会 員

(株) 大 松 菅谷 直樹	〒983-0004	仙台市宮城野区岡田西町3-29 TEL.022-287-1251 FAX.022-258-6564
鷹 建 設 (株) 高子 憲一	〒989-0211	白石市大鷹沢鷹巣字処沢4-1 TEL.0224-24-2762 FAX.0224-24-2762
(株) デ ィ ン ゴ 中澤 拓摩	〒985-0824	宮城郡七ヶ浜町境山一丁目1-8 TEL.022-364-8982 FAX.022-364-8992
(株) 東洋環境開発 林 昭兵	〒980-0003	仙台市青葉区小田原六丁目7-1 TEL.022-265-7632 FAX.022-716-6667
(有) 永根実業建設 永根 喜郎	〒989-6435	大崎市岩出山字浦小路6-7 TEL.0229-72-0431 FAX.0229-72-0082
(株) 日進運輸建設 小出 隆	〒987-0902	登米市東和町米谷字金谷57-3 TEL.0220-42-2561 FAX.0220-42-2850
(株) 平間建設 平間 正明	〒982-0012	仙台市太白区長町南四丁目21-31 TEL.022-249-2177 FAX.022-247-4873
(有) 広瀬重機 廣瀬 敏昭	〒989-3216	仙台市青葉区高野原一丁目20-18 TEL.022-394-7775 FAX.022-394-7776
フジサイ工建(株) 斎藤 亮一	〒989-1257	柴田郡大河原町新寺字東91-1 TEL.0224-52-0087 FAX.0224-52-0084
丸 一 興 業 (株) 佐藤 道子	〒986-0862	石巻市あけぼの三丁目11-2 TEL.0225-93-5560 FAX.0225-93-5576
(株) 丸 智 大友 智幸	〒982-0825	仙台市太白区西の平一丁目16-27 TEL.022-302-3452 FAX.022-302-3453
(株) 宮城公害処理 菊地 清一	〒989-3212	仙台市青葉区芋沢字赤坂中65-2 TEL.022-394-4035 FAX.022-394-2162
(有) 宮城興業 小松 克俊	〒989-3432	仙台市青葉区熊ヶ根字前田62 TEL.022-393-2242 FAX.022-393-2243

賛 助 会 員

監 事 (株) 橋 本 建 機 橋本 裕	〒981-1251	名取市愛島台七丁目101-39 TEL.022-381-0391 FAX.022-381-0392
(株) エス・テー・ケー 岩佐 義信	〒981-3521	黒川郡大郷町中村字東要害2-1 TEL.022-359-5201 FAX.022-359-5203
オカダアイヨン(株)仙台営業所 川島 政浩	〒984-0002	仙台市若林区卸町東五丁目2-23 TEL.022-288-8657 FAX.022-288-8689
小 野 リ ー ス (株) 小野 明子	〒984-0031	仙台市若林区六丁目字柳堀12-2 TEL.022-288-5534 FAX.022-288-5237
(株) 小 山 商 店 小山圭太郎	〒980-0022	仙台市青葉区五橋一丁目6-2 TEL.022-225-6558 FAX.022-227-0607
東日本コベルコ建機(株)北海道・東北支社 花岡 秀行	〒989-2421	岩沼市下野郷字新田21 TEL.0223-24-2993 FAX.0223-24-4694
コマツ建機販売(株)東北カンパニー仙台支店 大澤 康男	〒983-0034	仙台市宮城野区扇町二丁目1-30 TEL.022-237-7444 FAX.022-237-7547
住友建機販売(株)東北統括部仙台支店 佐々木英人	〒989-2421	岩沼市下野郷字新南長沼1-1 TEL.0223-24-1151 FAX.0223-24-1156
中 外 機 工 (株) 大槻 勝善	〒985-0833	多賀城市栄三丁目1-22 TEL.022-349-9101 FAX.022-349-9107
東空販売(株)東北営業所 山崎順一郎	〒983-0043	仙台市宮城野区萩野町二丁目16-4 TEL.022-231-4646 FAX.022-231-4648
キャタピラー東北(株)宮城支店 分銅 肇	〒989-2494	岩沼市下野郷字西原103 TEL.0223-22-6110 FAX.0223-22-3922
(有) 日 装 施 設 昆野 実	〒983-0002	仙台市宮城野区蒲生字荻袋13-1 TEL.022-258-5130 FAX.022-259-5596
日本ニューマチック建機(株)仙台営業所 大場 正史	〒983-0034	仙台市宮城野区扇町四丁目7-16 TEL.022-238-5191 FAX.022-238-5194
日立建機日本(株)南東北支店 高橋 幸規	〒985-0843	多賀城市明月二丁目3-1 TEL.022-364-6131 FAX.022-365-5453
古河ロックドリル(株)東北支店 大竹 伸夫	〒981-1224	名取市増田字柳田318-1 TEL.022-384-1301 FAX.022-384-3342
(株) マ イ ド 松本 卓司	〒984-0015	仙台市若林区卸町二丁目2-1(パックス第一ビル3階) TEL.022-284-2428 FAX.022-284-2427
(株) ヤマトサービス 酢谷 剛	〒981-0121	宮城郡利府町神谷字化粧坂10-58 TEL.022-396-3553 FAX.022-396-3552
山二機械鋼鉄商 大場 勝見	〒984-0042	仙台市若林区大和町二丁目1-32 TEL.022-231-2355 FAX.022-231-2477
(株) ワキタ仙台支店 星 春男	〒983-0002	仙台市宮城野区蒲生二丁目32-3 TEL.022-258-1116 FAX.022-258-1424



# 億マンパワー!!

さく☆が ようこ



## 『躍進』読者からの熱烈メッセージ

震災から1年4か月、早いものです。  
解体組合でも、いろいろな面で協力したと聞いております。被災された方々の傷は癒えませんが、これからも一層の協力とご活躍を願っております。

亘理町 嶺岸

組合の方々は今現在、大忙しだと思いますが、それにも増して安全面にも充分注意して働いて欲しいと思います。

仙台市若林区 某会社員

躍進の表紙がいつも気になります。  
以外と知らない宮城県の文化財とかがあって勉強になります。

大和 佐藤

解体組合は、県や市はもちろん、消防、警察とあらゆるところと連携して、いろいろな活動をしているんですね。すごいんだネ～

太白区 すぎちゃん



# 糸屋の波婆さん

仙台原ノ町、雨傘屋さ現われる婆さまの話です。



雨傘屋の小僧が、傘の骨さ糸ば通そうとして、糸がこんがらがると、「糸屋の婆さん、糸屋の婆さん、こんがらがった糸ば解いて下さい」と三べん唱えます。

すると座敷の置物になっている小さな焼きものの婆さんが、やってきて「めんごい小僧だから、糸ばほどこいてけっぺやな」と言っつて、手伝つてくれるのです。

ある晩のことです。雨傘屋さ泥棒が頬かぶりをして入つてきました。店の方さきて、新しい番傘だの蛇の目傘だのば風呂敷さ包みました。家のひとびとはいびきばかいてよく寝入つています。

「在さ持つていつて売つべ。」泥棒はうまくいったと喜んで、背負おうとすると、重くて持ち上げることができないのです。

「なんとしたことだべ。」泥棒は力いっばいまた持ち上げようとするのですが、びくとも動かないのです。

そのうちに一番鶏、二番鶏が鳴くので、

「困つたことになつたなや」

とそのまま打ちすてて、逃げていつたのでした。



低い笑い声が起ると、びよんと風呂敷包の上から、焼きものの婆さんが飛おり、すたすたと奥座敷のほうさ歩いていつたのでした。

雨傘屋の末の娘こが、かごめかごめばして遊んでいましたが、日が暮れても戻つてこないのです。

「どこさいつたのだべなや」

と家のひとたちは蒼い顔をして、心配するのです。

夜さなつても戻らないのです。騒ぎは大きくなるばかりです。

「どうしたどうしたべ」

と言つてるとひよっこり末の娘こが帰つてきました。

「どこさ行つていた」

と問うと、

「婆さんと一緒に町さいつたす」

と面白そうに話をするのです。

奥座敷さいつてみると、焼きものの婆さまは、さも申し訳ないという顔で、片隅さ小さくなくなつていました。

焼きものの婆さまの話は原ノ町さひろまりました。

ある日のこと、近所の町のひとが、お茶飲みにきて、

「おらの家にはむかしから、焼きものの爺さまがいるす」

と語つていきました。

その日から雨傘屋の婆さまは、姿を消してしまつたのです。

いまは近所の家の座敷に、焼きものの婆さまと爺さまが住んでいるそうです。雨傘屋のひとがいくらじぶんのところに運んでも、ここに戻つてくるものからです。





# 宮城県産業廃棄物処理場一覧

No	会社名	施設所在地/電話番号	事業範囲	内容
1	財団法人 宮城県環境事業公社	黒川郡大和町鶴巣小鶴沢字大沢5 ☎022-343-2425	最終処分	
			管理型埋立	
2	(株) 秋山建材	仙台市若林区荒浜字北長沼24-79 ☎022-287-5250	中間処分(破碎)	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
3	旭興業(株)	加美郡色麻町高根字新山前畑19他 ☎0229-65-2477	中間処分(破碎)	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、 木くず、廃石膏ボード
4	(株) アネステイ	黒川郡大郷町川内字北中別所26-5 ☎022-359-5881	中間処分(破碎) 移動式	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、 ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
5	(株) 菅野商店	仙台市泉区福岡字上板橋26-4 ☎022-379-7040 (有)マルカン産業	中間処分(破碎) (圧縮・切断)	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・ コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
6	(株) 木村土建	東松島市大塩字荻窪33 ☎0225-82-3006	中間処分(焼却)	紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残渣、廃プラ
			中間処分(破碎)	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、 ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
			中間処分 (圧縮・固化)	廃プラスチック類、紙くず、繊維くず
7	(株) 興栄	仙台市太白区坪沼字赤石山20-6 ☎022-281-4168	中間処分(破碎)	廃プラスチック類、木くず、ゴムくず、金属くず、 ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
8	(有) 晃進	宮城県利府町春日字寒風沢57-3 ☎022-356-8529	中間処分(破碎) 移動式	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
9	重吉興業(株)	石巻市門脇字元明神10番10-7-98 ☎0225-23-0204	中間処分(焼却)	紙くず、木くず、繊維くず
			中間処分(破碎)	廃プラスチック類、金属くず、ゴムくず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、紙くず、 木くず、繊維くず
			中間処分(溶融)	廃プラスチック類
10	(株)昭和羽前建設工業	仙台市宮城野区港三丁目8-9 ☎022-388-5226	中間処分(破碎)	廃プラスチック類、木くず、繊維くず、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、 がれき類、蛍光管
11	(有) 親和建設	登米市米山町字善王寺武道ヶ崎60-1,61-1 ☎0220-55-2268	中間処分(破碎)	がれき類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
12	(株)スカイクリーンツヤマ	登米市津山町横山字伊具66-2、82 本社 ☎0225-69-2315 プラント ☎0225-61-8051	中間処分(破碎)	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、木くず
			中間処分(焼却)	紙くず、木くず、繊維くず
13	(株) 杉沢工務店	伊具郡丸森町館矢間山田字市子沢82-11 ☎0224-72-4240	中間処分(破碎)	がれき類(コンクリートがらアスファルトがら)
14	(株) 鈴勇商店	石巻市鹿又字山下西122-1 ☎0225-86-5852	中間処分(圧縮)	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず
			中間処分(破碎)	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
15	(株) 高田商店	登米市中田町石森字蟹甲1 ☎0220-34-2545	中間処分 (圧縮・切断)	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず、 がれき類、金属リサイクル
16	田中産業(株)	仙台市若林区荒浜字南長沼14-20 ☎022-287-1050	中間処分(破碎)	がれき類(固定式・移動式)
17	田中建材輸送(株) (有)北日本クリーン	亶理郡亶理町吉田字松元209-10 ☎0223-36-3555 亶理郡亶理町字龍円寺前154-1外 ☎0223-36-3877	中間処分(破碎)	がれき類(国定式・移動式)
18	東北黒沢建設工業(株)	鶴巣リサイクルセンター 黒川郡大和町鶴巣太田字砂子沢57-1他 ☎022-343-2027	中間処分(破碎)	がれき類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
		TKRプラント 仙台市若林区卸町東四丁目4-28 ☎022-287-5233	中間処分(破碎)	木くず、廃プラスチック類、繊維くず、ゴムくず、紙くず
19	(株) 東洋環境開発	黒川郡大和町鶴巣山田字宮田23-1 ☎022-347-7811	中間処分(破碎)	廃プラスチック類、紙くず、木くず、 繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
20	鳥羽建設工業(株)	仙台市宮城野区扇町三丁目6-6 ☎022-782-2930	中間処分(破碎)	がれき類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
			天日乾燥	汚泥(生コンクリート)



No	会社名	施設所在地/電話番号	事業範囲	内容
21	(株) 平間建設 (株) 平間環境	岩沼市下野郷字三人谷地2-32 ☎0223-22-6373	中間処分(焼却)	感染性産業廃棄物、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、 廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、 動植物残渣、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず
			中間処分(破碎)	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず
			中間処分(破碎) 固定及び移動式	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
22	(株) 丸一興業	石巻市住吉町8-13 ☎0225-92-9611	中間処分 (破碎・移動式)	がれき類、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、 木くず、廃プラスチック類
23	(株) 丸正精建	柴田郡川崎町大字前川字長坂山47 ☎0224-84-5331	中間処分(焼却)	紙くず、木くず、繊維くず
			中間処分(破碎)	廃プラスチック類、がれき類、ゴムくず、金属くず、 紙くず、木くず、繊維くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず
24	(株) 宮城公害処理	仙台市若林区三本塚字荒谷381 ☎022-289-8222	中間処分(焼却)	木くず、廃プラスチック類、紙くず、ゴムくず、繊維くず、 金属くず、廃油、ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず
			中間処分(破碎)	木くず、廃プラスチック類、ゴムくず、繊維くず、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず
25	大和工業(株)	仙台市若林区荒浜字北長沼24-13 ☎022-258-6561	中間処理(選別)	廃プラスチック類、木くず、金属くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
			中間処理(破碎)	ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
26	(株) 橋本建機	名取市愛島台七丁目101-39 ☎022-381-0391	中間処理(破碎) 移動式	がれき類

## 宮城県解体工事業協同組合「躍進」

### クイズ回答欄

#### お便りお待ちしております！

ほのぼの談話室ではあなたのお便りをお待ちしています。あなたの会社の話題、  
器械や工事の話題、お国自慢、趣味やスポーツの話、詩や短歌、イラストなど、  
ご希望、ご意見もどうぞ。クイズに答えない方でも結構です。匿名やペンネー  
ムをご希望される方は赤白にその旨をお書き添えください。  
(採用分には記念品進呈！)

「躍進」18号をご覧になって

■ よかった記事・感想などをお聞かせください。

■ 組合への要望・ご意見をお聞かせください。

会社名  
会社所在地  
氏名

きりとり線



# お題!! バラバラになった文字を組み合わせ

# 二字熟語を完成させよ!

## 例題 会 木 糸 一

上記のバラバラになった文字を組み合わせると、『絵本』になります。  
同じ要領で、問題です!!

### 問題1

月 メ  
亡  
布 主

### ヒント!

国際宇宙ステーション(ISS)に実験棟があります!

### 問題2

吉 女  
氏  
日 糸

### ヒント!

6月が一番多い!?と思いきや、10月が多いそうです!

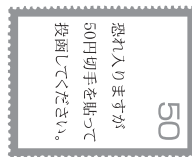
前号の答え=問題1(笑顔)、問題2(元気)

きりとり線

上・クイズの答えを左はがきに書いて送ってください。  
(FAXでも可。022-29223470)正解者の中から抽選で10名さまに素敵な景品を贈呈いたします。皆さんふるって応募ください。正解は次号で。  
**応募締切・平成24年12月31日(当日消印有効)**  
※当選者の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。予めご了承ください。

郵便はがき

9830833



仙台市宮城野区東仙台四丁目2-76

(渥美ビル300号室)

宮城県解体工事業協同組合 行



# 企業別解体工事施工技士資格者

宮城県解体工事業協同組合 平成23年

会社名	資格者氏名					
旭興業(株)	佐々木 憲					
(株)アネステイ	永根 悦郎	遊佐 敏昭				
(株)イシケン	曾根 裕幸	遠藤 利博				
いずみ清掃(株)	鈴木 哲夫	熊野 靖一				
(有)大泉工業	水上 徹彦					
小野寺工業(株)	小野寺 仁	吉田 賢二				
(株)菅野商店	菅野 俊二	菅野 早苗				
(株)木村土建	木村 努					
(株)興栄	山田 周平					
(有)晃進	櫻井 篤					
重吉興業(株)	山内 眞	及川 亮一	伊藤 恵治	武田喜美男	高橋 重吉	阿部 浩章
(株)昭和羽前建設工業	及川 岩	甘木 広志	金須 知幸	小澤 健		
(有)親和建設	大久保謙司	大久保義彦	小白 哲裕	佐々木 理	平 文仁	佐藤 伸
(株)スカイクリーンツヤマ	熊谷 宏明					
(株)杉沢工務店	杉澤 仁	杉澤 智美				
(株)鈴勇商店	鈴木 秀幸					
(株)仙台菊地組	菊地 昌樹	小畑 正美				
(株)大松	岡崎 尚則	高橋 憲治				
(株)高田商店	高田 義成	高田 浩成	高田 正奉	白鳥 英哉		
田中建材輸送(株)	由中 優一	岩間 淳一				
田中産業(株)	田中 一也	穂元 忠	菊池 明広	白簾 智明	田中 幸司	中鉢 富雄
東北黒沢建設工業(株)	佐藤 正之	矢野 成美	鈴木 茂	千葉 和夫	末谷 時成	平間 義弘
	齋藤 孝	佐藤 隆之	小島 貴博	佐藤孝次郎	佐藤 昇	佐藤 未治
	北川 達也	菅原 博	小原 吉信	板垣 秀哉	佐藤 信弘	
(株)東洋環境開発	阿部 康平	菊地 明吉				
鳥羽建設工業(株)	秋場 雅史	大和田 潤	伊藤 学	渡邊 拓郎	本間 祐	市川 健
	保科 了市	木村 光良	片桐光太郎	栗野 隆雄		
(有)永根実業建設	永根 喜郎					
(株)日進運輸建設	中村 義仁					
(株)平間建設	平間 正明					
(株)フジサイ工建	齋藤 亮一					
丸一興業(株)	熱海 敏行					
(株)丸翔	阿部 聡暢	佐藤 秀輝				
(株)丸正精建	伊藤 政夫	大宮 正信	佐藤 吉則	藤原 義則	大宮 貴史	青木 淳
	佐藤 重之	川村 利春	大宮 洋市			
(有)宮城興業	小松 克俊					
(有)山田建設	山田 光夫					
大和工業(株)	高橋 秀樹	星 清隆	高橋 亮	三浦 元信	伊藤 英俊	
キャタピラー東北(株)	佐々木秀史	松田 憲亮				
(株)橋本建機	橋本 陽子					



# 平成23年1月～12月活動実績

開催日 内容(開催場所・日時・参加者)

## 7月

- 4日(月) ○宮城県解体工事業協同組合平成22年度会計監査会開催  
組合事務所 PM10:00～  
佐藤理事長、大久保専務理事、橋本監事、  
高橋会計事務所 尾形様、事務局
- 6日(水) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 7日(木) ○緊急第4回理事・監事会開催  
開催場所/エスポールみやぎ PM2:00～  
報告/①東北ブロック会出席の件  
②仙台市へ支援金贈呈の件  
③仙台市環境局より委託、津波漂着がれき等撤去  
業務委託事業及び仙台港  
(仙台港区)立地企業の津波漂着がれき撤去委託  
事業の件  
④宮城県警察本部依頼重機賃借委託事業の件  
議題/1、平成23年度第17回通常総会の件  
①総会開催日は平成23年7月27日(水)  
午後1時30分からエスポールみやぎで開催  
②役員改選の件  
③平成23年度収支予算(案)の件  
2、商工組合中央金庫より借入金の件
- 11日(月) ○仙台市 3・11合同慰霊祭開催 国際センター  
組合より佐藤理事長出席
- 14日(木) ○古川工業高等学校建築科2年生 40名  
東北黒沢建設工業(株)鶴巣リサイクルセンター及びプラント見学
- 14日(木) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 15日(金) ○全解工連  
平成23年度「講習・試験 開催地事務責任者会議」開催  
当組合より橋本監事出席
- 19日(火) ○仙台市環境局  
損壊建物解体工事契約及び仕様書等説明会  
エスポールみやぎ PM1:30～ 安全関係書類綴り配布
- 19日(火) ○臨時理事・監事会開催  
エスポールみやぎ PM3:30～
- 20日(水) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 27日(水) ○第5回理事・監事会開催  
開催場所/エスポールみやぎ AM11:00～  
報告/①解体工事安全関係書類綴りの件  
議題/①平成23年度第17回通常総会の件  
(役割分担の件)  
②仙台市環境局より損壊建物解体委託事業の件
- 27日(水) ○宮城県解体工事業協同組合第17回通常総会開催  
開催場所/エスポールみやぎ PM1:30～  
参加者/会員31名 委任状出席 11名 欠席 1名  
総参加者 56名 招待者 3名

## 8月

- 3日(水) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 6日(土) ○平成23年度第1回東北ブロック会  
開催地/青森県青森市新町 ウェディングプラザ アラスカ  
開催時間/PM3:00～  
参加者/25名  
当組合より佐藤理事長、伊藤理事、高橋理事  
橋本監事、高田相談役、事務局が出席
- 11日(木) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 13日(土) ○盆休み8月16日まで
- 22日(月) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内3現場パトロール
- 22日(月) ○現場安全管理講習会開催  
開催場所/エスポールみやぎ  
安全管理講習及び解体工事安全関係書類綴り配布  
講師 建災防・中島指導員 55名参加
- 29日(月) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 7日(水) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 12日(月) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 21日(水) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 26日(月) ○第6回理事・監事会開催  
開催場所/エスポールみやぎ PM2:00～  
報告/①安全パトロールの件  
②宮城県警察重機賃借委託業務の件  
③商工組合中央金庫より借入金の件  
④仙台市より損壊家屋等解体・撤去処理業務  
高砂サニーハイツの件  
議題/①損壊家屋等解体・撤去処理業務委託の件  
②各支部会の件  
③青年部会の件  
④宮城県解体工事業協同組合 損壊家屋等  
解体・撤去 災害防止協議会設立の件  
⑤新規加入業者の件

## 10月

- 5日(水) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 6日(木) ○仙台市より委託事業、損壊家屋等解体・撤去処理業務完成  
書類等提出物説明会

- 13日(木) 会場/宮城県建設産業会館 57名参加  
○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 20日(木) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 24日(月) ○第7回理事・監事会開催  
開催場所/エスポールみやぎ PM2:00～  
報告/①仙台市損壊家屋等解体・撤去処理業務現状報告  
②宮城県警察重機賃借委託業務の件  
議題/①新規加入希望業者の件  
②理事・監事会開催日の件  
③会報「躍進」発刊の件(発行部数及び予算)  
④仙台市損壊家屋等解体・撤去処理業務概算予算の件
- 27日(木) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール

## 11月

- 2日(水) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 4日(金) ○宮城県警察本部より感謝状授与  
場所/組合事務所 AM10:00～  
佐藤理事長、甘木副理事長、山田副理事長  
大久保専務理事、橋本監事、斎藤理事、事務局が出席
- 8・9日(火)(水) ○平成23年度解体工事施工技術講習  
開催場所/宮城県建設産業会館 206名受講  
時間/AM9:20～17:20
- 9日(水) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 16日(水) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 18日(金) ○県南地区支部会開催  
開催場所/遠刈田温泉 パーデン家壮鳳  
開催時間/PM4:00～ 6名参加
- 24日(木) ○県北地区支部会開催  
開催場所/登米市迫町 割烹 若館  
開催時間/AM11:50～ 12名参加
- 24日(木) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 28日(月) ○第8回理事・監事会開催  
開催場所/ホテルニュー水戸屋 PM4:00～  
報告/①会報「躍進」発刊の件 現状報告  
②解体工事施工技術講習、施工技士試験の件  
③安全パトロールの件  
④仙台市損壊家屋解体・撤去処  
開催場所/エスポールみやぎ PM2:00～  
⑤仙台市環境局震災廃棄物対策事業安全協議会設置の件  
議題/①新春講演会・賀詞交歓会の件  
②新規加入希望業者の件  
③損壊家屋解体撤去災害防止協議会の件  
④東北ブロック会の件  
⑤石綿特別教育、木建講習会の件
- 30日(水) ○安全パトロール 県北地区  
伊藤理事、建災防・中島指導員、高田理事 古川地区パトロール

## 12月

- 4日(日) ○平成23年度解体工事施工技士資格試験開催  
開催場所/宮城県建設産業会館  
開催時間/12:20～ 受験者数 375名
- 5日(月) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 6日(火) ○安全パトロール 仙台市内  
建災防 東北黒沢建設工業 市内5現場パトロール
- 12日(月) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 15日(木) ○安全パトロール 仙台市内  
建災防 昭和羽前建設工業 市内5現場パトロール
- 19日(月) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 21日(水) ○安全パトロール 県北地区、仙台市内  
建災防、親和建設 石巻、市内 5現場パトロール
- 26日(月) ○安全パトロール 仙台市内  
伊藤理事、建災防・中島指導員 市内5現場パトロール
- 26日(月) ○第9回理事・監事会開催  
開催場所/エスポールみやぎ PM3:00～  
報告/①仙台市損壊家屋等解体・撤去処理業務委託  
現状報告及び今後の件  
②宮城県警察機械賃借業務委託の件  
③中央会主催 新春講演会・名刺交換会の件  
④解体工事施工技士試験開催の件  
⑤建災防主催石綿特別教育の件  
⑥解体組合カレンダー作成配布の件  
⑦平成24年1月6日仙台市消防局より  
感謝状授与の件  
議題/①新春講演会・賀詞交歓会の件  
②県・市・新年挨拶回りの件  
③平成24年度総会開催月日の件  
④安全パトロールの件  
⑤トイザラス、高砂サニーハイツの施工体制の件  
⑥宮城県発注石巻地域の件  
⑦入札方式提言の件  
⑧東北ブロック会より平成24年国土交通大臣顕彰候補者の件
- 27日(火) ○安全パトロール 県南地区、仙台市内  
建災防 山田建設 市内5現場パトロール
- 29日(木) ○仕事納め

# 平成23年1月～12月活動実績

開催日 内容(開催場所・日時・参加者)

- 1月**
- 5日(火) ○仕事始め
- 12日(火) ○宮城県、仙台市、県警本部、中央会、仙台市消防局挨拶回り。  
顧問今野隆吉県議、石川光次郎県議、橋本啓一市議  
佐藤理事長、甘木副理事長、山田副理事長、大久保専務理事、  
佐々木事務長
- 17日(火) ○産業安全祈願祭(宮城労働基準協会主催)  
開催場所 ホテル法華クラブ仙台 甘木副理事長出席
- 20日(木) ○宮城県中小企業団体中央会主催  
新春講演会・名刺交換会  
開催場所 江陽グランドホテル  
甘木副理事長、山田副理事長、高橋理事出席
- 28日(金) ○第10回理事・監事会開催  
開催場所 ホテルニュー水戸屋  
報告 ①平成23年年初挨拶回りの件  
②(社)宮城労働基準協会主催  
平成23年度安全祈願祭出席の件  
③中央会主催新春講演会・名刺交換会出席の件  
④会報「躍進」発刊の件  
⑤退会賛助会員の件  
⑥新春講演会・賀詞交歓会の件  
⑦青年部会継続の件  
議題 ①各支部役員改選の件  
(総会後各支部会開催・支部会日程の件)  
②第17回宮城県解体工事業協同組合通常総会の件(各担当決定の件)  
③古川工業高校より木材提供の件  
④消防局より訓練用解体工事現場提供の件  
⑤台湾視察研修会の件  
⑥今野隆吉(顧問・宮城県議会議員)氏講演会の件
- 28日(金) ○平成22年度第2回東北ブロック会開催  
開催場所 ホテルニュー水戸屋  
参加者 24名  
当組合より参加 佐藤理事長、山田副理事長  
大久保専務理事、田中(忠)理事、田中(一)理事  
坂口理事、大槻氏(飛田組)伊藤理事、高橋理事  
菅野監事、橋本監事、高田相談役、事務局出席
- 2月**
- 2日(火) ○(社)全解工連正会会長・事務局長会議  
開催場所 都市センターホテル  
当組合より参加 佐藤理事長、山田副理事  
高橋理事、伊藤理事、事務局
- 3日(水) ○仙台市消防局との震災対応合同訓練実施  
開催場所 仙台市青葉区通町一丁目6-9  
工事現場 羽鳥建設工業  
参加者 佐藤理事長、山田副理事長、坂口理事、東洋環境  
高田商店、コマツ建機、他
- 10日(木) ○第11回理事・監事会開催  
開催場所 メルパルク仙台  
報告 ①(社)全解工連会長・事務局長会議及び新年賀詞交歓会の件  
②仙台市消防局との震災対応合同訓練実施の件  
③古川工業高等学校解体木材提供の件  
④解体工事施工技士登録更新講習の件  
議題 ①新春講演会及び賀詞交歓会の件(継続、確認)  
②平成22年度決算の件  
③支部会開催日の件
- 10日(木) ○平成22年新春講演会及び賀詞交歓会  
場所 メルパルク仙台 PM2:30～  
講演 衣川喜仁  
「女の起業家」～(はっと)に賭ける食文化～  
参加者 組合員、賛助会員 77名  
招待者 宮城県土木部長他22名 計99名が参加
- 24日(木) ○古川工業高等学校より解体木造建築物構造材再利用促進の基礎  
的研究事業に貢献したことに対し感謝状が授与された。また木材  
提供に協力した(株)丸正精建、(有)山田建設も感謝状を授与され  
た。当日組合より佐藤理事長、山田副理事長、伊藤理事、事務局が  
出席
- 3月**
- 8日(火) ○廃棄物処理法の改正説明会の件  
エスポールみやぎで開催。当日は講師として宮城県環境生活部  
廃棄物対策課指導班課長補佐・熊谷仁様、大道健太郎様に来てい  
ただいて10時30分～12時まで改正について説明を聞いた。  
当日は会員・賛助会員含め33名が参加した。
- 8日(火) ○リスクアセスメント研修会の件  
エスポールみやぎで開催。  
建設業労働災害防止協会 中島指導員によるリスクアセスメン  
ト研修会を午後1時から開催し12名が出席した。
- 11日(金) ○東日本大震災発生 PM2時46分
- 12日(土) ○仙台市消防局より緊急依頼あり  
塩釜・亘理線他道路整備に協力  
3月12日～3月18日
- 22日(火) ○第12回理事・監事会開催  
開催場所 宮城県解体工事業協同組合事務所  
報告 ①新春講演会及び賀詞交歓会収支の件  
②廃棄物処理法の改正説明会の件  
③リスクアセスメント研修会の件  
④平成22年度収支の件(概算予想)  
⑤古川工業高等学校より感謝状授与の件  
⑥平成23年東北ブロック会定例総会の件  
議題 ①宮城県解体工事業協同組合 第17回通常総会の件  
②賦課金未納業者の件  
③災害時の無線購入の件  
④東日本大震災の件
- 30日(水) ○仙台市環境局震災廃棄物等の処理に協力  
仙台市宮城野区、若林区捜索に協力

- 4月**
- 3日(日) ○宮城県警察本部より捜索協力要請あり  
気仙沼地区、石巻地区、河北町地区、南三陸町地区、仙塩地区、  
名取岩沼地区、亘理地区に重機協力
- 13日(水) ○第1回宮城県災害廃棄物処理対策協議会  
開催場所 宮城県自治会館会議室 PM1:30～  
佐藤理事長、事務局出席
- 19日(火) ○平成23年度第1回理事・監事会開催  
開催場所 エスポールみやぎ  
報告 ①東日本大震災組合活動報告  
議題 ①宮城県解体工事業協同組合  
第17回通常総会の件  
②東日本大震災今後の取組みの件
- 22日(金) ○亘理郡山元町に挨拶 佐藤理事長、山田副理事長、事務局
- 25日(月) ○緊急理事・監事会開催  
開催場所 エスポールみやぎ  
議題 ①仙台市からの今後の受注に対する組合対応の件  
②宮城県及び仙台市に対する支援金の件  
③定款第13条に係る行為をした組合員の件
- 27日(水) ○震災廃棄物処理現場関係者打ち合わせ  
開催場所 仙台市環境局大会議室(小田急ビル)  
佐藤理事長、事務局出席
- 28日(木) ○平成23年東北ブロック会定例総会開催  
開催場所 メトロポリタン仙台 PM5:00～  
佐藤理事長、山田副理事長、高田相談役、伊藤理事  
坂口理事、高橋理事、橋本監事、事務局
- 5月**
- 6日(金) ○緊急第2回理事・監事会開催  
開催場所 エスポールみやぎ  
報告 ①仙台市環境局より依頼の捜索協力の件  
②宮城県警察本部依頼の派遣重機の件  
議題 ①(社)全解工連よりの支援金の件  
②退会会員(株)飛田組の件  
③県市町村からの解体工事発注依頼の件  
④仙台市内解体工事受注、組合対応の件
- 7日(土) ○東北支部会、県南支部会、仙台支部会開催  
開催時間 ①東北支部会 AM10:30  
②県南支部会 PM2:00  
③仙台支部会 PM5:30  
議題 ①(社)全解工連よりの支援金の件  
②退会会員(株)飛田組の件  
③県市町村からの解体工事発注依頼の件  
④仙台市内解体工事受注、組合対応の件  
佐藤理事長、甘木副理事長、山田副理事長  
大久保専務理事、事務局出席
- 16日(月) ○賛助会員組合活動現況報告及び今後の活動協力の件  
開催場所 エスポールみやぎ PM2:00
- 23日(月) ○解体工事に伴う現場の安全管理講習会開催  
PM1:00～ 建災防・中島指導員  
損壊した家屋等の解体・撤去までの流れと題して説明会開催  
PM3:30 仙台市環境局太田工務調整班長  
開催場所 エスポールみやぎ  
参加者 140名
- 24日(火) ○宮城県へ支援金贈呈  
全解工連より300万円、組合より100万円  
合計400万円を寄附  
顧問今野隆吉県議会議員、石川光次郎県議会議員、当組合より佐  
藤理事長、甘木副理事長、山田副理事長、大久保専務理事、事務局
- 26日(木) ○仙台市環境局より被災建物解体工事の依頼50件有  
佐藤理事長、齊藤理事、事務局が受け取り
- 6月**
- 2日(木) ○仙台市環境局より発注の損壊家屋解体工事説明会開催  
会場 エスポールみやぎ  
開催時間 PM1:30～  
出席者 33社 55人出席
- 3日(金) ○(社)全国解体工事業団体連合会第34回通常総会開催  
場所 鉄鋼会館  
開催時間 PM2:00～  
当組合より佐藤理事長、山田副理事長が出席会長顕  
彰に東北ブロック宮城県より東北黒沢建設工業(株)矢  
野成美様が受賞された。
- 6日(月) ○緊急第3回理事・監事会開催  
開催場所 エスポールみやぎ PM5:30～  
報告 ①平成23年度全解工連会長顕彰者の件  
②全解工連よりの支援金の件  
議題 ①新規加入業者の件  
②第17回通常総会日程の件  
③第17回通常総会役員改選の件  
④仙台市発注被災建物解体工事の件
- 9日(水) ○仙台市へ支援金贈呈  
全解工連より300万円、組合より100万円  
合計400万円を寄附  
顧問 橋本啓一市議会議員  
当組合より佐藤理事長、甘木副理事長、山田副理事長  
大久保専務理事、事務局
- 9日(水) ○仙台市より委託された被災建物解体工事が本日より開始された。
- 13日(月) ○損壊家屋等の解体・撤去処理業務委託仕様書等説明会開催  
開催場所 エスポールみやぎ  
仙台市: 仙台市環境局震災廃棄物対策室  
太田工務調整班他3名  
組 合: 佐藤理事長、山田副理事他49名参加
- 21日(火) ○臨時総会開催  
開催場所 宮城県解体工事業協同組合事務所 PM2:00～  
第1号議案 借入金残高の最高限度額決定の件  
参加者 11名 書面参加21名 異議なく可決確定



# 東日本大震災組合活動経過(平成23年3月11日～6月19日)

## ■平成23年3月11日(金) 午後2時46分地震発生。

当組合事務所内書類棚、食器棚は地震のため倒壊、書類などが室内に散乱し足の踏み場もなし。事務所内をそのままにマンション住人と共に外に避難。18時事務所を退出。電気、ガス、水道のライフラインが全て止まりローソクの明かりで過ごす。携帯電話も中々繋がらない。23時過ぎ佐藤理事長より携帯に電話があり仙台市議会議員顧問の橋本啓一氏も仙台市消防局に向っているのが急ぎ向うよう指示を受ける。23時10分頃消防局に到着し橋本市議と合流。消防局では現在の状況をまだ把握できていない状態で今はどうしようもないとの事。

## ■3月12日0時10分頃

橋本市議と共に消防局を出て帰途に向かう。14時頃橋本市議がバイクで組合事務所に来られ今、仙台市消防局と打合せをしてきたとの事。内容はこれから消防局より支援の要請があるようなので宜しくとの事。14時30分頃仙台市消防局警防部警防課の安倍朗消防指令が事務所に来る。安倍消防指令は至急、県道塩釜亘理線の啓開活動を依頼したいとの事。近場の理事・監事諸氏に携帯電話をしたが連絡取れず。14時40分頃、事務所を出て佐藤理事長の東北黒沢建設工業に行ったが小島氏がいて、今はもう誰もいないとの事。次に田中産業の田中理事を訪ねたが理事は荒浜方面にでかけており不在とのこと。更に近くの大和工業に向かった。大和工業には高橋社長以下、岡崎氏等もいて事情を説明した結果、ふたつ返事で道路啓開をする事を決定し、高橋専務他4名が岡崎氏と共に農業園芸センターの近くまで行ったが、それ以上は進めない状態であった。大和工業の荒浜にある中間処理場まで水の中を徒歩で行ってもらい、動ける重機を点検しホイールローダーで作業を開始した。重機の照明だけで県道塩釜亘理線 南長沼近辺より高砂橋のたもとまで啓開作業を行ない22時40分頃までかかり終了した。

## ■3月13日(日)6時30分頃

仙台市消防局安倍消防指令より電話があり消防局に向かう。

安倍指令より今日は高砂橋からキリンビール、東洋製缶西側道路みなと公園付近までの道路啓開作業を依頼されたが理事・監事に携帯電話で連絡をするが繋がらない。10時過ぎ橋本監事と連絡が取れ急ぎ消防局に来てもらう。10時30分過ぎ橋本監事が到着。その後、鳥羽建設工業の秋葉常務と連絡が取れ重機を出すことになり、更に昭和羽前建設工業の甘木社長とも連絡がつき夕方、重機を積み現地に来てもらうことにした。

12時過ぎ橋本監事がトラックを手配し鳥羽建設工業に重機の引き取りに行き現地に向かい、キリンビール、東洋製缶西側道路及びキリンビール南側の横浜冷凍、ワキタの前面道路啓開作業を行う。16時頃、昭和羽前建設工業の重機が現地に到着したが津波警報で避難命令が出たので作業中止した。

## ■3月14日(月) 8時30分キリンビール(仙台市宮城野区港) 脇の交差点に安部消防指令、佐藤理事長橋本監事、佐々木事務長が集合。再度道路啓開活動の要請があった。

## ■3月16日(水) 道路啓開活動終了

## ■3月17日(木) 安倍指令より連絡があり、JFE条鋼及び東邦運輸倉庫に重機を回すよう依頼される。

## ■3月18日(金) 作業を行ない、ここで仙台市消防局の啓開活動終了した。

## ■3月28日(月) 17時10分東日本大震災の件で仙台市環境局と打合せ(小田急不動産ビル) 佐藤理事長 甘木副理事長、山田副理事長、大久保専務理事、事務局出席。

①津波がれきを荒浜、蒲生、井戸の仮置き場まで運搬の件

②損壊家屋の解体撤去運搬の件

③人命救助、遺体搜索等並びに解体作業を行う件(1パーティ重機1台、ダンプ3台)

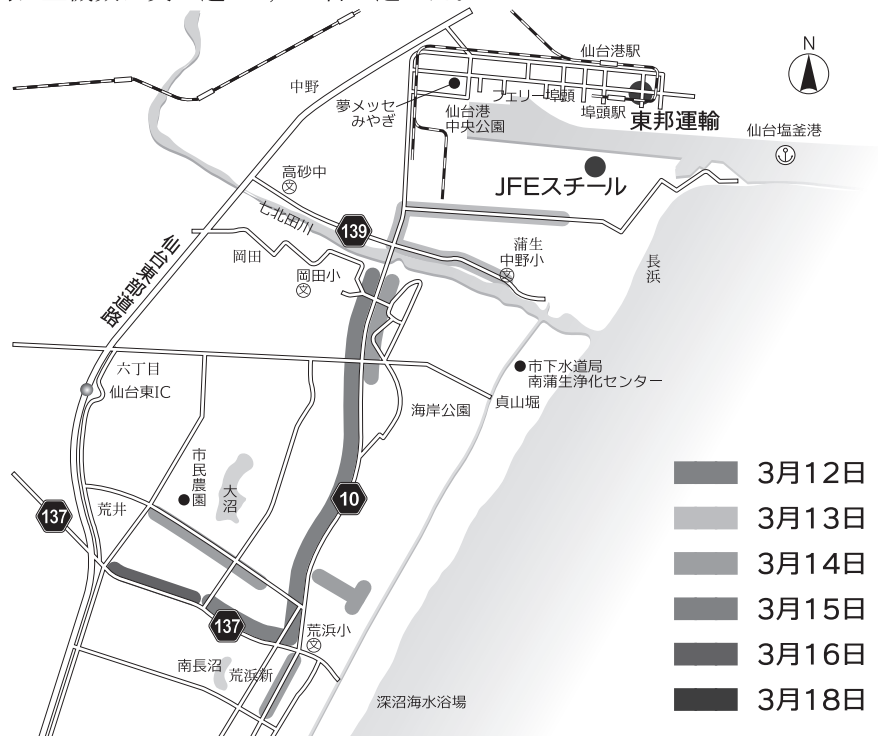
当面3月30日、又は4月1日から(宮城野区、若林区)動けるかどうか。

④組合の業者及び県内の業者を活用

⑤明日29日まで返答する。

## ■3月29日(火) 仙台市環境局打合せ(萱場局長、遠藤総括主幹)

- 3月30日(水) 8時30分キリンビール南門に集合。組合より4パーティ参加  
作業開始(工事名 平成22年度津波漂着がれき等撤去業務委託その4)  
着 工:平成23年3月29日～平成23年3月31日)  
工 事 名:平成23年4月1日～平成23年度津波漂着がれき等撤去業務委託その5  
宮城野区、若林区を県警、消防等の遺体捜索作業に協力。(最大約14パーティが参加)
- 4月3日(日) 宮城県警察本部、加藤克臣警備補より遺体捜索作業の重機を手配できないか、期間は約1ヵ月との電話を受ける。
- 4月4日(月) 宮城県警察本部から人命捜索作業で気仙沼地区に重機4台、南三陸地区に4台、石巻地区に4台、河北地区に3台、仙塩地区・仙台 南1台、東1台、名取・岩沼に2台、亶理に1台、計20台重機の依頼を受ける。
- 4月7日(木) 宮城県警察本部から石巻地区、南三陸地区、名取・岩沼地区、亶理に地区に検索作業のため重機を展開。
- 4月8日(金) 宮城県警察本部から人命捜索作業で河北地区、気仙沼地区も開始した。
- 4月27日(水) 震災廃棄物処理現場関係者の打ち合わせがあり(19時30分～20時30分、仙台市環境局大会議室) 損壊家屋解体、撤去作業計画についての説明会が行われた。業務の規模として予定解体家屋9,000件(月750件、1日30件)、一件当たり一班5日、150班を必要とする等の説明あり。損壊家屋解体は早ければ5月中旬より開始するとの事。
- 平成23年5月18日午前10時 仙台市環境局太田班長、高柳氏、鈴木氏より損壊家屋等解体・撤去処理業務の単価の件で打合せがあり、平成23年5月23日に正式に業務委託契約を締結。平成23年6月6日に第1回の立会が始まり6月9日に最初の解体工事が開始された。(平成24年3月31日現在、仙台市より約4,872件発注あり、3,525件が完了し、現在も継続中。)
- 6月2日平成23年度人命捜索に係る津波漂着がれき等撤去業務委託の全ての作業を完了。
- 11月4日に宮城県警察本部長から感謝状を授与する。
- 平成24年1月6日  
奥山仙台市長より東日本大震災の道路啓開活動及び人命検索活動に対し感謝状が授与される。
- 3月30日 平成23年4月7日に始まった宮城県警察本部より依頼があった検索作業が終了した。その間、各地区に配置した期間1年間、重機数は実に述べ2,577台に達した。





# その時

3・11

# 道路啓開に尽力 理事長として誇りに思う。

東北黒沢建設工業(株)

仙台市若林区卸町東4-4-28



代表取締役  
佐藤 正之  
理事長

発災時に私は、大崎市鹿島台の現場調査をしていて、自宅が近くだったので、自宅で休憩していたところでした。そこにもうの凄まじい揺れが襲ってきました。

茶箆筒が腰折れするなどして家屋内がめちゃめちゃになりました。思わず外に逃げ、車でTVを付けました。程なくしてTVで大津波の警報を知り、すぐに会社に電話し、海から西側の宮城野区榴ヶ岡方面にすぐ逃げるよう指示を出しました。でも全社員に連絡が行き渡らなかつたようで、貴重な人材を一人失いました。仙台市若林区荒浜に自宅がある社員ですが、地震直後自宅に向かったそうです。結果、家族は避難して無事だったのですが、本人は津波にのまれてしまいました。その日、震災の影響で道路が動かないので、依然私は自宅にいましたが、夜10時頃になって、ようやく当組合の佐々木洋悦事務長、組合顧問の橋本啓一市議会議員に電話が繋がりました。仙台市消防局と当組合は災害協定を締結していましたから、「済まないけど自分の代わりに仙台市消防局を訪ねてほしい」と要請しました。

翌日、会社に出社したら、何人か出勤していましたが、その日社員は帰らせて、私は津波被害地域・仙台港に向かいました。

ガレキ処理が開始していると聞きましたから。目を覆いたくなるような惨たらしい状態でした。間もなく当社は人命捜索活動に加わりました。燃料の確保は苦勞しました。ある日、あるゼネコンから当社に1・4klの軽油提供の申し出がありました。ありがたく貰い受けようと思いましたがドラム缶がないんです。ガソリンスタンドに行ったら3〜4本程度しか確保できない。そこでGSのタンクに入れて、後日、数量生産しようと約束してしばらくは凌いでいきました。その内、自衛隊から組合向けにドラム缶で提供を受けるようになりました。1回で14本だったでしょうか？ GSでは、そんなに入らないと言うので、倉庫会社に保管して貰い、その都度ピストン輸送し、そのGSで給油したものです。

3月12日〜4月中旬までは社員と会社に泊まりきりでした。服も着たきり

でした。幸い断水は免れ、電気復旧も早かったです。

宮城県との災害の協定は機能しませんでした。宮城県警との連携はとれたのでまるつきりというわけではないですが、他市町村も仙台市以外は同様でした。仙台市消防局や宮城県警とは何故連携できたか。これまで防災訓練で解体現場を提供したり合同訓練したりと行き来、相互協力を重ねてきましたので、信頼関係を築いてきたからだといえるでしょう。電話が全く繋がらなかったことは苦しかったです。組合の連絡網はあつてデモンストレーションはしていますが、繋がらないのでは意味がありません。今後どう克服するべきなのか、課題です。

仙台市消防局の依頼は、道路啓開、宮城県警の依頼は遺体捜索及び重機の提供、そして、仙台市の蒲生処理場へ受け入れを始めてから仙台市環境局からの依頼で捜索に伴ったガレキ撤去と作業内容は大きく3つです。

また、仙台港で発生した火災に重機を派遣し消火活動の協力もしました。作業に当たりながら、誰も報酬のことを口に出すものはいませんでした。社員を亡くしたり、重機や資機材を流されたり、それぞれ被災しているにも関わらず、ガレキと遺体が散在する中、皆黙々と、皆泣きながら作業をしてい

ました。燃料は枯渇し、水も食料も入手困難でした。当社から炊き出しもしましたけど、その内、関係関連の方々を持つてきてくれるんです。感謝です。佐々木事務長にも頭が下がります。電話が通じない中、各社に向向いてくれました。組合員の鳥羽建設工業、大和工業、昭和羽前建設工業さんらは即、重機を出動してくれました。オペレーター、重機搬送用のトレーラー手配と、通信手段が断絶した中、見事に動いてくれました。組合理事長として誇りに思います。あの時、真つ先に動いた、動かざるを得なかつたのは当組合です。まずは道路啓開しなければ、消防も警察も被災現場にいけないのですから、あれこそ解体業の仕事です。解体業の有する重機、技能等が非常時に最優先で求められるということを証明できたのだと思います。

行政には今回の震災を教訓としてそのことを強く認識していただきたい。消防や県警と実施してきた防災訓練が実務上活かされたか？内容は地震で倒壊した建物の取り残された人を救助するという訓練が主体でした。しかし今回の地震で建物倒壊による被害者は、少なくとも仙台市では報告されていません。訓練のあり方は、復旧がひと段落した頃にでも仙台市消防局など意見交換する必要があります。



# 経験したことのない揺れ 震災で組合の結束力が強化。

(株)昭和羽前建設工業

本社 仙台市青葉区昭和田2-1-27  
港センター 仙台市宮城野区港3丁目8-19



代表取締役  
甘木 英寿  
副理事長

## 地震、発災時

自社の中間処理施設の港センター（仙台市宮城野区港）に向かっていました。途中、遅めの昼食をセンター近くでとる予定でしたが、急用で自宅に戻ることになりました。今、思えばあそこで昼食を食べていたら、…ぞつとしますね。

## 最初に

経験したことのない物凄い揺れが長く続き、殆どのライフラインが停止しました。これは、ただ事ではないと、すぐ、知己のある山形県に向き、米27俵を求めました。そして、仙台市へ10俵を寄贈。その後は、家族総出で午前4時起床で現場に向かうオペや関係者の皆さんにオニギリを作り手渡ししました。これは大変喜んでもらいました。

## 被害・社員の安否

私が向かう予定だった港センターは

仙台南港が目の前で、大津波で事務所には3人が取り残されました。3人は2階に避難したのですが、水かさが増して来たので、流れてきたバットで窓ガラスを壊し、若くて身軽な社員が屋根によじ登り、全員が避難できました。その後、津波で屋根に乗ったまま150mほど事務所ごと流され、翌日、自力で戻ることができました。津波で事務所棟、破砕機、重機6台、トラック4台が流出しましたが、奇跡的に人的被害がなく機転を利かしてくれた社員に感謝しています。

## 道路啓開で

仙台南港前の道路啓開作業に従事し重機2台、オペ5人が4〜5日作業しました。

重機の燃料は確保できたのですが、従業員のガソリンが手配できずに苦労しました。現場は、常に余震が続く中で、上空のヘリと消防局が警戒しながらの啓開作業で、余震が来る度に、全員で避難しました。まさに、神経を磨

り減らしながらの作業でした。また、宮城県警の要請を受けて捜索に協力を行い石巻市の沿岸部に打ち上げられたガレキ内から行方不明者を捜索するもので、オペが重機でガレキを慎重に移動しながらの捜索でした。現在も名取り市、気仙沼市で実施しています。従事した社員らが体調不良を訴えるもので仙台東照宮（神社・仙台市青葉区）でお祓いしながらの作業で、精神的に大変辛い仕事でした。犠牲になられた皆様のご冥福をお祈りいたします。

## 仙台市発注の 損壊家屋を施工

現在160パーティーを出しています。各県から応援を頂いていますが、技術の格差があり苦労しています。クレームが出ないよう、また、事故を起こさないよう防災防のご指導を仰ぎながら進めております。現在までお陰様でゼロ災害です。災害復旧工事が始まった当初から毎週、安全会議をしています。次々発生す

る諸問題の原因を迅速につき止め、改善、対応していることが功を奏していると思います。また、仙台市へ提出する関連書類が煩雑で大変苦労していますが今回の大災害を経験して、組合の結束力が益々強まったと感じています。

被災したリサイクルセンター



# 社員から小学生3人をかかえて避難、通信不能で安否確認できず苦勞。

(有) 親和建設

登米市米山町字善王寺大久保76-1



専務取締役  
大久保謙司  
専務理事

## 発災地

事務所から気仙沼市鹿折小学校旧校舎の解体工事（気仙沼市西八幡町）現場に向かう途中で、あまりにも大きな揺れで事務所引き返し、その現場にいる5人にすぐ戻るように電話で指示をしました。（現場のある鹿折地区は気仙沼湾の最北端に位置し、津波で油タンクが押し流され、湾に流出し大規模な火災が発生した地域）その場所は気仙沼市内では被害が一番厳しい所です。その後、情報が錯綜する中、安否だけは確認していたのですが連絡不通となり所在が分からなくなりました。社員の避難経路を想定し救出に向かいました。結果、高台にある現場監督さんの自宅にお世話になっていました。監督さんには本当に助けていただきました。誌面を借りまして改めてお礼申しあげます。

## 小学校現場

現場である学校は、卒業式の直前で、

当社は旧校舎の解体工事を施工中で、その工事も終盤を迎えていました。広い校庭には現場の仮囲いを設置していましたが、現場の5人は地震後の津波に全く気付かなかったそうです。そして、地震後の情報が錯綜する中、突然、3階建て校舎の屋上にいた先生から、「津波が来た！生徒を助けてください」という声にそこで初めて、津波が来たのだと気付いたそうです。現場の5人は屋上に逃げ遅れた数人の子どもを抱きかかえたまま、3mの仮囲いを乗り越え、校舎2階部分までの高さ程のJR大船渡線の線路に避難し難を逃れ命拾いをしました。津波は、仮囲いを越える頃には足元まで来ていたもので、あと少し逃げ遅れていたなら、皆の命がなかったでしょう。残念な事にその時、迎えに来た車で避難しようとした2人の生徒が目の前で車ごと津波に流され、見ていることしかできなかったそうです。人間の運命を感じざるを得ません。

## 復旧工事

発災時、気仙沼市内にある建設業関連の重機は殆ど津波で流されました。たまたま、当社の重機3台が被害を免れていましたので、すぐ、気仙沼市役所から道路啓開の協力要請を受け作業を行いました。作業は自衛隊の重機が先頭でガレキを取り除き、当社は2人の誘導員、オペ3人、重機3台で道路を拡幅、さらに、その後を自衛隊の重機で道路のガレキを取り除き拡幅します。およそ4週間程その作業を行いました。

## 被災者

私も初日に、道路のガレキ撤去に参加しましたが作業中、多くの被災されたご遺体を発見しました。大変辛いことですが、ご遺体を早くガレキの中から出してやるのが供養になると自分で気持ちを変えて行いました。被災された多くのご遺体は流木やガレキで損傷し、水中から発見された方は、体がばんばんに膨らみ、うつ血して顔が黒くなった状態です。着衣で男女が分かる程度で、お年寄りや男女の区別すら付かない程損傷していました。

我々は、ご遺体が発見された場合、できる範囲でガレキを取り除き、自衛隊が県警に引き継ぎます。作業員は塩で自分を清めながらの仕事で、体調が

すぐれず特定の現場に出れない作業員もいました。

## 苦勞

当社では人的被害がなかったことが一番です。しかし事務所が全壊し社員2台の車が津波で流出しました。また、3・11地震と津波で電話が使用不可能となり、連絡がつかず安否確認や復旧工事の手配などで大変苦勞しました。被災地が市町をまたいでいるため行政側の責任者が誰なのか、指示が統一されず作業を行うのに苦勞しました。

もう二度とあつてはならないことですが、今後の教訓として災害時のマニュアルを再構築しなければならぬと考えています。



# 臨時災害復興本部を立ち上げ 道路啓開活動を！

大和工業（株）

仙台市宮城野区扇町7-3-43



社長取締役代表  
高橋 章  
理事

東日本大震災発生後の対応を  
教えてください。

地震発生後、緊急災害対策本部を立ち上げるため、本社の敷地内に設置したキャンピングカーを本部事務所として活用し、そこに社員全員を招集しました。翌日3月12日の午前7時には出勤可能な社員を集め、私が緊急災害対策本部長を務め、緊急会議を開きました。そして、この本部が宮城県解体工事業協同組合、東北建設機械施工協会、宮城県産業廃棄物協会の合同による臨時災害復興本部扇町となりました。

緊急活動は  
どのようなものだったのですか。

宮城県解体工事業協同組合の要請を受け、仙台市消防局若林署と東署の立会い・指示の下、仙台市宮城野区蒲生地区と同若林区荒浜地区を対象に、大津波による幹線道路上の流木や倒れた電柱、潰れされた車輛、建物の有価物などの除去活動を、3月12日から同月

16日にかけて行いました。目的としては、被災者救助の緊急救急車輛や消防車、工作車が通れる道路の確保です。道路に障害物があれば、救助・捜索活動に支障が出てしまいます。また、3月18日には、仙台市消防局東署と共同で仙台新港地区にある東邦運輸とJFEスチールの火災現場の消火活動に重機で協力しました。

地震直後からの作業です。  
困難を極めたのでは？

道路啓開作業はヘドロが邪魔をして、通常の建設機械では施工できませんでしたので、超大型建設機械に切り替えて作業を行いました。また、一刻を争う作業です、



目的達成のために昼夜を通しての作業となりました。作業する上での優先順位は、やはり第一が人命救助、第二に救助用幹線道路の復旧、第三に循環道路の復旧で、施工目標を1週間に設定し、スピード感を持って実行しました。

緊急活動ということで大きな  
励ましも寄せられたそうですね。

元JICA総裁の川上隆朗氏と元日本アセアンセンター事務長で元タイ総括大使の赤尾信敏氏から、私の指導力で災害復興に最善の努力をしてほしいと激励を受けました。

今回の活動を通して、  
何か思うことはありましたか。

行政には震災復興に係る財源を有効に、そして迅速に活用してほしいと思いました。大震災からの復興をより早く進めるには、資金を行政、金融機関、地元企業、地元住民でうまく循環させなければなりません。復旧工事を行うわれわれ地元中小企業が資金難で息切れしてしまつては、復興の妨げとなりかねません。それから、今回のような緊急性のある活動では、個人の利得は考えず、活動に参加する相互間の信頼とチームワークが非常に大切であると

感じました。今回の緊急支援活動も、解体組合のチームワークが一つにまとまっていたからこそ、結果として大きな貢献に繋がったのだと思います。

# 地元優先発注で 地域貢献を！

田中産業(株)

本社 仙台市若林区六丁の目西町1-1-2060  
第二工場 仙台市若林区荒浜字南長沼14-1



代表取締役  
田中 一也  
理事

## 地震、発災時

本社から中間処理施設の第二工場（仙台市若林区荒浜）に車で向かう途中でした。突然、車がパンクしたかと思うほどのすごい揺れを感じました。気が動転している時、上空からヘリコプターが大津波警報の避難指示を聞き本社へ引き返しました。事務所では安否確認ができた社員から帰宅させました。

## 被害

社員や家族の人的被害はありませんでしたので、これが一番の幸いです。しかし、私が向かう予定だった第二工場、コンクリート破碎工場が大津波の直撃を受け、甚大な被害を受けました。工場88、000㎡の敷地は3m程高く整備しておりましたが、6m位の大津波のり面を乗り越えて工場を襲い作業をしていた社員4名が取り残されました。直ぐ、消防署にヘリでの救出を要請しました。しかし、敷地は津波

が運んで来たガレキで被いつくされていましたが、コンクリートは流されないので、「最後に救出する」と断わられてしまいました。

結局、社員は翌日の昼頃、胸まである水位の中を、水に浸かりながら自力で帰ってきました。敷地には沿岸部の深沼地区、荒浜地区のガレキと化した住宅の7割近くが流入しました。被害は、重機車両11台が水没しましたがプラント本体は流出したがガレキが波を割り無事でした。その後、大型油圧ショベル5台と社員10名ほどでおよそ3カ月、仙台市消防局、環境局に協力し、流入したガレキの撤去と行方不明者の捜索に当たりました。その結果、この第二工場付近から100人以上のご遺体が収容されました。捜索に従事した社員には精神的に大きな負担をかけてしまいました。

## 苦勞

重機車両の燃料調達には苦勞しましたが、お取引先のご協力により捜索活

動に必要な燃料はなんとか自分で確保出来ましたが社員のガソリンは思うように調達出来ず不便をかけました。又、携帯電話に特化した連絡体制にも問題を感じました。そのような状況下で、組合からの道路啓開などの要請にはなかなか応えられませんでした。大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。第二工場もお陰様をもちまして昨年6月27日に営業再開でき、重機車両の整備も一段落し組合の要請で東北森永乳業（仙台市宮城野区港）仙台工場のガレキ撤去の協力を行うことができました。このような災害時にこそ常日頃からの備えが大切だと反省しています。

## 仙台市発注の 損壊家屋を施工

今（平成24年1月）は7〜10パーティーで作業を行っています。工事は民間物件の他に、災害復旧工事で多くの解体案件がありますが、災害特需はいずれ落ち

着きを取り戻します。既存の顧客を大切にしなければなりません。宮城県内には未だ、解体工事に協力できる企業がありませんので我々業界がまとまり、地元業社優先に発注することで雇用等の観点から地域社会に貢献することが大切だと考えます。是非、そのように進むことを願います。





# 損壊工事はいづれ終了する。 今後、企業の判断が求められる。

(株)丸正精建

本社 柴田郡川崎町大字前川字槻木56-11  
仙台営業所 仙台市若林区六丁目2-11



専務取締役  
伊藤 政夫  
理事

## 発災時

私は、若林区役所7階で書類申請を行っていました。長い時間、大きな揺れが続き書類が散乱、間仕切りが倒れ、今にも天井が崩れるのではと危険を感じ、近くにあった大きなテーブルの下に潜りました。たまたま、隣にいた若い女性は避難もせずメールを打っていたので、老婆心ながら「テーブルの下に逃げなさい」と叫び避難させました。後で聞くと子どもに連絡していたそうです。しかし、当人が被災してしまっ

## 被害

自宅は、地震被害で損壊がひどかったのですが仙台市深沼海岸からおよそ4 km離れており、仙台東部道路の西側

に位置していたので運良く津波被害からは逃れましたが、屋根や壁が壊れ大変な惨状で全壊でした。その時は色々な情報が錯綜する中、一時間くらい経った頃でしょうか。隣接する名取市閉上方向から煙が上がり消防車が走っていききましたが、慌てて戻って来るのです。大津波が来たんです。津波は海から3・5 km離れた高さ6 mある仙台東部道路で止まりました。この道路で津波とガレキを塞ぎ止め、よじ登って避難した人たちを救ってくれました。まさに「命の道路」でした。その後、組合に何度か連絡を試みましたが連絡は付きませんでした。その夜は、星が一杯で不思議なくらい静かな夜だったと記憶しています。

## 被害

震災の夜、自らも被災しているにも関わらず解体組合の佐藤理事長（東北黒沢建設工業）、高橋理事（大和工業）らが、道路啓開用の重機の手配を行っていたと聞きました。大変有難く感謝

の気持ちでいっぱいでした。

## 復旧工事

私どもは、発災一週間後から宮城県警巨理警察署からの依頼を受け、行方不明者の捜索を県警と一緒に行いました。現場は宮城県最南端の山元町巨理町荒浜の沿岸部を重機2台で2ヵ月間行いました。作業は死者32人、行方不明者7人を出した山元自動車学校付近から始まりました。

地震で校舎が停電となり学科・技能講習を停止し、7台のバスで送迎中に津波の犠牲となった生徒や職員の方です。殆どの方がガレキと一緒に流され泥水を飲んで亡くなったり、津波でもまれ衣服は剥がれ体が損壊した方もあると聞きます。被災された方々のご冥福をお祈りいたします。

捜索は県警と一緒にオペレーターが慎重に重機を操作する中、ガレキの中から行方不明者を探すことです。当社では2台の重機とオペレーターを出しました。

その後、大津波で被災した名取市沿岸部のガレキ処理と遺体捜索の協力を行いました。

## 仙台市発注の損壊建物

当初は木造建築物の解体を専門に3〜4パーティーを出しました。今まで、およそ200棟（24年3月現在）を担当しました。現場では地震でまわりも同じように被災しており解体工事に多くの方々が理解を示していただき、クレームは殆どありませんでした。東北人独特の相互扶助の精神です。公共工事ですので書類提出が煩雑で苦勞しました。特に他県からの応援企業が多く書類の違いなどで慣れなかったのです。

多くの皆さんからは、「家を壊して簡単に儲けている」と厳しい目で見られることもあります。その辺りが辛いところです。

今後、仙台市の損壊建物の解体工事が終了すれば、受注競争が激化しコスト競争が予想されます。

生き残るには顧客から信頼を得る企業でなければならず経営者の判断が求められます。

多忙をきわめたが暖かい励ましで奮起、みんなに感謝。

(有) 齋藤仲商店

仙台市若林区八軒小路24



東日本大震災損壊建物解体撤去  
工事係統括責任者 理事

齋藤 孝

### 仙台市と業務委託契約

平成23年4月27日、仙台市は公費の家屋解体申請9、000件を想定し損壊家屋の解体、撤去作業計画についての説明会を行いました。翌月の5月23日、正式に仙台市と損壊建物解体・撤去を組合、仙台建設業協会に業務委託契約を行いました。また、市では個別案件として自主解体（8割を補助）の制度も設けました。

### 災害対策本部を立ち上げ

これを受け、組合では4、000件前後の受託を想定し、組合が入居するビル3階フロアーに事前立会い6人、立会い6人、中間検査6人、完了検査6人からなる24人、4部門の対策本部をスタートしました。第一回目の立ち合いを6月6日に行なわれ、6月9日に第一回目の工事に着手しました。その後は、一回につき100件の物件を週2回の頻度で受託しています。

### 工事では

仙台市では、建物内の不要となった生活用品を残しても「可」、としたため、現場では室内に残された椅子、テーブル、タンスなどを搬出することから始めなければなりませんでした。中には、道路が狭く運搬車両や機械入場ができず発生材を100mほど小運搬（手押し車）しなければならぬ物件や、壊しの個別案件でも鉄筋コンクリート造り、鉄骨造り、木造造りを含めて20数件ありました。また、工事では、仮囲い養生を徹底指導し、分別解体、散水を施すなどして近隣の皆様に粉塵、騒音が出ないように配慮しました。しかし、残念ながら苦情が寄せられた場合には、担当者が誠意をもって訪問し対応しました。

担当された組合員さんは大変だったことと思います。

仙台市からは順調に受託件数が増え昨年夏の最盛期にはスタッフ30人が在席しました。平成24年6月7日時点の総受注数5、427件（内、取下げ1

75件）。  
木造5、036件、鉄筋コンクリート造89件、鉄骨造147件、軽量鉄骨造155件です。

廃棄物は、仙台市に登録した運搬車両が一般廃棄物として3カ所の仙台市指定処分場に搬出しました。工事は多忙になったのですが完了後の書類不備を指摘され、それに伴い支払い遅れも発生しました。そのため、急遽、書類完成チームを立ち上げ対処しました。

### アスベスト含有の建物

アスベストの調査は、仙台市が委託した検査企業が建物の階数ごとに2カ所、梁、エレベーターなどを点検、調査を行います。調査の結果、アスベストが含まれている物件は、施工計画書を労働基準局と仙台市環境局に提出、その後、仙台市に除去工事の説明を行わない法律に則った工事を行います。

現在（6月）は一週間に20数件と受託件数が減少していますが入居者の都合により夏以降に着手する物件が250件程度見込まれます。仙台市の損壊建物解体撤去の申請が2012年3月から9月末まで延長され、締切近くの駆け込み申請が予想されます。

### 振り返って

佐藤理事長をはじめ、各方面の方々のご協力で組合が受注に至ったことに深く感謝しています。今回の震災で私は生きたくても生きれなかった方々たちのことを報道を通して知るたびに本当に心が痛みます。今回、統括責任を拝命し連日、色々な経験をさせてくださった人の優しさや偉さを強く感じました。それも組合や仙台市職員の皆様から温かい励ましがあったからこそ頑張れたのだと感謝しています。市の工事は終息に向いますが、今後も解体を通して復旧、復興 工事に微力ながら頑張っていきたいと思えます。



# 実兄が3度の大津波を乗り越え生還 組合事業に協力体制を！

丸 翔 (株)

仙台市宮城野区中野字神明1-7-1



代表取締役  
見物 善男  
監事

## 発災時

岩手県前沢町の現場に出ている社員に電話ですぐ戻るよう指示しました。明るいうちに戻った社員は帰宅させ、遠方の社員らは夜中の12時頃に帰宅したため、通信手段もなく、また、夜中の移動は危険と判断しましたので、事務所2階に一泊させ、翌朝、安全を確認してから帰宅させました。翌日、確認すると津波は事務所手前300mまで迫っていたことを知り驚きました。

震災後は、組合からの連絡を待ちつつ各方面からの情報収集を行いながら、社員には毎日、事務所前に集合とし安全確認したうえで、特別なことがなければ自宅待機としました。社員らは自宅に帰るなどし、ボランティアを行ったと聞いています。

## 遺体捜索

県警の行方不明者捜索は、精神的に大きな負担を抱えながら行っていたことを後日、知り、社員には辛い作業を

させたと思っています。自ら希望しては誰もやりません。犠牲になったご遺体を毎日見ていれば厳しいですから。

しかし、職業上、行方不明者になられた方々を捜し、ご家族に返すことで社会に貢献したと考えています。私も社員も貴重な経験をしたと考えています。また、取引先の方も津波被害に遭うなどこの震災で各人が色々な経験し一年が経過したと思います。

## 損壊建物解体

組合の仕事は1カ月でおよそ14〜15棟の木造解体工事を施工していますが、このような震災による損壊建物解体工事は、後にも先にも今後ないと思いません。今後は、本格的な復旧・復興工事で土木工事や建築工事が繁忙すると予想しますが、我々解体の工事は減少し同業各社が厳しい経営になると思います。

## 温度差

津波被害に遭った解体家屋で仙台市沿岸部と市街地との温度差を感じます。沿岸部で被害を受けた家屋は土台だけや屋根が大きく破損など住める状態ではありません。それに対し、市街地から依頼される物件は未だ、解体するには時期早尚の住宅が多いことに驚かされます。

震災で損壊家屋の解体費用助成制度を利用し、施主にとって都合の良い現場も多いと感じます。しかし、今回の仕事で不況から脱したことは間違いありません。

## 今後

未だ、被害を受けた建物は、一部補修や現状復帰で凌いでいる民間物件が多々あると思います。このような損壊家屋が修繕か改築なのか動向を注目しています。また、仙台市内の丘陵地域で地すべりが発生した地域の集団移転か修繕工事で復旧するのか行政側の判断が待たれます。

## 実家

福島県相馬市出身で大津波が襲来した地区に実家があります。家も町も全て津波に流され、縁故の2人が犠牲になりました。漁師の実兄は発災からす

ぐ、津波回避で相馬港の全ての漁船と共に太平洋沖に出たそうです。心配だったので兄に午後4時30分頃に初めてつながり電話をしていたのですが太平洋沖に避難していることを知りました。その後、電話が不通となり津波で転覆したと思ってあきらめていました。しかし、兄は高さ15mの津波を3回乗り越えたそうです。

午後の明るい時間帯だからこそ津波を乗り越えられたものの、もし視界の利かない夜だったら全員死んでいたと九死に一生の体験談を聞かされました。今は、地震と津波、更に福島原発被害で大変な被害を被っています。

私のことは別として、社員の家族に犠牲者がなかったのが一番の不幸中の幸いと思っています。

今後、組合は様々な事業に携わっていくことと思いますが当社も協力していきたいと考えています。

# 車で津波に突進 九死に一生を体験

(株) 興

栄

仙台市太白区金剛沢2丁目6-18



専務取締役

山田 周平  
組合員

## 発災時

現場の下見で女川町にいまして非難の途中に何度も九死に一生を得ました。地震の揺れでブロック塀が倒れてきて肩をかすって行きました。あと、数十センチずれていたら死んでいたんですよ。地震直後は何故か、天候が荒れ模様になり、地震で回りの道路や橋はめちやくちやで歩くのも困難でした。泣き崩れていた女の子を車で、親御さんまで送り届けました。丁度、3時半頃でしょうか。

女川の海は引き波で、底が見えました。急いで398号線を石巻方向に車を走らせましたが、もの凄い渋滞で動きがとれなくなりましたので車を乗り捨ててつもりで一か八か、Uターンし車を海に向かって走らせました。周りから見れば頭が狂ったと見えたでしょう。何せ、津波に向かって行くのですから。

津波は、波ではなく黒い物体が迫ってくるようでした。恐怖の中、タイヤ半分が津波に浸かりながら地震で破壊

された道路なのか何か、分からないところを走り続け涌谷方向に逃げました。今考えるところをどう走ったか覚えていません。途中、川も氾濫し、車がぶかぶか浮いて流れていました。運が悪ければ今ここにいなかったでしょう。

結局、深夜2時頃に仙台に辿り着きました。仙台にいた家族は停電で情報を得ることができず私がいた沿岸部の津波被害は知る由もなく翌日、知った状態でした。帰って社員の安否や事務所の被害状況を確認しましたが、大きな損壊はな



く安心しました。  
**人生観**  
今回の震災を経験し普通のことが幸せと痛切に感じるようになる

なりました。水や電話の有難さと電源が消失した場合の無力さを感じます。今年、26歳になります。当たり前前ことを当たり前前、またお世話になっている方々に感謝の気持ちを言葉で伝えることがいかに大切であったかを教えられました。

## 仙台市損壊建物

木造解体のみですが、15〜20棟を担当しました。当社は責任施工を基本とし、下請けを使用せず自社のみで工事を行います。被災した施主さんから見れば我々が一番早く工事に入る訳です。そこでイメージが悪ければ今後の仕事は発生しません。また、他県の業者は工事が終われば帰るだけです。地元で工事を請け負う業者としていい加減な仕事はできません。

当社は今までの解体屋のイメージから脱却し、礼節や現場の整理整頓などあらゆる面で気を配りながら工事を行っておりますのでクレームはゼロです。

## 震災で

震災でブロック塀の倒壊や建物倒壊で困っている被災者の方々に助けてあげたい気持ちで、誰に言われるでもなくチラシを社員みんなで作って配りま

した。

## 健康関連

昨年からは健康と環境の時代と考え、当社では陶板浴を楽しめるよう始めています。体を温めて免疫力を高めようというものです。これまでの解体業者のイメージを払拭しグローバルに事業をやりたいと思います。

## 安全

当たり前の事を当たり前にやる。いつ何時もやっている事をきちんと行なえば事故は起こさないと考えます。

## 今後

解体工事でせっかく得た縁ですから、一人の顧客に全力で満足して頂くことになって、顧客が当社の営業マンになつてくれます。アットホームにいるんな縁で顧客に協力していきたいと考えています。常識にとらわれずの発想にとらわれずどんな仕事も積極的にアタックしていきたいと考えています。



# 大きな津波被害を経験 無事8月1日から営業再開。

(株)秋山建材仙台営業所

仙台市若林区荒浜字北長沼24-79



所長 白井 史子  
組合員

発災直後の様子を  
教えてください。

当時、私と従業員、それからガラを持ち込みに来た4〜5人のお客様が事務所にいました。地震の揺れで事務所内は滅茶苦茶で、地割れも起きました。ラジオを付けると津波が来る可能性があるということでした。骨材プラントに上れば大丈夫じゃないかという声もありましたが、どのくらいの津波が来るか予測が付きませんし、電気も止まってしまいましたのでその日の仕事は切り上げてすぐに帰ることにしました。地震直後はまだ携帯電話が通じたので他の従業員の安否も確認することができました。そして午後3時15分ころにはお客様を含めて全員が事務所から引き上げました。

津波被害の確認は  
どのようにされましたか。

地震当日の夜にラジオで荒浜地区や蒲生地区の被害を放送していました。

で、覚悟はしていました。地震翌日に事務所に行こうとしましたが規制がかかり行けませんでした。しかし、状況を確認しなければなりませんので、地震から3日後に仙台市若林区荒井にある仙台市農業園芸センターまで車で行き、そこからウェーダー（腰まである長靴）を着けて、事務所を目指し、流木をまたぎながら道なき道を歩きました。

状況はいかがでしたか。

プラントの建屋だけがポツンとありました。事務所は屋根だけがプラントに引っかけて残っていました。その屋根を見て、事務所内のものが流されずに残っていたらと期待したのですが、何一つ津波で流されてなくなっていたので、とてもショックでした。また、バックホーとローダーが津波に流され、見つかりはしましたが使い物にはならず廃棄しました。プラントも残っていましたが流木やコンテナ、乗用車などが引っかかりゴミだらけで、プラ

ントのベルトコンベアなどが破損し、使用できませんでした。プラントに津波が来た跡がありました。この場所で2メートル50センチ位でした。

事業再開までの経過は非常に  
苦労も多かったと思います。

すぐに営業を再開できる状況ではありませんでしたので、まずは後片付けから始めました。また、当時はこの場所が津波浸水地区ということで建築制限がかかる可能性があるという話でしたので、行政側と事業再開に向けてどのようにしたらよいか打ち合わせを行



復旧したプラント施設

いました。その結果、現地での営業再開できることになりましたので、昨年7月からの事業再開を目指して、プラントの整備など準備を進めてきました。しかし、事務所周辺の電気が復旧したのが7月22〜23日でしたので、8月1日からのオープンということになりました。再開を迎えた時に、被害が何もなかったようにはできないけれど、何となく地震以前の元の状態に戻ることができたのかなと感じました。

東日本大震災を経験して  
感じたことや変わったことが  
あれば教えてください。

特段大きく変わったことはないんですが、ラジオを常備するようにはなりません。結果的には全員が無事でしたが、なぜあの時すぐに引き上げようという指示できたのかは今ではよく分かりません。地震が来たのが午後3時頃だったのもすぐに帰ろうという判断につながったのかもしれない。もしも朝だったら仕事を続けていたかもしれない。それが荒浜地区にある道頓堀を越えてくるわけがないと信じ込んでいましたから。とにかく、地震が起きて津波が来るかもしれないのであれば、まず逃げることです。

# 3人が犠牲に 12月にプラント再開にこぎつける。

## (株) 平間建設

本社 仙台市太白区長町南4-21-31  
支店 岩沼市押分子与奈30-1-1



代表取締役  
平間 正明  
組合員

### 震災時

揺れ初めは支店2階（岩沼市押分）におりまして事務所内のパソコンが落下し、戸棚の書類が飛び出し大変でした。激しい揺れが続き動けず、揺れが治まり次第、車のTVで地震情報を確認しました。地震からおおよそ1時間15分後、二の倉海岸からおおよそ1kmにある中間処理施設の平間環境（グループ会社／岩沼市下野郷字三人谷地）に津波が襲ったのです。

平間環境の社員は4階建ての施設の最上階に避難したのですが残念なことに間に合わなかった2人の社員が津波の犠牲になりました。また、同時にお客様1人と社員2人の計3人が津波に流されましたが運良く助かりました。当社（平間建設）では、1人が犠牲になりました。これは、帰宅後、地元の消防団の活動中、被害に遭い犠牲になりました。大変悔しいと思います。

津波は海から3・5km西の仙台東部道路岩沼ICで止まり、重機6台、トラック3台が流出しました。私は社員

の安否を確認しようと津波の現場（平間環境）に向おうとしましたが津波で浸水している上、ガレキで進むことができませんでした。

取り残された社員を救出すべく消防局にヘリでの救出を依頼しましたが、全く来てくれませんでした。私は、救出にあらゆる情報入手すべく手を尽くしていたのですが、結局、取り残された社員は当日の夜、自力で戻りました。犠牲となつて行方不明になっていた2人は私の叔父でもあり名取市、角田市の遺体安置所を探し回り5月に見つけることができました。

### 復旧工事

社員には安心して働いてもらうため平間環境をいち早く復帰する旨を宣言しました。

震災後は岩沼市からの要請を受け、地元建設業団体として重機2台でガレキの撤去を昨年3月13日～9月まで実施しました。平間環境はお陰様をもちまして昨年12月に復旧し、営業再開に

こぎつけることができました。

### 損壊建物解体

組合を通して仙台市の木造解体を20棟以上を行いました。仙台市の損壊建物の解体工事が終了すると我々は発注、受注、単価など先が見えず不安です。

当社（平間建設）は土木工事、中間処理プラントが本業です。今後、組合には身になる情報の発信を期待しています。

二の倉海岸から1kmの平間環境。今は完全復旧し一般廃棄物も受け付け営業を行っている。





# 2人の犠牲者を出すも、 11月に再開。

重吉興業(株)

本社リサイクルセンター 石巻市門脇字元明神10

## 発災時

中間処理施設、リサイクルセンター内で凄い揺れが続く施設の全電源を停止し、港湾や日本製紙の現場にいる社員に戻るよう指示しました。近くの港湾現場からシヨベルローダー1台を持ち帰り、その後の救援などの作業に大変役立ちました。

地震後、津波の第一波がきたのが15時40分頃だと記憶しています。数キロ上流の造船所から建築中の大型船が後ろ向きになって流されてきたんです。その後、引いて、また、原木と一緒に押し寄せ、目の前にある淀川橋(じょうかわはし)に引っかかる形で止まりました。

船には船大工がそのまま乗っており、社員らがロープを使用して救出しました。センターへの浸水は2cm程度でしたので、その日は、被災された方や、近隣の皆さん約50人を避難所として受け入れました。焼却炉を登り周りや海の方角を心配そうに津波の状況を確認する人もいました。

震災の夜は、3月にしては特に冷え込みが厳しく敷地内にあるチップを焚火にして暖をとりました。辺りは救助を求める声が聞こえたので重機で救出に向かうのですが、停電で辺りは全く見えないものですから救助はできませんでした。非常に残念でなりません。

その後、センターは引き続き避難所として1週間開放しました。

## 犠牲

発災当日、山内瀧子会長(71歳)と後藤龍(30歳)さんがセンターから本社(石巻市新館)に戻る途中、津波の被災に遭い犠牲となりました。会長と後藤さんは津波に気づき車から降りて避難したところを津波に襲われたと推測されます。

2人を社員全員で捜索し、後藤さんを8日後、会長を10日後に発見することが出来ました。RC造2階建ての本社には、2階床上30cmまで津波が来ており、復旧は深い悲しみに直面しながら、再起に全力で進めました。

今はあらゆる葛藤を抱えながら、自分たちを鼓舞し頑張っているところです。

## 復旧工事

震災の翌日、3月12日〜9月まで6カ月ほど石巻市などの依頼を受け、ガレキの撤去、道路啓開に協力をしました。センターの消却炉セラミックスフィルターの修復などで時間がかかり、8カ月後の平成23年11月にセンター焼却炉を再開にこぎつけ、破碎、焼却、溶融の中間処分場として再開しています。



# 10tダンブ1000台分のガレキを排出 最良の品質を提供していききたい。

(株)奥羽木工所

仙台市宮城野区港4-10-1

専務取締役  
芳賀 正明  
取締役工場長  
菊地 宏樹

■奥羽木工所様の敷地内に流入したガレキの搬出を仙台市から依頼を受け、搬出に協力しました。

## 地震、発災時

### 菊地工場長

その時、当社では工場の休憩時間前でした。床に立っている



こともままならないほどの揺れで戸棚が崩れ、灯油缶が倒れる中で150人の従業員を外に避難させました。最初の津波に訂正され指定避難場所のイオン多賀城店などに避難しました。到着すると、一階駐車場が満杯で車を放置しただけで屋上に避難しました。当然、車は津波で流されました。

### 芳賀専務

私は、東京へ出張中に被災しました。直ぐ、



お客様から車を借り、途中、数力所のがけ崩れを迂回しながら24時間かけて戻りました。

### 芳賀専務・菊地工場長

全員無事だったことが一番でした。今回は年2回の防災訓練すら通用しませんでした。2年前の三陸沖を震源とする地震では津波警報が発令され、仙台港では潮位が50cm上がったため、入り口に土嚢を積んで津波対策を講じました。今回は成す術がありませんでした。

工場には高さ約5mの津波が来襲し、2階の事務所まで水は上がりませんでした。1階の工場には、汚泥、アスファルト、砂、砂利とともに当社敷地内の南側に隣接する本田技研工業の新車プールから新車1,000台が流され、数百台が工場建物内部に堆積しました。幸い、本社（宮城野区原町）には津波被害はありませんでしたので、工場の事務所機能を本社に移転しました。

津波をかぶった工場の被害は大小、合わせて300台の殆どどの木工機械が使用不可能となり、そのうち1台の



みが修理可能でした。社員の中には、自宅などが被災を受けて、20人が退社を余儀なくされたことは辛いです。

震災後、3日目から復旧作業に取り掛かり、敷地内の泥掻きや復旧作業を行いました。

工場内16,000㎡に堆積したガレキは、御組合の理事長の東北黒沢建設工業さんに1カ月間、ガレキ処理と搬出をして頂きました。大量に堆積したガレキを、オペレーターさんが重機を駆使し瞬く間に10tトラック600台分を処理、搬入され、「さすが本職」と感心するばかりでした。同時に、自社の復旧作業で出たガレキと合わせて10tトラック1,000台分を搬出し

ました。

当社は、学校、病院、福祉施設で使用する戸棚、実験台、ロッカーを製造しています。全て代理店を通して年間3万台を全国に出荷しています。震災で工場が機能停止となり商品を作れないのが一番困りました。

お陰様で、昨年4月22日に再開することができ、この近辺では一番早く復旧、再開することができました。東北黒澤建設工業さんには大変感謝申し上げます。



平成23年4月22日に復旧した場内



# 築山へ避難

## 130人が命拾い

日鐵住金建材(株)

仙台市宮城野区港1-3-1



仙台製造所長  
平山 憲司

■組合は、日鉄住金建材様の敷地内に流入したガレキの搬出を、仙台市から依頼され、搬出に協力しました。

### 3・11

当日は、76人が工場内で仕事をしていました。当社は、平成15年から毎年、防災訓練と避難訓練を行っています。私は平成22年7月に東北に赴任したばかりで、宮城県沖地震についての知識がありませんでした。3・11大震災の2日前に、予兆とも思える大きな地震があり、その時も防災訓練のマニユアル通りに避難しました。①地震を感じたら、なり振り構わず工場の生産ラインを止め、一次避難場所に集合②二次避難場所に集まり各班が報告③場内の南側に立地する高さ5mの呼称「築山」に避難がマニユアルとなっています。

3・11の大地震の際にも、マニユアル通り避難しましたが、天井クレーンのオペレーター6人が置き去りにされていました。地震の影響で停電となったため、高所クレーンから脱出できな

にいたのです。すぐに、手回しでクレーンを移動しオペレーターを救出し、76人全員で築山に避難することができました。

発災時から、携帯電話で本社(東京)と連絡を取り合い大津波の情報を得ることができました。電話は大切な情報源として大変貴重でしたのでバッテリーが切れるまで繋ぎっぱなしでした。津波の到達時間の変更になるたび、もう津波は来ないという雰囲気になりましたが、地震後、1時間10分。今まで経験したことがない、もの凄い地鳴りが聞こえました。しかし、地震かと思いましたが津波でした。

津波は、海側の東側からではなく南側の蒲生方向から土砂を巻き込んで真っ黒に染まり、住宅や車を押し流しながら向かって来ました。辺りは、木に囲まれる者、登る者もいました、そんな状況の中、築山の5mの頂上に避難し、足元の1m下で津波が止まりました。敷地外の樹木が防波堤の役目を果たして津波を弱め我々を救ってくれたのです。電話からの情報で、翌朝になれば

自衛隊が救出に来てくれると確認していたので、余震と津波の不安、そして3月の寒さと戦いながら木の枝で焚き火をして寒さを凌ぎ一夜を明かしました。その間、避難していた築山には、車の屋根に乗りながら赤ちゃんを抱っこした父親など数名を全員で救出しました。最終的に社員が避難した数の倍の約130人が築山で命拾いをしました。水が引いた今、その敷地の樹木は津波になぎ倒されて一本もありません。築山は昭和52年の創業時に、騒音防止のため盛土し、また、自然環境を考慮して植林しました。

### 避難者全員を救った「築山」



消防局から、「津波の際には絶対に渋滞に巻き込まれるので車で逃げるな」として、構内の一番高い所に避難するよう指導されていました。しかし、復旧・復興に一番必要な志村正人工場長が、社内で唯一の犠牲者となっていました。

仙台一筋で、当日は仙台市泉区の講習会に参加するため外出していました。地震で現地解散し、その後、工場を心配してこちらに向かったと思われ、工場内には3mの津波が来襲し電気設

備が全滅。通常、配電盤の設備修理には6カ月を要しますが、皆様の協力を受け5カ月後の8月5日から角型鋼管6インチラインの復旧にこぎつけました。2012年4月に全面復旧操業再開しました。また、6インチ角型鋼管ラインの製造は、東北地方では仙台製造所のみです。製品は住宅や倉庫関係の柱材として、またガードレールの柱、照明用電柱ポールとして復旧・復興に貢献することを願っています。

今回の震災で分かったことですが、角形鋼管が津波被害に強いことを証明しました。当社では、敷地内に100人が避難できる角型鋼材を使用した高さ10mの「防災タワービル」を建築し自治体にPRして行きたいと考えています。ガレキは7月、9月、11月と3回に分けて搬出。仙台市のご支援を頂きながら解体組合様には土砂の搬出を丁寧にしていただき大変感謝しております。復旧だけでなく、東北で唯一の角形鋼材の生産拠点として飛躍していきたいと思えます。



事務所棟の3mまで津波が押し寄せた

搬出を待つガレキ



## 東日本大震災を体験して



木村 土建  
専務取締役 木村 啓一

私の住んでいるところは東松島市大塩です。まだ記憶に新しい、2003年に起こった震度6強の直下型地震が1日に3度も来た、宮城県連続地震の震源地です。今回の東日本大震災が来た日は、雪が降る悪天候でしたが、宮城県連続地震が発生した2003年7月26日も雨が降り、天候は最悪でした。

それから8年後の2011年3月11日、これまでの地震と比べものにならない巨大地震、そして強い討ちをかけるような大津波の来襲は、それまで何の影響もなく、いつものように生活を送っていた人たちを一瞬にして恐怖のどん底に追いやり、多くの犠牲者を出し、東日本全域でライフラインが壊滅状態となりました。

地震発生時、私は仙台〜石巻間の三陸自動車道を通り、仙台港北インターを降りて、多賀城〜仙台間の産業道路を仙台に向けて走行していました。

その時でした。ラジオから今まで聞いたことがないチャイムが鳴り、記憶が定かではありませんが、

「強い地震が来ます」

というアナウンスが流れたような気がしました。それを聞き、『あれっ?』と思った後、すぐに横揺れが生じ、間髪入れずに車がひっくり返るような強烈な縦揺れが来しました。私はすぐに緊急停車し、地震の揺れが治まるのを待ちました。長い揺れを感じながら周辺を見渡すと、右前方の歩道に面している壁の全てが崩れ落ちました。

その下には間一髪逃れた男女の姿があり、一瞬言葉を失い、心の中で「無事でよかった」と思いました。

私は、このような状況で仙台に向かうより、会社と家族の元に戻らなければと思い、車をウターンさせて一目散に走らせました。戻る途中に見た地震発生直後の光景は悲惨なものでした。これまでの地震ならば『これ位の地震では驚かないよ』という人がいましたが、今回の地震では誰一人として、そのように思う人はいなかったのではないのでしょうか。

信じられない気持ちと恐怖のあまり、泣きじゃくっている人も見かけました。その様子が、今までにない巨大地震の恐怖を物語っているように感じました。

しかし、それだけでは収まらず、地震の揺れから数分後、強い討ちをかけるように大津波の来襲劇が始まりました。当初、ラジオで放送した津波の高さは50センチメートルでした。

『それでは今回の地震の2日前にあった津波と同じ程度の高さだな』と思ったのは私だけではないはずです。そのとき発生した津波の高さは20センチメートル程度だったのです。

しかし、数分も経たないうちにラジオから『6メートル』、また『数十メートル』という放送が次々と流れてくるので、私はとっさの判断で、『今走っている道路では津波に吞まれる』と様々なことを考え、山側の道路に進路を変更しました。案の定、行くところ行くところが大渋滞となりました。

自宅に何とか辿り着いた時には辺りは暗くなっていました。いつもなら1時間で来れるところ、当日は約5時間かかりました。途中、橋と道路のジョイント部分に10センチメートル以上の段差が生じている場所が何ヶ所もあり、自宅まで無事に辿り着けるのだろうか



かと思っただくらいでした。自宅に到着して家族と会い、会社に行ってほとんどの社員が無事だったようなので、その時はやはりホッとしました。しかし、まだ全てのことについて確認できたわけではなかったので半信半疑の安堵感でした。

まず最初に始めたのは、社員とその家族の安否確認でした。皆さん一目散に会社に駆けつけていただき、涙を流しながらの対面でした。とにかく無事でいてくれれば、と思っていましたので、何日かかけて社員全員の無事が確認できたときによく安堵しました。工事現場での作業中に地震に遭遇し、避難した場所に津波が押し寄せ、一瞬の判断で裏山に逃げて奇跡的に助かった社員もいました。その場所では結局何十人も津波で亡くなりました。皆、様々な状況の中で何とか無事に帰還してきたようでした。

私も地震から数日後、その場所に行ってみると、散々な状況でした。津波でほとんどの家屋が流され、道路には流された車が折り重なっていました。その光景を見た時、私は何とも言えない気分になり、『いったい何人の方がなくなったのだろう』と思いました。本当にラジオの放送に命を助けられたし、自分がその時とった行動でよかったんだなと思いました。

そんな状況の中、会社は緊急作業を震災当日より始まりました。まずは、東松島市から市内の病院へ緊急発電機動力に使用する燃料を配達してほしいと要請されました。要請を受けたのは夜になってからでしたが、社員一同、届け先が病院とあっては何が何でも届けなければ、この思いでした。在庫燃料がない中、どうしたらよいか考えた末、産業廃棄物処理センターの重機から燃料を抜いて届けることにしました。

時刻はすでに午後10時をまわり、当然ながらライフラインが壊滅していましたので真暗闇の中での作業になりました。頼りは懐中電

灯と車のライトのみ。病院付近の現状が分からず、とにかく燃料を抱えて、万が一を思い、2台の車で病院に向かいました。案の定、病院までの道路は津波で冠水し、ほとんどが通れませんでした。海水に浸かりながらも何とか病院まで辿り着くことができました。病院の方たちも私たちの車のライトを見るや、すぐに玄関まで出てきて対応してくれました。私たち6人も無事に燃料を届けることができホッとしました。

また、翌日から社長が陣頭指揮を執り、不眠不休で応急復旧への緊急対応に当たりました。組織図を作成し、国、県、市、地元建設業会の対応者をそれぞれ決め、各々作業に当たりました。国と県からは堤防等の決壊を防ぐ土嚢の製作、市と協会からは燃料の確保など様々な作業を進めました。土嚢の製作は、最終的に1トン袋で5万個以上に上りました。

緊急活動の中で一番重要だったのは、奥松島をつなぐ一本道路の橋が津波で決壊し、孤島になってしまい、緊急物資援助も空輸のみとなっており、それを解消することでした。一本道路の復旧は、当社と自衛隊の合同復旧となり、総力を挙げて何とか1週間程で通行可能となり、少しでも浜の人たちのお役に立てて嬉しく思っています。

東日本大震災から今日まで、当時の緊急活動やガレキ撤去、復旧作業に取り組んできました。不眠不休での活動の末、徐々にではありますが復興に向けて先が見えてきているように思われます。今後震災によるガレキの分別片付けを行い、コンクリートガラやヘド口などを再生、改良し盛土材に利用したりと復興を目指して行っております。現在、月2日の休みのみで懸命に作業を進めております。作業は膨大で、何年かかるか分かりませんが、一日一日と日数を重ねていけば、きっといつかは終息を迎えることができると信じています。



### 3、11災害で感じたこと



東北黒沢建設工業

千葉 和夫

その日は、仙台駅で新しい現場の打ち合わせ中の出来事でした。鉄骨2階建ての中に2人で居たところ地震のため4m位の壁が目の前に落下してきました。すぐに2人で外に出ましたが、多くの人が達が飛び出してきたり、車が止まったまま人々ともにぐらぐら揺れていました。何回か来る大きな揺れに立っていられず、しゃがみこみ、何かに掴まらないと立っていられないくらいでした。あたりを見渡すと高層ビルが、今にも倒れそうぐらい揺れていて、広告看板も傾くところもありました。

私は、宮城県沖地震も体験しているため、巨大地震のあとの状況がどのようなか想像しましたが、ワンスゲで映像を見るまでは津波の予測を全くしていませんでした。

災害の次の日は、情報収集と食料、燃料の確保で走り回りました。2日目にやっと会社と連絡が取れ、3日目に何とか出社し、仲間の安否確認ができました。

会社の業務上、災害時には災害復旧を優先的に行うことになっているため、会社が集まった社員はすぐに災害現場に配置され、私は多数ある中の仙台駅新幹線ホームに行きました。指示されたホームは天井が落ち、壁がずれ、地震の凄まじさをまざまざと見せつけられました。それから7週間は通勤の燃料が不足しているため、駅待機所に泊まり込みました。

後に妻から聞かされましたが、私のいない間、水、灯油、食料の

### 2

調達で大変だったとのこと。でも文句ひとつ言わなかったのは、やはり災害復旧に関する仕事をしているからと理解してくれていたからです。この時ほど家族の絆を感じたことはありませんでした。

それから津波災害の最前線への派遣は突然でした。前日に岩手県陸前高田市の災害復旧現場に行くように指示があり、事務所社長から頑張ってくるようにと激励を受け、着替えもなく安全道具だけを身につけ、急いで自社の重機3台をトレーラーに積み込み、現地向かいました。途中、道幅が狭い所もあり先導車で確認しながら通常なら3時間のところを7時間かけて現地入りしました。夜に到着したので被害の全体を把握したのは次の日の朝のことでした。テレビ等では被害の状況を見ていましたが実際の状況は「ひどい」の一言でした。私は以前の陸前高田市を知りませんでしたが、高田の松原は聞いた記憶があり、災害前の写真を見ると素晴らしい所だったことが分かりました。

作業としては、自衛隊の捜索用道路を確保するためのガレキ撤去で、地元の重機約20台、県外大手建設業者から約10台、自衛隊の約10台ほどが参加していました。私たちは地元建設災害組合からの要望で、自衛隊の撤去できない大型コンクリートや鉄骨の建物除去を行いました。自衛隊は200人ぐらいの県外からきた連隊で30代半ばの若い隊長さんでした。初めの作業は道路を塞いでいる市民センターの屋根の撤去で、高さ9mぐらいの軽量鉄骨とガレキの撤去を行い、行方不明者の捜索も兼ねているため、慎重に上部から少しずつ取り除いて、片づけていく手順でした。その場をやり始めた時のことですが、重機のホースが破損したり、アタッチメントのピンが折れるなど普段は壊れることがない箇所だったので、不思議なことがあるものだと思っていました。次の日、他の重機で撤去作業をして



いるとマネキンみたいな、一部髪の色が見え、すぐに警察に連絡、1人目の被災者発見でした。

ガレキの中に入っているため、自衛隊が15人くらいで約1時間かけて掘り起こしました、私たちは作業を中止し遠巻きに作業を見守っているしかありませんでした。その時は五体満足でありますように重機で傷がついていませんようにと祈っておりま

陸前高田災害復旧工事（大町商店街）



した。作業が終わる目を見送りました。その後、び出される時は、自然と全員が手を合わせて見送りました。その後、初めての発見だったためか、宿に戻っても全員暗くなってしまい言葉が失っている状態で、発見者は当時その状況が目には焼き付いてしまい怖がっていました。そんな様子を見て一緒に泊まっている元請けさんが、「今日はご苦労様。きっと発見された方は、早くみんなに見つけてもらって、ありがたうと思っている。これから発見されるかもしれないが、今、我々にしか出来ないことです。使命感を持って行うしかない」と言いました。私も初めは、何で私が作業に当らなければならぬのかと悲観しましたが、私たちは選ばれた者の1人なので、今私たちがやらなければ誰がやるのだと思うようにしました。夕食後、せめてその時に気を落ち着かすために線香と塩を準備してもらおうという提案ができました。建設組合では、そんなことは毎日のことなのでと用意はしてくれませんが、元請けさんがそれで少しでも割り切れるならとすぐに用意していただき、

感謝しております。次の発見からは、線香をつけ塩でお清めして発見者の気が少しは落ち着いたのは確かです。ほかでは誰もやっていなかったため自衛隊に塩を少し分けてくださいと言われたこともありました。結局その付近からは4人の行方不明者を発見し、後から聞いた話では、その崩壊した建物は一次避難所で何十人も人が避難していた所に水がきて、次の避難所に移動する途中に被害に遭われたとのことでした。

被災者捜索作業は精神的にきつく、1日に幾つもの遺体を検死なさっている警視庁の方も精神的におかしくなり、交代する人がいたそうです。また、残念なことに一緒に泊まっている業者さんの中で、被害者を発見時に傷つけてしまい、その日の夜は飲めない酒を飲んでも一晩中眠れなかったそうです。そんな話を聞くと作業も自然と慎重になり神経を使うようになったのは確かです。今回の作業で一番悲しかったのは、一度自衛隊が捜索完了としたガレキの所をまだ妹が見つからないので、もう一度捜索して下さいと言われ、建設協会の方からの指示で捜索した時のことです。2人の家族の方、建設協会から1人と2時間ぐらい

慎重にガレキの取り除きを行いました。結局見つからず協会の人にもうこれ以上はできないと言われ、家族が泣き崩れたのを見たときでした。「すみませんが終了します」とあいさつして重機を移動させてかなり離れ



陸前高田災害復旧工事（大町商店街）

てから、ふと振り返ると重機で搜索したあとを、また手で掘り起こす姿が見え、諦めきれない家族の様子に思わずもらい泣きをしてしまいました。

災害地では、その月の11日にその時間に作業員が黙祷をして亡くなった方々のご冥福を祈りました。災害現場にも亡くなった方へ花を添える人もいて、建物を撤去する時には花を脇に寄せてから作業させて頂きました。初めのころは寒くて大変で、夏はハ工と悪臭がきつく精神的にとっても大変な作業でしたが、辛い時、落ち込んでいた時に最後までやってこれたのは仲間を支えがあったこと、使命感で作業を無事故で最後までやり抜き、微力ながら災害復旧の手助けが出来たことを誇りに思い、陸前高田市を後にしました。

延べ作業日数 115日

被害者発見 14名

平成23年8月24日完了



陸前高田災害復旧工事（大町商店街）

## 復旧作業に携わり 大きな経験を得る

昭和羽前建設工業

高橋 直宏

東日本大震災から2日後…。会社と車が津波で流され、「これからどうなる？」

と不安な中、作業着に着替えて自宅まで迎えに来てくれた甘木社長と共に被災地に向かいました。

仙台新港に着くと凄まじい津波の力で原型がなくなった多くの自動車道が道をふさいでいました。

酷いとしか言葉になりません。通い慣れた新港の姿は沖波で大きく変わっていました。到着すると消防局の指示の下、被害の大きい荒浜方面に向かいましたが、その変わり果てた姿に言葉を失いました。

建物はほとんどなくなり、ガレキの山で道路も消え、自分がどこにいるのか分からなくなるほどでした。

その場所で慌ただしく働く消防隊員や自衛隊、警察官の姿を見て、一日も早く道路を復旧させたいという気持ちになり、私たちも重機を使い、流された車やガレキを道路脇によせて、車輛が通行できるように一生懸命道路啓開作業を行いました。

余震が続く中で、作業中に津波警報が出た時には、足がすくみ恐怖感で動けなくなりました。こんな状況の中でも集まった人たちは一生懸命で、その場で復旧作業に参加できたことは、大きな経験となりました。





## 遗体捜索に協力して

高田商店

上野 賢一

平成23年3月11日14時46分、巨大地震が穏やかな日常を何の前触れもなく突如襲ったあの日、自分の目に映った光景を今でも忘れられません。

私はあの日、仕事で仙台港にいました。作業現場だった工場の2階に避難して、地震によるあの大きな揺れ、その後の大津波から無事助かった身でした。

災害発生後、当社に宮城県解体工事業協同組合から連絡を受け、宮城県警指揮の下、遗体捜索班として南三陸町の旧歌津町周辺を捜索しました。町に近づくこと、普段から見慣れている景色や街並みがなく、無残な姿になっていました。

4月上旬に現場入りした私は、県警の要請で川の中のカレキを撤去しながら行方不明者の捜索をしました。ガレキを一つ撤去するのには、こんなにも緊張し、心が動揺したのは初めての経験でした。仕事で重機を毎日運転している私でしたが、その時はレバーを握る手が汗でビシビシと濡れ、こんなことは今まで体験したことがありませんでした。

作業開始から2日目の朝、重機に乗ろうとした時に声を掛けてくる人がいました。それは地元の方で、「この川に子供がいませんでしたか？」と私に尋ねてきました。

私はその声を聞いて、子供さんを家族の元に早く帰してあげたい、

2



と思い必死に作業に当たりました。

私は、遗体捜索作業員として、現場に入ったのは三人目です。作業に参加したのは1週間と短期間でしたが、今まで誰一人として想定していなかった光景を目の当たりにし、これが現実のものであってほしくないと、行方不明者の捜索中、毎日願っていました。

大規模な災害にあったあの日、自分ひとりの力で何ができたのでしょうか。

私は東日本大震災が発生したあの目を一生忘れず、自分の仕事に誇りを持ち、これからの復興に協力していきたいと思っています。

## 復興作業に携わり

鳥羽建設工業

齊藤 正人

3月11日の東日本大震災の2日後、会社から災害復旧の連絡が入り、会社の同僚達と津波被害の大きかった仙台市若林区蒲生地区に行きました。現場に着いた時は、今までとはまるで違う光景に言葉もでませんでした。

周りには、今まであった建物などが何もなく、道路には津波で流されてきたガレキや、車などが山積みになっている状況の中、まずは重機で緊急車両などが通れるように啓開作業から始めました。

作業中も津波被災の現場を見に来る一般の人達、また、キリンビール工場が被災したため、路上に散乱している缶ビールなどを拾っていく人や、被災した倉庫から商品などを持って行く人…などを何度も目撃し、なぜこんな時にと情けなくなることもありました。

震災から10ヵ月が経過し、まだまだ完全復旧までは遠い道のりですが、日に日に変わっていく街並みを心の励みとし、これからも復旧に携わっていただければと思っています。



## 九死に一生を体験

東北黒沢建設工業

安達 清文



私は、仙台東部道路西側の一般道を自宅へと急いでいました。あと5分も走れば自宅という所で、木片などが転がってきて黒い水が見えたと思ったら見る見る水嵩が増えて動けなくなり、乗っていたトラックの上に逃げました。すぐに運転席の中まで水が入り身動きが取れなくなり、目の前を何台もの車が流されていき、東部道路の橋脚に屋根がバリバリとぶつかり、ガスボンベがシューッと音を立てながら流されて行きました。信じられない光景を見渡していましたが、助けが来るはずもなく途方に暮れ、時間だけが過ぎていきました。子供を迎えに行くためには水に入るしかないと覚悟を決めて水の中へドボン。瞬間「ダメだ冷たすぎる」。近くの金網によじ登り流れに近い金網の先端まで行き、またしても水の中へ。今度は流れもあり少し深いかもしれない。少々水を飲みましたが、どうにか渡りきりました。この時、左の靴が流されていましたが、たどり着いた所は擁壁が高かったため、また水の中を数十メートル歩き、どうにか水から出ることができました。ちょっとすると「大丈夫ですか」と男性が声をかけてくれ、その方も「車を流されて卸町にある会社に戻るところです」と言っていました。水から出ることでも寒く東部道路より東側を見る余裕もなく、ただ黙々と歩くだけで、靴の脱げた左足は路面の冷たさが痛みとなって、徐々に固くなっていくように感じ、数ヶ月はその感覚が残りました。私は歩いて自宅に戻り、子供達とも会うことができ、運が良かったと感じました。





# 震災を振り返り

高田商店

佐藤 康浩

平成23年3月11日、あの悪夢のような巨大地震が発生した。

内陸に生活基盤がある私が、大地震の後、どのような時間を過ごしたか、沿岸部に住み、大津波に呑み込まれた被災地の方々が経験した時間に比べれば、蚊に刺された位の物ではない私には今更、説明する程の事ではない。

翌日、上司の命を受け、まずは社員の安否確認から始まった。3日後位に全員の確認が取れ、まずは安堵の息をついた。弊社の仕事は、鉄くずを引取りに向かう車は東北全域がエリアで、地震当日は沿岸部にも向かっていった。地震発生時間が午後だったため、ほとんどの車が帰途についていた。道路状況が麻痺したため、夜中や翌日、あるいは二日後に仙台港から徒歩で帰って来た社員もいた。



並行して福島、宮城、岩手沿岸地域で弊社が古くから御世話になっている顧客様の安否確認。ほとんどすべて連絡が取れず、とうとう弊社社長が我慢しきれず、「駄目だ、被災地に行く、声を聞かか、顔を見るまでじっとしてられない」翌日から社長の命を受け、私がジュープのハンドルを握る。社長夫人に握って頂いたおにぎりを持参し、

車のトランクに生活必需品を詰め込み、気仙沼、陸前高田、大船渡の避難場所を駆けずり回る。どこの避難場所もおびただしい程のメモ書き。内容を見ると縁も所縁もない他人の私でも目の奥が熱くなり、鼻がぐしゅぐしゅと云い出す。震災直後の被災地の状況は書面に活字で表す事が可能な規模ではない。日本国民はもちろん、海外まで映像は発信された。本当にこれが現実なのであろうか？、明日の朝、目が覚めたら日常だった頃の情景がそこに現れるのではないだろうか？多くの人が違がそう感じたに違いない。あまりにも現実離れした光景に言葉が出ない。仕事柄、福島小名浜から岩手山田町までの沿岸部はほとんどの被災地を奔り回った。小名浜では250mの台船が打ち上げられ、国道を塞ぎ、解体作業に入る前のミーツィングの際、「津波が来たらくここに逃げるか？」みんな真顔になって周囲を見渡す。震災前には想像すらできない事だった。岩手山田町では顧客の被災した建物を片付ける場所から10m離れたところに巨大な防波堤が奇妙な形で横たわっている。仕事の性質上からつい重さを考えるのだが、500mなのか800mも有るのか？これを吊り上げるとしたら2000m級のクレーンが2台は必要だろうか？と考えってしまう。一言に、自然の力、と現すにはあまりにも言葉のスケールが小さい。地盤沈下した所の多くの場所は昔は海だった。人間の手によって埋め立てられ、人間の都合で国土を広げ、まるで「海」を返せ！と。言われてる様な気がしてならない。被災地の人たちは内陸に住んでいてもそれぞれの形で被災された人たち。以前のような穏やかな日常が、一日でも早く戻ってくる事を心から願うものがある。

2



# 震災以前の日々を取り戻すまで

田中産業  
阿部 啓司

平成23年3月11日、その日は日本人だけではなく、世界の人も一失われられないだろうと思います。

その日、私は高校を卒業し、春休みということで自宅にいたところ、大地震に襲われました。人生の中でもっとも大きな地震に腰を抜かしてしまいました。幸い、自宅の被害は少なく、沿岸からの距離も遠かったため、樂觀視していました。それから数時間が経ち、携帯電話のワンセグ機能でニュース映像を見た時のあの気持ちは一生忘れられないと思います。

その後、4月1日から入社する予定の会社の工場は大丈夫なのだろうかと思ひ、田中社長から工場の状況や様子を聞いたり、写真を見せてもらい、凄まじい光景を初めて目の当たりにした時のことを、今でもつい昨日のことのように思ひ出します。本来はとても楽しみであるはずの4月1日の入社日が、当時はとても不安だったような気がします。

そして4月1日になり、すぐに被災した荒浜の第二工場、コンクリート破砕工場に向かいました。そこは流れ着いた家や車などで見渡す限りがガレキの山でした。そして、未だに発見されないご行方不明を捜索する方々もいました。世間的には大分落ち着いてきていた4月でしたが、被災地では懸命な捜索活動と復旧作業が続いていました。現場ではガレキの片づけをしながら、被災した住宅から流されてきた写真などの思い出の品を整理していました。その一つ一

つは泥だらけでしたが、持ち主にとっては大切な宝物なんだと思ひながら拾い集めました。

その作業中、被災者の方々が現場に來られて、なくした写真を見つけると笑顔になったり、泣いたりして、それを見ていると、大して役に立たない自分でも少しは人の役に立つことができたのかな思ひました。

今、荒浜周辺の復旧作業は終了しましたが、被災地の方々が震災以前の普通の日々を取り戻すまでが復興活動だと思ひますので、自分も協力していきたいと思ひます。





人の温かさや醜さを体現

鳥羽建設工業

岡崎 哲也

私が道路啓開作業現場に行ったのは3月11日震災から2日後の朝ですが、いつも仕事で通って見慣れたいたその道路周辺は、まったく別の場所の景色となってしまい驚きました。車両や材木などあらゆるゆるガレキが道路を塞ぎ、車両の通行は到底無理でした。

道路啓開の作業開始後、気づくと一本向こうの通りで路上一面に転がる缶ビールを捨てる人達、その一方で住まいがあったと思われる海の方角に手を合わせる老人を横目に、私は複雑な気持ちで作業を進めました。



道路啓開で車両など大きな障害物を撤去する際、もしや車の中や下に行方不明者がおり、機械で一緒に掴んでしまったら申し訳ない…と思い、一時も早く道を通さなければ。いろいろな思いが頭をよぎりました。作業を進めていると午後2時頃に同業者の方が「何も食べてないんだろ」とおにぎり2個とお茶を持ってきてくれました。正直

お腹も空いていたので機械を止めて食べていると、後ろから「急いでいるから早く道をあけろ」と騒ぐ人や、その反対側では食品を倉庫から盗み出す人達など。この震災で私は人の温かさや醜さを見たような気がします。

復旧作業に携わり  
解体作業を誇りに思う

東北黒沢建設工業

佐藤 信弘



3月11日、私は仕事で八幡の現場にいました。重機に乗って仕事をしていると携帯電話の緊急地震速報が鳴ったと思った途端、大きな地震がきました。最初はすぐに治まると思っていたのですが、どんどん強くなり周りにいた作業員さんは立っていられない状態でした。現場作業を中止してニュースを見ると大津波がきていて自分の頭の中では、何が起きているのか理解できませんでした。

家に帰るにも道路が混んでいたことから歩いて帰ったのですが、こんなにも電気がないと道路が暗いのかと思って歩きました。次の日すぐに



仙台市内の現場で復旧作業を行いました。私のいた市内の現場は、地震の影響も少なく三日目ぐらいからはコンピ二も営業していました。それから1ヶ月ぐらいは、復旧作業に携わっていました。私は、港周辺の仕事には行くことができなかったのですが、この復旧作業を経験して思ったことは、解体業をやっている良かったと思います。皆さんの役に立てたし、このような時に一番最初に復旧作業ができるのは私たちだと思います。



## 地元が被災しボランティア活動を



丸 翔

工事部オペレーター 川村 文雄

私は3、11、多賀城市大代の解体現場で重機で土間剥きを行っていた時に、激しい揺れで運転席から脱出できませんでした。隣の幼稚園の窓ガラスや辺りの屋根瓦が落下するなど、身の危険を感じずぐラジオを付け大津波情報を確認しました。その後、社長、班長に電話をかけたのですが地震の影響で電話が混線し連絡が取れませんでした。どうしようか現場で待機しているうち、すぐ前の貞山堀（貞山運河）の底が見えるほど水が引きました。『これはヤバイ！本物だ！』と車で渋滞する中、やむなく一方通行を逆走しながらバックミラーを見ると、「がしゃがしゃと車を巻き込みながら真黒く襲ってくる津波」が迫ってくる中、命からがら事務所へたどり着きました。

自宅は仙台市若林区荒井地区で仙台東部自動車道の西側でしたので津波被害はありませんでした。しかし、この地域の沿岸部は大きな津波被害を受けた地域で、私の地元の被災ということで翌日、胴長を着用し自宅から東側1、5km先にある市農業園芸センターまで1人で行ってみました。

途中、田んぼに流入した海水は自分の腰の高さまでありました。そこには信じがたいことにイルカやアザラシ、スズキが泳いでいました。会社では、安否確認と状況報告を済ませ自宅待機が1週間続きました。近隣では多くの家が地震によって屋根が破損しました。住人は高齢者が多いため、ブルーシートが中々手に入らない中、

会社に保管していたシートを社長の了解をもらい20数棟の屋根をボランティアで応急修理を行いました。社長の配慮に大変感謝しています。地元である深沼地区では80数人の犠牲者が出る中、幼少から可愛がっていたいたいた親代わりの方、釣り仲間、友人や知人20、30人が含まれ本当に残念で仕方ありません。

この体験で、”人の運命はいつどのようになるか分からないものだ”とつくづく感じています。仕事に復帰し、宮城県警の行方不明者の捜索に参加し、仙台市若林区蒲生地区から荒浜地区のカレキを10トトラックで運搬をしていました。処理場までの運搬は最大一日15往復行いました。待機中には地元消防団と共に行方不明者の捜索も行い、最初に犠牲になられたご遺体を発見したのは年配の男性で、津波の影響で遺体が一部損傷するなど悲惨な状態でした。

潮流の関係だと思いますが、一定の場所に多くのご遺体が発見されました。遺体が出た場所には塩で清め、合掌を済ませた後、作業を続けました。作業中、行方不明となったご両親を捜す友人と遭遇し、早く見つけてほしい、と懇願されました。しかし、自分の担当が運搬なので捜索の力になれず、申し訳なく、また、自分の中でもやるせなく辛い思いをしました。

仙台市の損壊建物撤去工事では建物解体のオペレーターを行っています。現場は、屋根半分が落ちているものや未だ解体するには忍びなく勿体ない家屋も多くありました。

解体工事前には近隣に工事着手の挨拶を行いオペレーターとして騒音、ほこりを出さないよう、また、重機のアームを旋回する際には事故を起こさないよう細心の注意を払って行っています。



## 倒壊家屋等の解体、撤去作業に携わって

鳥羽建設工業

大累 正彦

倒壊したブロック塀、一部なくなっている瓦、はがれ落ちた外壁、大きくひび割れた基礎。

建物内部に足を踏み入れると、まもなく違和感が襲う。外観からは気づかなかつたが、建物が傾いている。そして床には「あの時」を刻んだまま止まった掛け時計が落ちている。解体前の立ち会いに向くと、こうした光景が目に入る。

立ち会いは家屋所有者、仙台市より委託を受けたコンサルタント会社の社員、宮城県解体工事業協同組合の担当者、そして解体業者である我々が行い、解体、撤去範囲、ライフラインの切り離し時期、道路、敷地条件から解体方法、そして着手、完了日などを決め、各々が確認する。

着手の数日前に、近隣各戸に工事の挨拶に伺い、「狭くて大変ですわね」、「気を付けてやって下さい」などのねぎらいのお声掛けをいただく。と本当にありがたく感じると同時に、なるべく迷惑にならないようにしなければと強く思う時でもある。

粉塵、振動、騒音などに十分配慮しながら工事を進めて行くものの、苦情があればお詫びに伺い、今後の対策も含めた説明をおこなう、納得していただき、更なる配慮、注意をはらいながら工事を完了させる。

1  
工事が完了すると事前に立ち会った四者が再度立ち会い、解体、撤去などが打ち合わせ通りになされたかどうか確認する。この時、



2  
余儀なくして長年住み続けた家を解体したにも関わらず、家屋所有者に「本当にありがとうございます」、「本当に助かりました」などと、こちらが恐縮するほど何度も深くと頭を下げられ、お礼をいただく。とわれわれの今までの苦勞が報われ、これで復興の一端を担うことができたのかなと感じられる瞬間である。

今後この事業に携わっていくと思うが、復旧、復興には近隣の皆様のご協力が不可欠であると思う。

最後に今までお世話になった近隣の皆様に、この誌面をお借りしお礼を述べたいと思います。「多方面でのご協力誠にありがとうございます。本当に感謝いたします」。

## 大量のガレキをコンクリート破砕工場で行方不明者の捜索

田中産業株式会社  
鎌田 進

平成23年3月11日に発生した大地震で若林区荒浜の第二工場、再生プラント工場に取り残された私たち4人は、予想もしなかった大津波により、会社敷地内「第二工場」の高台で一晩過ごすことになりました。

初めは何が何だか分からず、只々啞然と見ていただけでした。時間が経つにつれ段々と冷静さを取り戻すと家や車、倒木などありとあらゆる物が流されていて、第二工場内は大量のガレキの山となっていました。私たちは次の日の午前10時頃、救出に来てくれた自衛隊の誘導により大量のガレキの山を越えて帰ることができました。ガレキの山を越えている時、「このガレキを撤去するのに何年かかるのだろうか」と正直な気持ちで、想像がつきませんでした。

それから数日経ってから、復旧作業のために社員一同で第二工場に行き、大変な現状を目の当たりにし、言葉が出ませんでした。敷地内では既に重機2台で復旧作業を進めており、早速われわれも会社の重機と手作業によるガレキ撤去に取り掛かりました。

ガレキ撤去は、ガレキの中にプロパンガスや灯油缶のほか、津波で流された行方不明者もいる可能性があるため、慎重に作業を進めなければなりません。私が重機に乗って作業を進めていると、ガレキの一番下から行方不明者が発見されたときは大変驚き、動揺を隠せませんでした。毎日のようにガレキ撤去作業が続く中、行方不明

者が発見された時、最初は悲痛な思いでしたが、慣れとは怖いもので、数日後、淡々と作業を進めている自分がいました。

日が経つにつれ、重機や人が増えて第二工場敷地のガレキ撤去作業がスムーズに運び、半年もかからず全てのガレキが撤去されました。当時はガレキ撤去に何年かかるか想像もできませんでした。みなさんの協力のおかげで再び第二工場の地に足を踏みしめ再開できることができました。

東日本大震災から1年が経った今、第二工場には震災で発生したコンクリートガラが大量に運び込まれています。コンクリートガラを処理することが、私の今の使命だと思い、日々の仕事に励んでいます。







# チームワークで仙台駅を 何としても復旧させる。

東北黒沢建設工業

平間 義弘

1

平成23年3月11日、午後8時、私は元請建設会社から、連絡を受け仙台駅に向かいました。仙台駅に到着し3階の新幹線ホームへ向かいました。ホーム内では鋼製天井が地震の影響で剥がれ落ち、電光掲示板にぶら下がっており、余震でいつ落下してもおかしくない逼迫した状況でした。「どうやって解体したら良いか? 教えてほしい」と助言を求められ、作業方法と必要な道具を選定しました。3月14日、当社と協力会社30人の作業員、他社の作業員を合わせ約150人の作業員が集合しました。各会社の職長が、打ち合わせを行い作業内容を分担し現場へ向かいました。いつ落下するかわからない天井の下で、多くの作業員が障害物を撤去して行きました。私たちは現場まで通う燃料もなく、昼食の弁当もない中で、元請け会社から、おにぎり1個とお茶が支給されました。重労働をした中、支給された食事を「食べようとしなない」作業員が数人いました。体調が悪いと思い「何故、食べないのですか?」と尋ねました。その作業員は「家で家族が何も食べて無いかもしいから、お土産にします。」と言いました。私は当社の社員や協力会社に作業員を要請した事は、本当に良かったのか? 考えさせられました。当社の社員にも、家屋の全壊や奥さんが妊娠している社員も作業に来ていました。その中で、撤去作業は順調に進み、数日後には作業員が500人を超えていました。支給される食料も、震災中とは思えな

2

いほどでした。仙台駅を復旧させるという、一つの目標に向かって、沢山の人たちと作業を通し、関わりあえた事は本当に良かったと思います。震災直後にも関わらず、家の事を手伝わす復旧作業へ快く送り出してくれた家族に感謝したいです。「がんばってね。いつてらっしゃい」今でも、思い出すと涙が出そうになります。

震災で、大切なものを再認識できたと思います。これからあの時の辛さや、感謝の気持ちを忘れることなく、生活していきたいです。

## 行方不明者の捜索で体が震える

昭和羽前建設工業

伊藤 浩

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の被害状況は、テレビの報道で見ていると分かってはいたが、実際に現場に行く想像以上のものがありました。

私の携わった仕事は、ガレキ撤去と行方不明者の捜索でした。自衛隊、警察とグループを組み、宅地内のガレキの山を重機を使って少しずつ重機で掘みながら撤去していきました。

作業中、ガレキの山から車が出てくると作業を中断し、車内に行方不明者がいないか自衛隊と警察が確認していました。私は行方不明者が出ないように祈りながら作業を進めました。

ガレキ撤去が進む中、ガレキの下から行方不明者を発見しました。見つけた瞬間、ドキッとして体が震えました。

私はこのガレキ撤去で2人の遺体を見つけました。この作業に携わっている人は、誰もがつらい思いで作業をしていたと思います。二度とこのような仕事はしたくない。しかし、誰もができる経験ではないので、大変貴重な体験をさせていただきました。

1



## 捜索 警察、消防、自衛隊と共に

鳥羽建設工業

小関 信行

私が震災後、道路啓開作業で仙台市若林区岡田、蒲生、荒浜地内に入ったのは、震災から2週間後でした。

幹線道路だけはガレキ等が撤去されたものの、一步私有地に入ると津波で流された車両や倒木、電柱、タイヤ、家財道具が散乱している状態で、まさしく悪夢としか言いようがありませんでした。

指示された作業現場までには、幹線道路から重機でガレキ等を取り除いて行くありさまでした。作業に当たって自衛隊の方から作業エリア内での指示事項、行方不明者の人数を伺い作業にあたりました。ガレキ撤去、全壊、半壊の家屋を慎重に重機で行方不明者がいないか自衛隊、消防の方々と確認しながらの作業で、いったんガレキを集積し、一日40〜50台のダンプへの積み込みという内容でした。作業日数は2カ月程かかり、日が経つにつれ悪臭、ハ工等で衛生面で劣悪な状況になり大変な作業ではありましたが。

しかしながら、行方不明者の方々を一刻も早く発見してやりたいという気持ちは作業に携われた方々をはじめ警察、消防、自衛隊の方々と同じ使命感を持ってやっています。二度とこのような悲惨な震災がないように願うばかりです。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

1





## 命の尊さを思い知る

田中産業

高橋 明裕

平成23年3月11日、三陸沖を震源とする未曾有の大地震が自社の若林区荒浜の再生コンクリートプラント工場を津波という形で襲いました。社員も被災しましたが、怪我はなく全員が無事でした。大変なのは、それからでした。

自社プラント工場の災害復旧のために現地に向かったものの、辺りは散々たる状況。頭の中は真っ白で、状況がうまく理解できないままプラント工場に着きました。その時の状況は、今でも目に焼きついて離れない凄まじい光景でした。

何をどうしたらいいのか。

何日か前に見た工場の姿からまったくかけ離れたその様子に茫然としました。

まずは、工場内にある無数のガレキを撤去することから始めました。仙台市消防局は、私たちが到着する前から行方不明者の捜索を進めていて、工場内には津波で犠牲になった方のご遺体があることを知らされました。すでに工場内でご遺体が何体か発見されて



2

いることに、私は戸惑いを感じながら、バックホーでガレキの撤去と行方不明者の方々の捜索を開始しました。

私はその時、自社の災害復旧も大事でしたが、正直なところ、「一刻も早く津波の犠牲になられた方々のご遺体を見つけてあげたい、そして家族の元に帰ってあげたい」といって、

という使命感のような感情に駆られながら、復旧作業を進めていました。そして、実際に何体かのご遺体を家族の元に帰すことができました。

その後、私は別の現場に行くことになり、プラント工場を離れましたが、行方不明者の捜索に少しでも携わったことで、命の尊さを思い知らされ、そして多くのことを学びました。

今回の地震と津波で亡くなられた方々のご冥福を全社員でお祈りしています。





# 命の尊さを思い知る

田中産業

高橋 明裕

平成23年3月11日、三陸沖を震源とする未曾有の大地震が自社の若林区荒浜の再生コンクリートプラント工場を津波という形で襲いました。社員も被災しましたが、怪我はなく全員が無事でした。大変なのは、それからでした。

自社プラント工場の災害復旧のために現地に向かったものの、辺りは散々たる状況。頭の中は真っ白で、状況がうまく理解できないままプラント工場に着きました。その時の状況は、今でも目に焼きついて離れない凄まじい光景でした。

何をどうしたらいいのか。何日か前に見た工場の姿からまったくかけ離れたその様子に茫然としました。

まずは、工場内にある無数のガレキを撤去することから始めました。仙台市消防局は、私たちが到着する前から行方不明者の捜索を進めていて、工場内には津波で犠牲になった方のご遺体があることを知らされました。すでに工場内でご遺体が何体か発見されて



いることに、私は戸惑いを感じながら、バックホーでガレキの撤去と行方不明者の方々の捜索を開始しました。

私はその時、自社の災害復旧も大事でしたが、正直なところ、「一刻も早く津波の犠牲になられた方々のご遺体を見つけてあげたい、そして家族の元に帰ってあげたい」という使命感のような感情に駆られながら、復旧作業を進めていました。そして、実際に何体かのご遺体を家族の元に帰すことができました。

その後、私は別の現場に行くことになり、プラント工場を離れましたが、行方不明者の捜索に少しでも携わったことで、命の尊さを思い知らされ、そして多くのことを学びました。

今回の地震と津波で亡くなられた方々のご冥福を全社員でお祈りしています。

## 2





震ると涙をこらえるながら

昭和羽前建設工業

森 広和

私は、地震後の3月13日に仙台港から深沼付近の道路啓開をするために、甘木社長と同僚の高橋直宏君と共に3人でその現場へ向かいました。

最初に消防局の方と共に現地を視察しました。恐ろしくて周りの景色を見たくありませんでしたが、恐る恐る見ると、ここがどこか分からないほど変わり果てた景色になっていました。片側2車線あった道路が泥やガレキに覆われ、原型が分からないほどに潰された車で道路がふさがれていたのです。私は震えと涙をこらえるのがやっとでした。

消防署員の指示により0.7mのバックホーを操縦し、流されてきた車やガレキを道路によせて自衛隊や消防の緊急車両が通行できるように必死で作業に没頭しました。

作業中、消防署員の方によってブルーシートに包まれたご遺体が次々と運ばれていくのを何度も目にし、何度も涙をこらえました。また、作業中に何度も余震があり、津波の恐れがあったため、作業を中断して避難することもありました。作業中は不安と恐怖が何度も頭をよぎりました。

それでも、自衛隊や消防署員、ほかの建設会社の一生懸命な姿に感動し、私もなんとか無事に作業をやり遂げることができました。

このような震災はもう二度と経験したくありませんが、今回のこの経験を活かし、何かあった場合は一目散に現場に駆けつけたいと思います。

不憫で胸が痛む思いで

宮城県解体工事業協同組合

星 忠雄

平成23年5月10日の朝礼で、仙台市環境局の担当者より「昨日、行方不明者の方が水没していた車両の中から発見されました。この地区では、8人の方の行方が分かりません。その中には子どもさんもおります。出来るだけ早く親御さんへお知らせしたい。皆さまのさらなるご協力をお願いいたします。」と協力要請を受けました。地震発生後に解体組合として仙台市より仙台市若林区荒浜、南長沼周辺の行方不明者捜索の委託を受け、全力をあげ重機10台のほかダンプ車両30台以上をフル活動し、作業にあたりました。

ガレキの撤去作業もあせらず慎重に進めましたが、泥とガレキで見分けが難しく、重機オペレーターさんの心労は大変なものでした。現場には常時、警察官と消防署員の方が待機しております。

撤去作業を進めていた時、オペレーターから直ぐ来て確認してほしいとの電話が入り、消防署員の方と現場に駆けつけたところ、行方不明者を発見したのですが、性別も顔も分からない状況です。消防署員の方が体をきれいにしている様子を見てみると不憫で胸が痛くなりました。解体組合の作業は平成23年6月6日で終了しましたが、行方不明者の方を全員発見することは出来ませんでした。改めてご冥福をお祈りいたします。

協力をいただいた業者の方々には本当にご苦労様でした。心より感謝申し上げます。



## 大震災を忘れてはいけない

東北黒澤建設工業

北川 達也

3月11日に起きた東日本大震災で、多くの人が亡くなり大変なことになったと不安と恐怖の思いでした。あとに、私は復興支援でガレキ撤去、人命救助、行方不明者捜索、損壊建物解体と毎日、ただただ忙しく過ぎていく日々の中で、自分は何のために誰のために仕事や支援をしているのだろうと思った時もありました。

自分も被災者なのにと思った時期もありましたが、会社の仲間が震災で亡くなったこと、みんなが被災者だということに、私は日々、解体や分別の仕事をしてきたことを振り返って、自分に出来ることは、誰かのために手助けが出来るから支援をやっているんだと気持ち頑張ろうと思いついてきました。仙台市や解体組合、会社の仲間そして家族と協力しあって出来たことだと、今年が過ぎ、改めて実感しています。

災害復旧では、主に宮城県蒲生地区で他業者、自社の方と毎日打ち合わせを行い仕事に励んで、ときには社長や住民から「毎日頑張っているね」、「ご苦労様」、「助かる」などの言葉をかけて貰うだけで、私はみんなのために役立っているんだと嬉しく思いました。私が担当した工場内のガレキ撤去の場所に2階建ての民家の半分だけが津波で流れ込んでいました。3日後ぐらいに10代ぐらいの1人の女の子が「私の家なんです」と泣きながら訪ねて来ました。私は重機を止め、仲間の作業員と一緒に女の子の手を取り大切なものを家の中まで取りに行きました。ほんの少しの大切なものが残って

1

2

良かったねと言ったら、女の子はありがとうと言って帰りました。私は身近に辛い思いをしている人が居ても涙が出そうになりましたが、まだまだこの先、続いていくガレキ撤去、復興支援、そして今までとおりの解体の仕事。これからもと誰かのために自分のために何が出来るのか、何をするのかを考えながら頑張っていくしたいと思います。

この東日本大震災が起きたことを忘れてはいけないと感じました。





## 家族の元へ帰してあげたい一心で

田中産業

津藤 和総

私は、東日本大震災で被災した仙台市若林区荒浜にある自社の第二工場の復旧作業に行くことになりました。

第二工場に着き、私は言葉を失いました。多数の自動車や住宅、お寺までもが再生コンクリートプラント工場、第二工場の中に流されて来ており、工場はガレキで覆いつくされていました。

私の作業は、行方不明者を捜索しながら、ガレキで埋もれている重機の脱出とプラントを復旧させることでした。ガレキの集積は行方不明者の方々の捜索を最優先して作業を進めました。私は正直なところ、『遺体は見たくない。自分の作業している所からは出てきてほしくない』という気持ちで作業をしていました。

しばらく作業を続けていると、ガレキの中から『マネキン』の下半身のようなものが見えたので、消防局に確認してもらいました。その時、現場に「ストップ！作業ストップ！」と大声が掛りました。

それは行方不明者でした。私は、自然と涙がこぼれました。その下半身は、私の子供と同じ位の大きさだったのです。遺体の移動が完了し、消防隊の人に「ありがとうございます。作業を続けてください」と声を掛けられた時、私の気持ちが変わりました。『遺体は見たくない』と思いながら作業していた自分が恥ずかしくなりました。その時から私は、『ガレキの中にいる人を家族の元に帰してあげるんだ』という気持ちになりました。

私が作業をしていた場所からは数人、工場内からは百人を超える

2



ご遺体が発見されました。ものすごく最悪な現実です。しかし、この震災を忘れてはいけません。この震災で学んだ多くのことを忘れず、これから生きていきたいと思えます。



## 頭上から天井材や壁が落下

高田商店

工藤 茂昭

3月11日14時46分 穏やかな日常を何の前ぶれもなく突如襲われたあの日、自分の目に映った光景を忘れません。

「大規模な災害に見舞われたあの日、自分一人で何が出来たでしょうか？」

地震発生時、私は名取市において工場内の解体工事現場で代理人として室内工事作業を行っていました。

初めは、あー地震だと感じ数秒後、私の携帯に緊急地震速報が鳴り響き、やはりと心で感じた瞬間、立っていることすらできないくらい揺れが襲ってきました。

私は今までに体験したことのない揺れと恐怖の中、作業員の安否が心配になり、なんとか外に出ようと必死でした。

足がもつれ体全体が震える中、無我夢中でした。ふと後ろの方から「バキバキ、ドーン」と音が鳴り響き、振り返ると天井材やら脇の外壁など床に落下し、私の頭上にも次々と落ちてきました。

すべての天井材が落ちるのを確認し裏口から外へ出る事ができ、私は周りを見渡すと工場内にいた従業員の方達が寄り添い悲鳴が工



2

場全体に響いていました。

一向に揺れがおさまらない中、正面へと作業員の安否確認をする為必死に走りまわりました。向かう途中揺れがおさまっていたのが、後から気付きました。正直、地震の揺れは、数分間でしたが私が感じていた揺れは数十分間以上の体感でした。

作業員全員はガス切断作業中でしたが、地震と同時に外へと非難し緊急時避難場所に集まって私が居ないことを心配していました。皆の顔を見て安心しているのもつかの間、強い余震が何度も繰り返すように襲いこの先の不安と家に残してきた家族の事が心配で何度も連絡を取ろうと試しましたが電話は繋りませんでした。そこでメールだったらいけると思い送り家族は全員無事と知りました。

この地震で沢山の犠牲者と生まれ育った故郷を失くされた方が大勢います。今私が出来たことは、一日も早く地震前と変わらない生活が出来よう復旧、復興に少しでも力になれるよう建設業界に勤務する一人として支援できればと思います。





今できること

その使命を全うしたい

鳥羽建設工業

市川 健

3月11日の東日本大震災から7年が過ぎ、現在も復旧・復興作業が進められている。

当時を振り返ると、地震による建物の倒壊、津波による変わり果てた沿岸部の街並み、どこを見ても漂着物が散乱した光景が、今はだいぶ片づいている。一日一日見るたび、徐々に変わっていく光景を見て、改めて人の力は未知数だと感じた。

私たち解体業は、地震の直後から、さまざまな所で活動している。消防からの要請を受け、ガレキで通れなくなった道路の啓開を行い、また自衛隊のサポートに入り協力し、毎日休む日もなく活動してきた。当時を思うとどれくらいの間がかかり片づくのかと日々感じていたが、今こうして気づいてみると、ここまで頑張ってきた結果が今の光景、また今の自分が居るのかなと思う。

それから瞬く間に仙台市の損壊家屋の業務委託が始まり、今現在も数多くの解体工事を施工している。危険度が高い建物の工事も多くあり、その都度、作業計画や施工検討を立て、作業に取り組んでいる。この地震の影響で、解体工事の件数が増加したことに伴い、それに比例してくるのが労働災害である。復旧、復興へ向けた解体工事もまだまだ続くものと思われるが、労働災害を未然に防ぐこともおおきな課題だと思う。災害はどれも似たような条件が多く、簡易な作業ほど事故が多く見られる。手順さえしっかり守り作業を行

2

えば、どれも防げることはかりだと思えます。慣れという感覚から初心に戻り一つ一つやりこなせば未然に防ぐことができ、実際作業をする作業員全てに様々な安全に関する指導および教育が周知できるように取り組んでいきます。

あの震災では、たくさんの犠牲者が出た中、今こうして生きている自分は何かの使命、役割があると思っています。自分にできること、その使命を全うし、日々自分自身に言い聞かせ、一日でも早く、復旧、復興へ向け進めればと思う。毎日同じような繰り返しですが、今こうして携わっていることを誇りに思っています。



依頼者の気持ちに  
精一杯配慮しながら

田中産業  
齋藤 義行

平成23年3月11日午後2時46分、東日本大震災が発生した時、私は宮城県白石市の現場で仕事をしていました。

大地震後、信号が停止して渋滞している道路を4時間かけて会社へと戻り、そして帰宅しました。自宅に着き、子供たちの元気な姿を見てやっと安心できました。その後、会社と連絡を取り、安否確認をしながら、仕事が再開できることを待つていました。



1  
仕事再開してからの私の現場は、若林区荒浜の自社第二工場の後片付けと地震、津波で損壊し解体を余儀なくされた家屋の解体でした。仙台市から解体を依頼された家屋は、屋根瓦が落ち、基礎は傾き、外壁が崩れ、中にはリフォームをしたばかりの家もありました。住居を解体した後に、居住者の方々から私は感謝の言葉を掛けられた

時には、その家族の心境に複雑な気持ちになりました。今まで解体の仕事に携わってきてこんな気持ちになったのは初めてでした。地震後、世間では『自分が今できること』という言葉をよく耳にしました。私は解体を仕事にしています。大震災から長い時間が過ぎましたが、まだまだ解体する建物が残っています。解体を決めた方々が、また同じ場所で生活できるか分かりませんが、余儀なくして住まいを解体しなければならなくなった居住者の方がたの気持ちを少しでも理解し依頼された解体作業をしようと思います。

千年に一度の大震災で、親族や後輩など私の周囲でも多くの人が被災しましたが、自分たちが今できることを精一杯やり、一目も早く復興できるように私も協力していきたいと思っています。

2





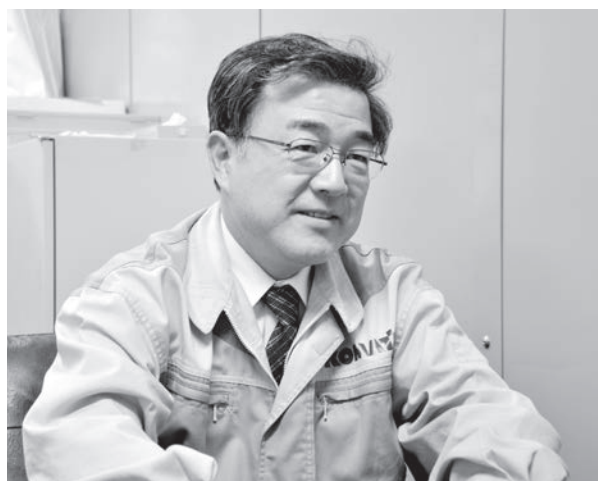
# 東北オペレーション室で対応

コマツ建機販売 東北カンパニー

仙台支店 大澤 康男

―地震発生時は何をされていましたか。

その時は事務所において、土日に行われる中古車展示会の会場設営の作業中でした。ちょうど中古機械のセッティング中でしたが、最初は地震の揺れとは気付かず、運転している機械の調子が悪いんじゃないかと思いました。しかし、事務所社屋の方を見ると激しい揺れで建物の窓ガラスが割れ、その破片が事務所前に止められた車の上にバラバラと落ちてきました。中にはボンネットにガラス片が突き刺さっている車もありました。



―地震後どのようにされましたか。

まずは社員の安否確認を行い、仙台支店全員の無事を確認しました。その後、仙台港で火災が発生して煙が上がってきたのが見えませんでしたので、すぐ全員を帰宅させました。数日間の自宅待機後は事務所内が地震の

## 2

揺れで壁やキャビネットから落下してきたものなどで散乱していったので、その整理整頓に追われました。しかし、4月7日に発生した大きな余震によって、3月の地震で被害を受けた事務所の建物がさらにダメージを受け、危険建物と判断し社員の安全を確保するため事務所の出入りを禁止しました。

―震災直後から復旧活動が進められました。建機を扱う企業としての役割も大きいですね。

そうですね。しかし、敷地内にある整備工場も被災し、当時は通常業務に当たれませんでした。ですが、この震災でどうしても必要とされるお客様がいらっしゃいますので、テントを張ったその下で津波で塩を被った機械などのメンテナンスを行いました。いつもとは違う状況での作業となりますので、その時は担当社員には事故を起こさないよう、いつも以上に安全作業を徹底させました。震災2ヶ月後の5月には東北オペレーション室というお客様専用窓口を開設し、ユーザーからの要望に応えられるよう務めました。

―震災からの復興事業が本格化してきました。

震災から7年が経過し、ようやく新社屋と倉庫をオープンすることができました。そこでしっかりとメンテナンス業務に当たることができるようになりました。われわれのできることは建機の販売とメンテナンスを通して震災復興を応援することしかありません。震災復旧工事に携わっている宮解組の皆さんの作業が滞らないように気を配りながら、お役に立ちたいと思っています。



忘れ物は忘れたままでいい  
とにかく逃げろ

ワキタ仙台支店  
支店長 星 春男

―発災時の状況を教えてください。

事務所は仙台市宮城野区蒲生にあるのですが、地震が起きたのは、その事務所の2階で営業会議を開いている時でした。とっさにテーブルの下に隠れましたが、地震の激しい揺れで会議室の窓が割れたり、間仕切壁が倒れ掛かってきたり、大変な状況でしたので、隙を見て1階に逃げました。

―津波が来るのを知ったのは？

ちょうど事務所内にいた運送屋の方が10mの津波が来るということラジオで聞いたらしく、そのことを私たちに知らせてくれました。



これまでの地震でも津波警報は出しましたが、実際に来たのは数十cm程度でしたので、『10mの津波が来る』と言われても『本当に来るの？』と半信半疑でした。その運送屋の方によると外では地割れが起こり、そこから海水が噴出していたそうです。その話を聞いて『津波は本当に来る』と感じました。

―避難はどのようにされましたか。

全社員が車4台に分散して乗り、避難場所は「海と川の近くだけは避けよう」とだけ念を押し、後は各車の判断に任せました。車は近くの高砂中学校、仙台市中心部、宮城郡利府町にそれぞれ避難したのですが、帰宅しようと多賀城市方面に向かった1台が津波に遭ってしまいました。その車に乗っていたのは当時1人だったので、多賀城市のバチンコひまわり付近で津波の第一波を受け、車が自動販売機の上に乗ってしまい、身動きが取れなくなってしまったそうです。海水は首まで来たようですが命は助かり、車から救出されたのは地震の翌日でした。

―会社の被害状況はいかがでしたか。

社員の安否確認はすぐにできました。しかし、周辺の工場で火災が発生していきまして、津波で流された機械がそれと一緒に燃えていました。建物も残っていたのは骨組みだけです。被害額が建物で2億5000万円、機械も購入ベースで5億円位でしたので、その処理に大変つらい思いをしました(泣)。

―事務所が海のそばにあります。当時の状況は凄惨だったのでは？

地震翌日に事務所の被害状況を見に行きました。その途中、津波に飲まれて亡くなった方が乗ったままの車がまだたくさんありました。そのうちに自衛隊や警察の方が車の中を確認しに来て、『〇』とか『×』とかマークを車に付けていました。事務所の前に側溝が



ありますが、そこからも約50人位の犠牲者が発見されたそうです。また、近くに鯉やうなぎを養殖する池がありまして、そこからもかなりの方が発見されています。大震災以前までは、この辺の避難場所にはJFEの体育館が指定されていて、そこに逃げた方々が犠牲になったかと思われまます。

―営業再開まで、いろいろご苦労されたのでは？

仙台支店の機能は、本社が所有する仙台市青葉区五橋のビルに一時的に移転しました。昨年7月位までは後片付けや被災した機械の引き揚げなどに忙殺されましたね。宮城県大崎市に営業所がありますので、機械出しなどメイン業務はそちらでカバーしました。津波を受けましたが、土地や建物を無駄にはできませんので、現地での再建を決め、昨年10月に元の場所で営業再開できました。震災特需もあり、昨年の売り上げはおかげ様で2倍以上になりましたが、津波被害を受けた社屋や倉庫、機械分の損害もありますから、状況は厳しいですね（苦笑）。

―大震災を経験して防災に対する意識は変わりましたか。

防災用具を社員一人ずつに配りました。また、今回の津波では忘れ物を取りに戻ってそのまま犠牲になった方が沢山おりましたので、『忘れ物は忘れたままでいいから、とにかく逃げろ』と社員には言っています。それから、今後はそれぞれ避難するのではなく、避難場所を1カ所に決めようと考えています。とにかく、私たちはたまたま運よく生き残っただけです。こういう災害はもうたくさんですね。

完成した社屋



## 年一回の防災訓練が必要

中外機工 建設部

取締役営業部長 千葉 昌紀



3、11その時、私は営業で東二番丁通りのSS30前の交差点で信号待ちしているときでした。揺れ方があまりにも強かったので、ドアを開け車からいったん降りたんです

すが怖くなって、また戻りました。今まで体験したことのない物凄い地響音でした。周りを見ても皆、車に乗ったままの状況でした。もしかするとSS30が潰れるのではないかと思ったほどですから。昭和53年に発生した宮城県沖地震よりもはるかに強いなと感じました。カーラジオからの情報ではすぐに津波が来ると流れており、所要で若林区河原町に向かっていますでしたが、周辺はビルから落下したガラスの破片が落ちていているなど、ひどい状況でしたので、これはダメだと判断し裏通りを通過して若林区卸町にある本社へ戻りました。

本社に戻り、幸い人的な被害はなかったのですが、一番心配したのは多賀城市栄にある当社の整備工場でした。そこらは工場入口に津波で流されてきたタンクローリーが2台、中に3台あったほか材木とか、近くの工場のがスボンベなどたくさん流入していました。また、敷地内に駐車してあった社用車や従業員の自家用車など20数台が全滅状態でした。

津波は地震後40分ぐらいで襲来したと聞いております。7階事務所所の天井付近まで来たということですから約2メートルぐらいの高さでしょう。とにかくすぐ避難しろと工場長が陣頭指揮を取り指

定避難所の多賀城ジャスコに歩いて逃げ、そこで一夜を明かしたと

いうことです。整備工場には、お得意先から修理を依頼された重機などのほか、工場の検査機器や自社のクローラークレーン、発電機、フォークリフトなどが相当数水没し、被害額も甚大でした。また、ストックしていた重機などに使用する油脂関係が流出しました。

私は、3月14日に整備工場に向かったのですが、車では現地に入れなかったことからJR多賀城駅に車を置き、長靴に履きかえ歩いて向かったところ、途中、見慣れた風景が全く変わっているし、臭いもすごく相当ひどい状況でした。地震当日にワンセグで仙台空港周辺の状況は見ておりましたが、多賀城もこんなにひどいとは思っていませんでしたから愕然としました。本社も整備工場も建物が大規模半壊の状況でしたので、本社は被災後雨漏り等もひどくなり解体し、工場敷地内にあった空き建物を改修し本社事務所として、また工場は改修し使用しています。建物などへの被害はありましたが、人的被害がなくホットしているところでは、工場敷地内には外部から流されてきた大量の車やガレキなどありましたので、7日でも早く再開しようと社長から方針が出され、本社、工場の社員のほか古川支店や盛岡支店からも応援をもらい集中的に作業にあたり約3ヵ月ぐらいで片づけ、5月下旬から一部営業再開にこぎつけましたが、まだ電気は復旧していませんでしたから、通常営業に戻ったのは7月頃でした。

この工場周辺では比較的早く再開したほうだと思いますが、今回の震災を体験し、災害はいつ起きるか分かりません。常日頃から避難場所、方法などを含めたマニュアルを作成し、年7回は避難訓練等を行わなければならないと改めて実感いたしました。





敷地内にガレキが堆積



敷地内に車やガレキが流入





# 全国的にも

東日本大震災で「全壊」判定となつて入居者が全員退去した仙台市宮城野区のスニーハイツ高砂（14階、189戸）が仙台市に解体を申請したため、当組合が仙台市から2011年11月に解体・撤去の業務委託を受け施工を担当しました。

スニーハイツは1976年に完成した分譲マンション。南北L字型に並ぶ2棟からなる。2011年3月11日の大地震と4月7日の余震でA棟（南側）とB棟（北側）が剥離し大きく南側に傾斜。両棟の間隔は1階で25cm、上階に行くほど広がり屋上で113cmが傾き、構造体や外壁・建物全体が大きな損壊を受けました。

倒壊防止のため荷重をかけることが出来なため14～8階までスラブや壁をコアドリルで吊り孔を穿孔。その後、ワイヤーソーで切断した7～8tの壁、床を400tクレーンで吊り落とす作業を繰り返します。その後、7階の地上までとB棟（北側）と並行して重機解体します。

多くのマンションが修繕の方向で進む中、スニーハイツは震災後、住民全員が退去したため、南側に隣接するマンション住民から「倒壊の危険があるので早く解体してほしい」との要請を受け、管理組合も早急な対応を迫られていたが、修繕するにも地盤改良などが必要で費用が高んでしまう。スニーハイツ管理組合では余震による二次災

害を懸念し2011年8月に仙台市に解体の申請を行った。地震によってマンションが損壊し、解体するという全国でも非常に珍しいケースとなった。



東側からみるスニーハイツ高砂

# 非常に珍しい

倒壊防止のため荷重をかけることが出来なため14～8階までスラブや壁をコアドリルで吊り孔を穿孔。その後、ワイヤーソーで切断した7～8tの壁、床を400tクレーンで吊り落とす作業を繰り返します。その後、7階の地上までとB棟（北側）と並行して重機解体します。



工事安全祈願(写真右端・甘木副理事長)

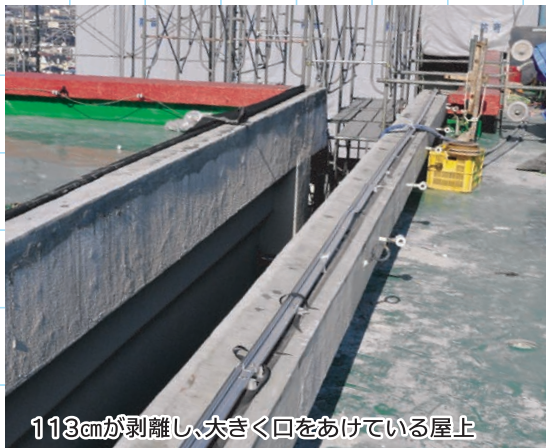
業を繰り返します。その後、7階の地上までとB棟（北側）と並行して重機解体します。工期は2011年12月～2012年10月31日。



A棟(右・南側)が剥離したため、鉄骨とワイヤーでB棟(左・北側)と結束し応急の倒壊防止を施す(写真中央部が結束部)



結束用鉄骨とワイヤー



113cmが剥離し、大きく口を空けている屋上



剥離したベランダから一階の駐車場の車を覗くことができる(写真中央下)

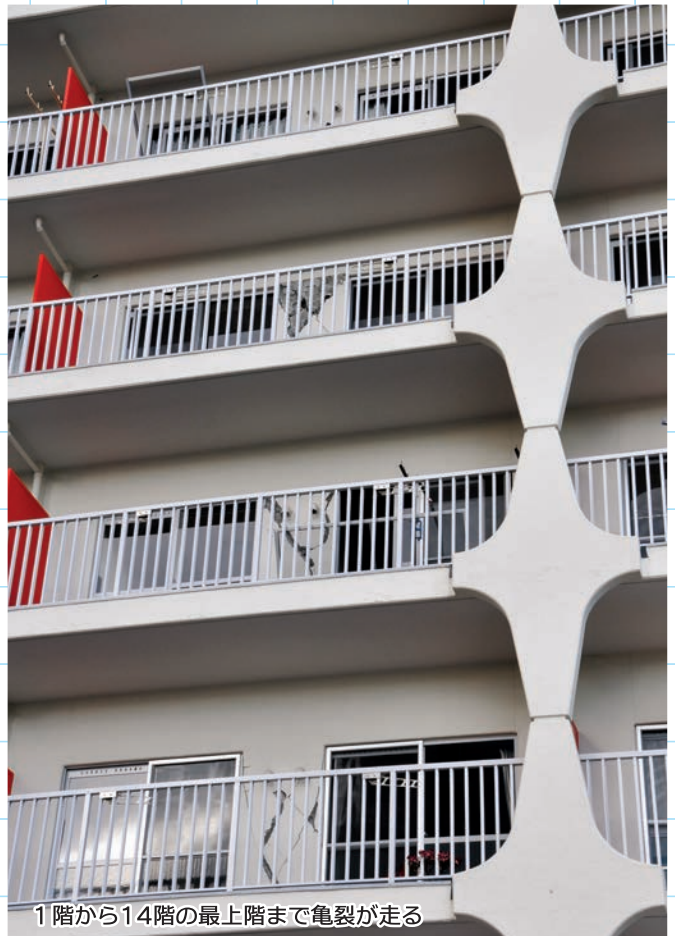




開口部が大きく破損



地震で玄関が地割れ



1階から14階の最上階まで亀裂が走る



最上階天井部分の配管が落下



各部屋の壁が大きく破損



## ■サニーハイツ高砂解体工事スケジュール

工 事 名	業務履行計画表																																																			
	工期 自 平成23年12月21日～平成24年10月31日																																																			
工事名称・損壊家屋(願出番号 NO.1869 サニーハイツ高砂)解体、撤去処理業務委託																																																				
月・日	12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			11月																		
項目	12	18	26	31	5	10	15	20	25	31	5	10	15	20	25	31	5	10	15	20	25	31	5	10	15	20	25	31	5	10	15	20	25	31	5	10	15	20	25	31	5	10	15	20	25	31	5	10	15	20	25	31
準備工事、仮囲い等	●	●	●	●																																																
転倒防止工事																																																				
機材搬入等					●	●	●	●	●	●																																										
付帯建物等解体					●	●	●	●	●	●																																										
整地、片付け等																																																				
A棟 外部足場											●	●	●	●	●	●																																				
内装解体											●	●	●	●	●	●																																				
PH等解体(ワイヤー主体)																	●	●	●	●	●	●																														
TSサポート																	●	●	●	●	●	●																														
ワイヤー解体																	●	●	●	●	●	●																														
下階重機解体																																																				
B棟 外部足場																																																				
内装解体																																																				
重量サポート																																																				
階上解体																																																				
下階重機解体																																																				

※天候及びその他状況により変更が有る場合は別途協議とさせていただきます。

宮城県解体工事業協同組合



作業半径36m、高さ39.5mをカバーできる400t大型クレーンを導入



ワイヤーソーイングで切断された壁をクレーンで落とす



視察に訪れた仙台市環境局と仙台建設業協会(2012年7月)



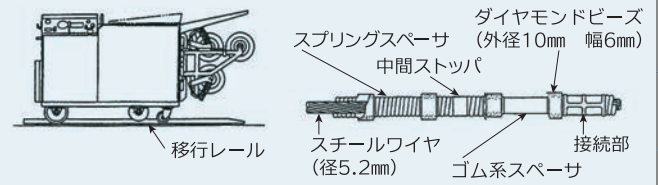


屋上床に穴をあける削孔工事



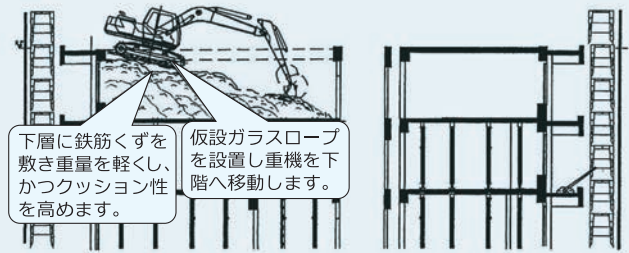
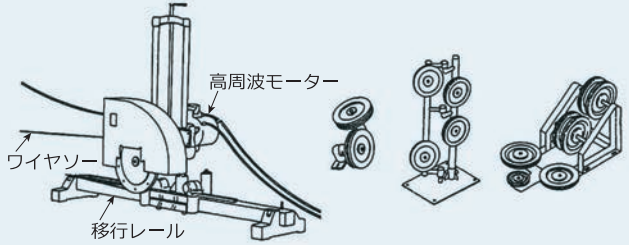
■ワイヤソーイング(セパレート型)

■ワイヤソー



■ワイヤソーイング(一体型)

■ガイドプーリ



仮設ガラスロープを作り下階へ解体機を移動。



重機による階止解体



仙台市損壊建物業務委託物件

学校法人

# 朝鮮学園解体工事

仙台市太白区八木山



校舎全景(解体着工前RC造)





寄宿舎全景(解体着工前)



解体施工



2階部分内装解体



1階部分内装解体



解体施工



仙台市損壊建物業務委託物件

損壊建物解体工事

# 社屋・倉庫解体工事

仙台市宮城野区

(S造)



事務所、倉庫全景







建物全景・S造(仙台石宮城野区)





# 仙台市損壊建物業務委託物件

## 損壊建物業務委託物件

# 仙台市住宅

仙台市青葉区

(W造)



地滑りで傾斜した家屋



分別及び積込



散水及び上屋解体工事



基礎部分解体



上屋解体完了



仙台市損壊建物業務委託物件

損壊建物解体工事

# 一般住宅解体工事

仙台市内

(S造)





仙台市損壊建物業務委託物件

損壊建物解体工事

一般住宅

仙台市内

(W造)





仙台市損壊建物業務委託物件

損壊建物解体工事

一般住宅

仙台市内

(W造)





仙台市損壊建物業務委託物件

損壊建物解体工事

一般住宅

仙台市内

(W造)





# 躍進

| 第18号 |

## CONTENTS

表紙 サニーハイツ高砂

カラーグラビア…1～15  
東日本大震災写真

あいさつ…20～22  
宮城県解体工事業協同組合 理事長 佐藤正之

〈対談〉 仙台市の損壊建物解体・撤去について…25～28  
仙台市環境局 萱場道夫氏・佐藤理事長

〈座談会〉 東日本大震災の道路啓開・消火協力について…30～35  
仙台市消防局・組合

みやぎ東西南北…36～37

事務局だより…38～47

産業廃棄物処理場一覧…48～49

施工者資格者一覧…51

活動実績…52～55

東日本大震災証言…56～99

解体施工現場紹介…100～112

絆

23

その時

3.11  
:  
54

写真のご提供いただき大変ありがとうございました。

■仙台市 ■仙台市消防局 ■宮城県 ■宮城県警

本書の無断複製(コピー、スキャン、デジタル化等)は著作権法上での例外を除き禁じられています。

### 宮城県解体工事業協同組合 会報『躍進』第18号

発行／宮城県解体工事業協同組合

事務局／〒983-0833 仙台市宮城野区東仙台4-2-76(渥美ビル300号)

Tel.022-292-3455 Fax.022-292-3470

編集協力／株式会社 建設新聞社

平成24年9月発行

\*当広報誌は資源保護のため、再生紙を使用しています。



全国の皆様ありがとうございます

平成24年度 宮城県解体工事業協同組合 組合員一同

 **宮城県解体工事業協同組合**

宮城県解体工事業協同組合 認証 

<http://kaitaigyo-kumiai.ftw.jp/>